

3G対応 シグナルモニター&ビューワー

SMV-70H

SIGNAL MONITOR & VIEWER

取扱説明書

このたびは、ビデオトロン製品をお買い上げいただきありがとうございました。
安全に正しくお使いいただくため、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。

この製品を安全にご使用いただくために



警告

誤った取扱いをすると死亡または重傷、火災など重大な結果を招く恐れがあります。

1) 電源プラグ、コードは

- ・ 定格で定められた電源以外は使用しないでください。
- ・ 差込みは確実に。ほこりの付着やゆるみは危険です。
- ・ 濡れた手でプラグの抜き差しを行わないでください。
- ・ 抜き差しは必ずプラグを持って行ってください。コードを持って引っ張らないでください。
- ・ 電源コードは巻かずに、伸ばして使用してください。
- ・ 電源コードの上に重い物を載せないでください。
- ・ 機械の取り外しや清掃時等は必ず機械の電源スイッチを OFF にし、電源プラグを抜いてから行ってください。

2) 本体が熱くなったら、焦げ臭いにおいがしたら

- ・ すぐに電源スイッチを切ってください。電源スイッチのない機械の場合は、電源プラグを抜くなどして電源の供給を停止してください。機械の保護回路により電源が切れた場合、あるいはブザー等による警報がある場合にもすぐに電源スイッチを切るか、電源プラグを抜いてください。
- ・ 空調設備を確認してください。
- ・ しばらくの間機械に触れないでください。冷却ファンの停止などにより異常発熱している場合があります。
- ・ 機械の通風孔をふさぐような設置をしないでください。熱がこもり異常発熱の原因になります。
- ・ 消火器の設置をお勧めします。緊急の場合に取り扱えるようにしてください。

3) 修理等は、弊社サービスにお任せください

- ・ 感電・故障・発火・異常発熱などの原因になりますので、弊社サービスマン以外は分解・修理などを行わないでください。
- ・ 故障の場合は、弊社 サポートセンターへご連絡ください。

4) その他

- ・ 長期に渡ってご使用にならない時は電源スイッチを切り、安全のため電源プラグを抜いてください。
- ・ 質量のある機械は一人で持たず、複数人でしっかりと持ってください。転倒や機械の落下によりけがの原因になります。
- ・ 冷却ファンが回っている時はファンに触れないでください。ファン交換などは必ず電源を切り、停止していることを確かめてから行ってください。
- ・ 車載して使用する場合は、より確実に固定してください。転倒し、けがの原因になります。
- ・ ラックマウントおよびラックの固定はしっかりと行ってください。地震などの災害時に危険です。
- ・ 機械内部に異物が入らないようにしてください。感電・故障・発火の原因になります。



注意

誤った取扱いをすると機械や財産の損害など重大な結果を招く恐れがあります。

1) 機械の持ち運びに注意してください

- ・落下等による衝撃は機械の故障の原因になります。
また、足元に落としたりしますとけがの原因になります。

2) 外部記憶メディア対応の製品では

- ・規格に合わないメディアの使用はドライブ・コネクタの故障の原因になります。
マニュアルに記載されている規格の製品をご使用ください。
- ・強い磁場がかかる場所に置いたり近づけたりしないでください。内部データに影響を及ぼす場合があります。
- ・湿気やほこりの多い場所での使用は避けてください。故障の原因になります。
- ・大切なデータはバックアップを取ることをおすすめします。

● 定期的なお手入れをおすすめします

- ・ほこりや異物等の浸入により接触不良や部品の故障が発生します。
- ・お手入れの際は必ず電源を切り、電源プラグを抜いてから行ってください。
また、電解コンデンサー、バッテリー他、長期使用劣化部品等は事故の原因につながります。
安心してご使用していただくために定期的な(5年に一度)オーバーホール点検をおすすめします。
期間、費用等につきましては弊社 サポートセンターまでお問い合わせください。

※上記現象以外でも故障かなと思われた場合やご不明な点がありましたら、弊社 サポートセンターまでご連絡ください。

保証規定

① 本製品の保証期間は、お買い上げ日より1年間とさせていただきます。

なお、保証期間内であっても次の項目に該当する場合は有償修理となります。

- (1) ご利用者様での、輸送、移動、落下時に生じた製品破損、損傷、不具合。
- (2) 適切でない取り扱いにより生じた製品破損、損傷、不具合。
- (3) 火災、天災、設備異常、供給電圧の異常、不適切な信号入力などにより生じた破損、損傷、不具合。
- (4) 当社製品以外の機器が起因して当社製品に生じた破損、損傷、不具合。
- (5) 当社以外で修理、調整、改造が行われている場合、またその結果生じた破損、損傷、不具合。

② 保証は日本国内においてのみ有効です。【This Warranty is valid only in Japan.】

③ 修理責任免責事項について

当社の製品におきまして、有償無償期間に関わらず出来る限りご依頼に沿える修理対応を旨としておりますが、以下の項目に該当する場合はやむをえず修理対応をお断りさせていただく場合がございます。

- (1) 生産終了より7年以上経過した製品、及び製造から10年以上経過し、機器の信頼性が著しく低下した製品。
- (2) 交換の必要な保守部品が製造中止により入手不可能となり在庫もない場合。
- (3) 修理費の総額が製品価格を上回る場合。
- (4) 落雷、火災、水害、冠水、天災などによる破損、損傷で、修理後の恒久的な信頼性を保証出来ない場合。

④ アプリケーションソフトについて

- (1) 製品に付属しているアプリケーションは、上記規定に準じます。
- (2) アプリケーション単体で販売している場合は、販売終了より3年経過した時点で、サポートを終了いたします。

※紙の保証書は廃止し、製品のシリアル番号で保証期間内外の判断をさせていただいております。

何卒、ご理解の程よろしくお願いたします。

この製品を安全にご使用いただくために.....	I
保証規定.....	III
1. 概 説.....	1
2. 機能チェックと筐体への取り付け.....	2
1. 構 成.....	2
2. 筐体への取り付け.....	3
3. 機能チェック接続.....	3
4. POWER ON までの手順.....	3
5. 基本動作チェック.....	3
3. 各部の名称と働き.....	4
1. メインモジュール／コネクターモジュール.....	4
4. 操作方法.....	7
1. 基本操作.....	7
2. メニューツリー.....	8
3. 各機能の説明.....	29
(1) ERROR LOG.....	29
(2) LOG FILTER.....	32
(3) ERROR DETECT.....	34
(4) PRESET.....	38
(5) GPI.....	45
(6) SYSTEM.....	49
(7) CONFIG.....	51
(8) INFORMATION.....	61
(9) MAINTENANCE.....	63
4. ログのダウンロード.....	67
5. 設定ファイルのダウンロード、アップロード.....	67
5. エラー検出について.....	68
1. SDI SIGNAL.....	68
2. TRS.....	68
3. LINE NUMBER.....	68
4. CRC Y.....	68
5. CRC C.....	68
6. LINE LENGTH.....	69
7. FIELD LENGTH.....	69
8. RESERVED DATA.....	69
9. ANC PARITY.....	69
10. ANC CHECKSUM.....	69
11. BCH.....	70
12. AUDIO PACKET.....	70
13. NO AUDIO PACKET.....	70
14. MUTE.....	70
15. BLACK.....	70
16. FREEZE.....	71
17. BLUE.....	71

18. COMPARE	71
19. STILL.....	74
20. ASYNC	76
6. 外部インターフェース.....	77
1. GPI 端子	77
7. SNMP.....	78
8. トラブルシューティング.....	99
9. 仕様.....	100
1. 機能.....	100
2. 定格.....	101
3. 性能.....	101
10. その他.....	102
1. 出荷時設定に戻す	102
2. GENLOCK PHASE 設定	102
11. ブロック図	103

1. 概説

SMV-70Hは4系統のSDI信号の映像を1台のモニター上に4分割して表示する装置です。SDI信号は3G-SDI(Level-A)、HD-SDI信号に対応しており、各SDI入力にはエラー監視機能を持っています。表示画面には、エラー検知、音声レベルメーター、ON AIR/NEXTタリーなどの表示が可能です。

《特長》

- 3G-SDI(Level-A)、HD-SDI信号に対応
- 4系統のSDI入力の映像を4分割、シーケンシャル表示
- 各SDI入力は非同期入力に対応
- 4系統のエラー監視機能 ※1
- ログの閲覧、ダウンロードが可能
- 音声レベルメーターの表示
- タイムコードの表示
- NET-Q情報の表示 ※2
- 信号名の漢字表示 ※3
- 内部時計(NTP同期)による時計表示
- 外部接点によるON AIR / NEXTタリー表示

※1 3G-SDI信号でのご使用時には、信号検出項目のSTILLが使用できません。

※2 カレント映像モードとカレント音声モードを表示します。

※3 漢字によっては正しく表示ができない場合がございますので、実際に入力をして表示をご確認ください。

2. 機能チェックと筐体への取り付け

1. 構成

(1) SMV-70H 本体

番号	品名	型名・規格	数量	記事
1	メインモジュール	SMV-70H	1	
2	コネクタモジュール		1	
3	取扱説明書		1	本書

①メインモジュール

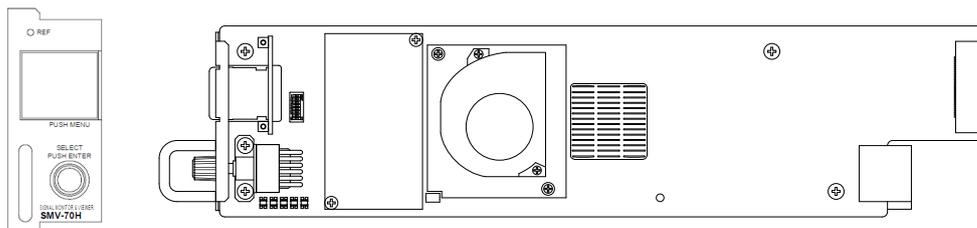


図2-1 メインモジュール外観図

②コネクタモジュール

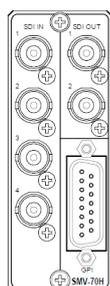


図2-2 コネクタモジュール外観図

(2) SMV-70H-01 GPIO拡張ケーブル(将来対応オプション)

番号	品名	型名・規格	数量	記事
1	GPIO 拡張ケーブル (15cm)	SMV-70H-01	1本	GPIO 接点を拡張するI/Fケーブルです。 各16本の接点入力と接点出力を行います。

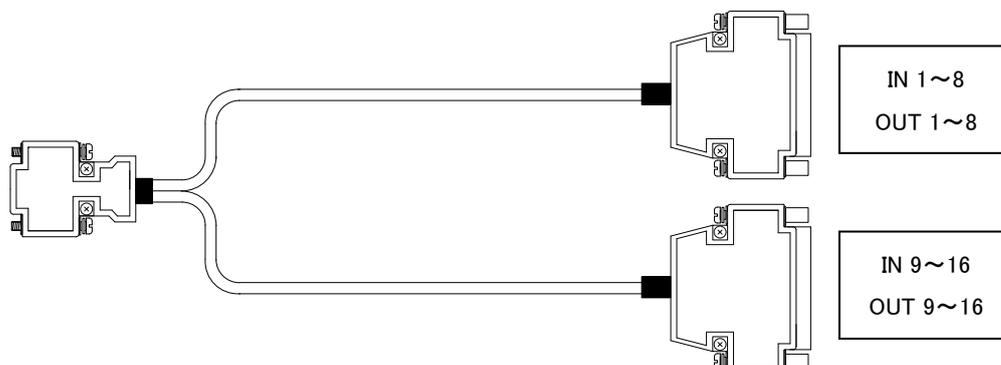


図2-3 SMV-70H-01外観図

2. 筐体への取り付け

ご使用の際には、コネクタモジュールおよびメインモジュールを筐体に取り付けてください。筐体はVbusシリーズに対応します。実装方法については「各Vbusの取扱説明書」を参照してください。

3. 機能チェック接続

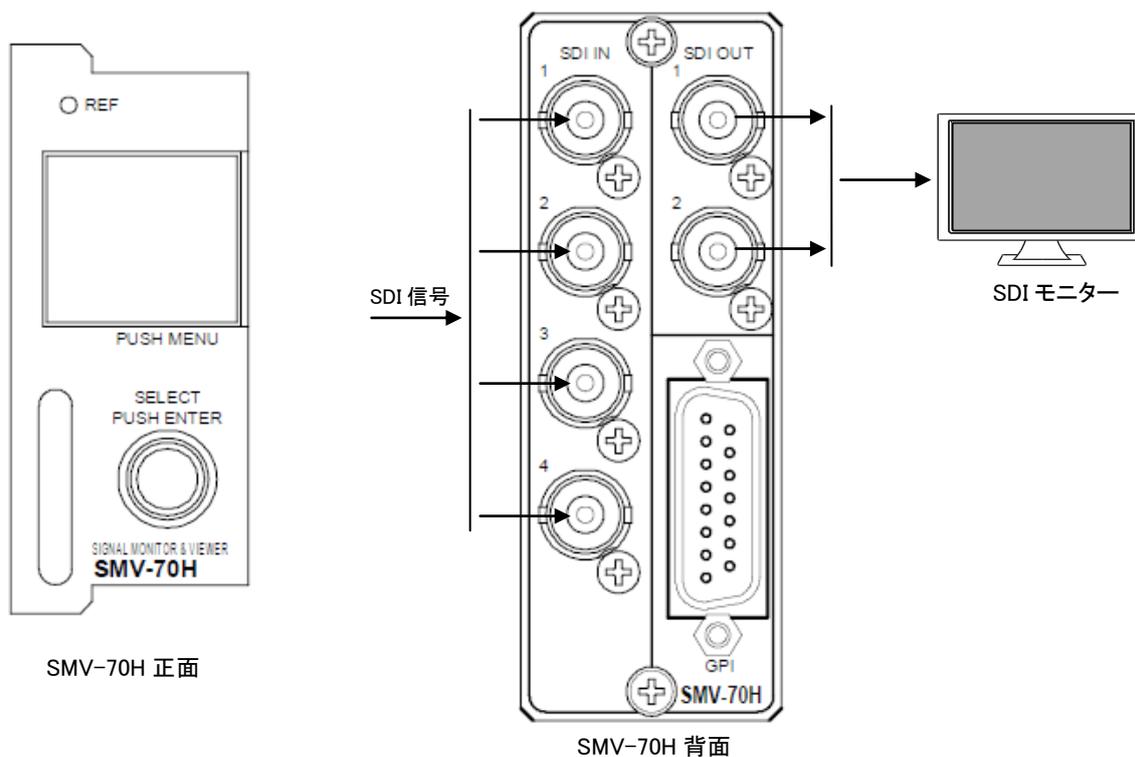


図2-1 機能チェック接続図

4. POWER ON までの手順

- (1)コネクタモジュールおよびメインモジュールを筐体へ正しくセットします。
- (2)筐体の電源プラグをAC100Vのコンセントに接続します。
- (3)SDI IN 1~4へSDI信号を入力します。

本製品で対応する映像フォーマットは「9.仕様 / 2.定格」を参照してください。

工場出荷時は1080i59.94になっていますので、他のフォーマットを使用する時はMENU→SYSTEM→FORMATで設定を行ってください。

- (4)SDI OUT 1、2をSDIモニターに接続します。
- (5)筐体の電源スイッチを投入します。電源スイッチを投入すると筐体のパワーランプが点灯します。

5. 基本動作チェック

下記の操作で本機が正常に動作していることをチェックします。

- (1)「3.機能チェック接続」、「4.POWER ONまでの手順」を行い、筐体の電源スイッチを投入します。
- (2)メインモジュール正面のELディスプレイにステータス画面(図4-1-1)が表示されます。
- (3)工場出荷時の状態で、SDI OUT 1と2にSDI IN 1~4のそれぞれの映像が4分割されて出力することを確認します。

正常に動作しない場合は「8.トラブルシューティング」を参照してください。

3. 各部の名称と働き

1. メインモジュール/コネクターモジュール

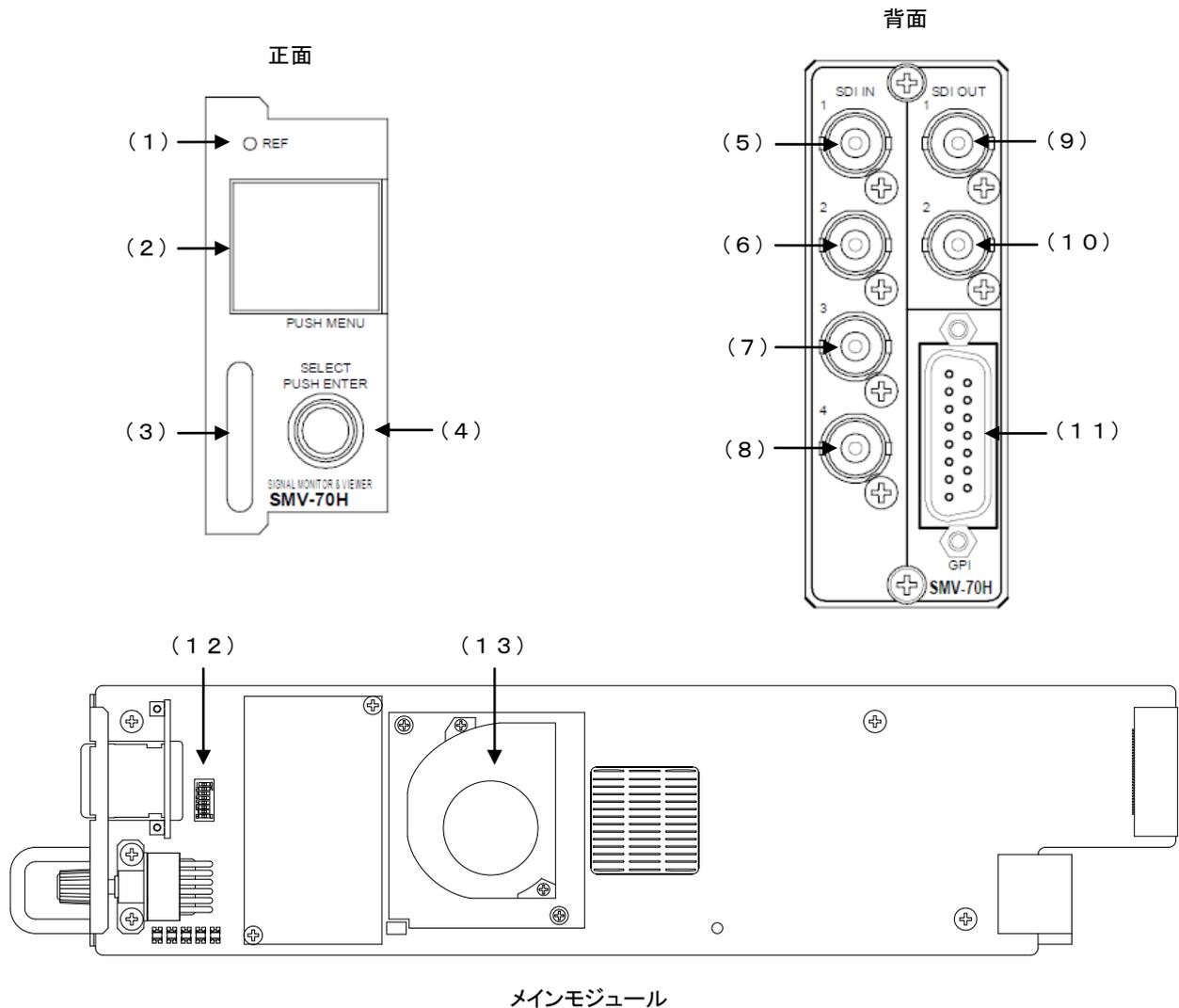


図3-1 各部の名称と働き

(1) REFランプ

リファレンス信号の状態を示します。

ランプの状態	REFERENCE SELECT	説明
消灯	LINE DIRECT	REFERENCE設定がLINE DIRECTに設定されている
消灯	EXT SUB	同一筐体内のMASTER設定のモジュールからのリファレンス信号がない
緑点灯	EXT SUB	同一筐体内のMASTER設定のモジュールからのリファレンス信号でロックしている ※MASTER設定のモジュール(筐体背面のREF INを含む)からのリファレンス信号の供給が断になると筐体前面のREF INランプが点滅しますが、筐体内のリファレンス信号は自走で供給を続ける為、当装置のREFランプは緑点灯になります。
橙点灯	EXT SUB	同一筐体内のMASTER設定のモジュールからのリファレンス信号でロックできない

(2) ELディスプレイ / MENUスイッチ

通常時は各種ステータスを表示するディスプレイです。

スイッチ機能も兼ねており、通常時にELディスプレイパネルを押すと設定メニューの階層に入り、様々な設定を行うことができます。設定メニューの階層下では、キャンセルボタン、またはメニューの階層を上げるスイッチとして機能します。

表示内容の詳細は「4.操作方法 / 1.基本操作」の項を参照してください。また、当MENUスイッチを2秒間押し続けると、オンスクリーンメニューが表示されます。

※オンスクリーンメニューは、**MENU**→CONFIG→DISPLAY→OUT1 OSD MENU、OUT2 OSD MENUの設定をENABLEにすると表示されます。

(3) 取手

筐体への取り付け、取り外しなどを行う場合はこの部分を持ちます。

(4) 選択ツマミ及びENTERボタン

選択ツマミはプッシュスイッチを内蔵します。選択ツマミはメニューの項目や設定の選択に使用し、ENTERボタンは決定ボタンに使用します。

(5)～(8) SDI IN 1～4

SDI信号を入力します。

(9)～(10) SDI OUT 1～2

SDI信号を出力します。

SDI OUT 1は4分割画面が出力され、SDI OUT 2は**MENU**→CONFIG→SDI OUT2で設定した映像が出力されます。

(11) GPI

接点信号及び将来対応のオプションのGPIO拡張ケーブル(SMV-70H-01)の接続が可能です。

詳細は「6.外部インターフェース / 1.GPI端子」を参照してください。

(12) ディップスイッチ

以下*は工場出荷時設定です。

1) DIP SW-8 工場出荷時初期化設定

DIP SW	ON/OFF	機能
8	OFF*	設定値を維持します
	ON	設定値を工場出荷時設定にします

工場出荷設定に戻す時に使用します。

※工場出荷時設定に戻す手順

ディップスイッチを次図の”工場出荷時設定”にした後、モジュールを筐体の実装し電源を投入します。モジュールが起動しELディスプレイに”RST!”が表示されると初期化完了です。

初期化完了後は必ず通常設定に戻してください。

通常設定 工場出荷時設定



図 3-2 ディップスイッチによる工場出荷時設定

(13) チップクーリングFAN

デバイス冷却用のファンです。

ファンの回転数が規定値を下回った場合、本体正面の表示器に”FAN ERR”を表示します。

”FAN ERR”を表示している場合はVbus筐体からモジュールアラームの接点出力、SNMPによるトラップ発行があります。この状態におけるご使用は可能な限り避け、弊社サポートセンターまでご連絡ください。

4. 操作方法

1. 基本操作

(1) 電源投入直後の本装置の起動中、前面のREFランプが約0.5秒ごとに緑と橙に点灯します。

その後、工場出荷時のメインモジュール正面のELディスプレイは、入力信号の状態を示す【STATUS】が表示されます。

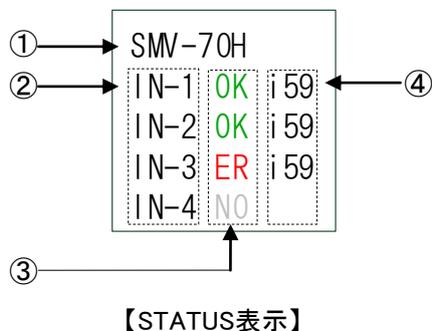


図4-1-1 ELディスプレイの表示

①機種名(SMV-70H)⇒映像フォーマットが交互に表示されます。この情報以外に以下の表示があります。

➢ FAN ERROR・・・ 基板上的チップクーリングFANの故障が考えられます。その際は弊社カスタマーサービスまでご連絡ください。

②SDI IN 1～IN 4を示します。

③入力信号の状態を示します。

➢ OK・・・・・・ 正常な信号が入力されています。

➢ ER・・・・・・ エラーが検出されている信号が入力されています。

➢ NO・・・・・・ 入力信号がありません。(エラーが検出されている場合はER表示が優先されます)

④入力信号の映像フォーマットを示します。

➢ i60・・・・・・ 1080i60

➢ i59・・・・・・ 1080i59.94

➢ i50・・・・・・ 1080i50

➢ p60・・・・・・ 1080p60 Level-A

➢ p59・・・・・・ 1080p59.97 Level-A

➢ p50・・・・・・ 1080p50 Level-A

➢ p30・・・・・・ 1080p30

➢ p29・・・・・・ 1080p29.97

➢ p25・・・・・・ 1080p25

➢ p24・・・・・・ 1080p24

➢ p23・・・・・・ 1080p23.98

➢ s30・・・・・・ 1080sF30

➢ s29・・・・・・ 1080sF29.97

➢ s25・・・・・・ 1080sF25

➢ s24・・・・・・ 1080sF24

➢ s23・・・・・・ 108sF23.98

2. メニューツリー

MENU

— ERROR LOG	【ERROR LOG】	オンスクリーンで ERROR LOG を表示します。
— SDI IN1	【SDI IN1】	SDI IN 1 の ERROR LOG を表示します。
— SDI IN2	【SDI IN2】	SDI IN 2 の ERROR LOG を表示します。
— SDI IN3	【SDI IN3】	SDI IN 3 の ERROR LOG を表示します。
— SDI IN4	【SDI IN4】	SDI IN 4 の ERROR LOG を表示します。
— LOG DISP	【LOG DISP】	LOG FILTER による ERROR LOG の表示設定をします。
— ALL	【ALL】	LOG FILTER が OFF と HIGH に設定された項目を表示します。
— HIGH	【HIGH】	LOG FILTER が HIGH に設定された項目のみを表示します。
— LOG CLEAR	【LOG CLEAR】	ERROR LOG をクリアーします。
— SDI1	【SDI1】	SDI IN 1 の ERROR LOG をクリアーします。
— YES=ENTER ボタン	【CLEAR?】	操作を実行します。
— NO=MENU スイッチ		操作を実行しません。
— SDI2	【SDI2】	SDI IN 2 の ERROR LOG をクリアーします。
— SDI1 に同じ		
— SDI3	【SDI3】	SDI IN 3 の ERROR LOG をクリアーします。
— SDI1 に同じ		
— SDI4	【SDI4】	SDI IN 4 の ERROR LOG をクリアーします。
— SDI1 に同じ		
— ALL	【ALL】	SDI IN 1、2、3、4 の ERROR LOG をクリアーします。
— SDI1 に同じ		
— LOG MODE	【LOG MOE】	ERROR LOG の並び順を設定します。
— ZtoA	【ZtoA】	ログを記録の順に下から上へ表示します。
— AtoZ	【AtoZ】	ログを記録の順に上から下へ表示します。

MENU

LOG FILTER	【LOG FILTER】	ERROR LOG の保存と表示設定を行います。
LOG SAVE	【LOG SAVE】	ERROR LOG をテキストファイルに保存します。
YES=ENTER ボタン	【SAVE?】	操作を実行します。
NO=MENU スイッチ		操作を実行しません。
ALL SET	【ALL SET】	ERROR LOG の表示設定を下記の内容で全項目一斉に設定します。
OFF	【OFF】	LOG DISP の設定が ALL の時のみに ERROR LOG を表示します。
ON	【ON】	ログを表示しません。(FILTER ON)
HIGH	【HIGH】	LOG DISP の設定が ALL と HIGH の時に ERROR LOG を表示します。
SDI SIGNAL	【SDI SIGNAL】	SDI 信号無しエラーの表示設定をします。
ALL SET に同じ		
TRS	【TRS】	TRS エラーの表示設定をします。
ALL SET に同じ		
LINE NUMBER	【LINE NUM】	LINE NUMBER エラーの表示設定をします。
ALL SET に同じ		
CRC Y	【CRC Y】	Y 信号の CRC エラーの表示設定をします。
ALL SET に同じ		
CRC C	【CRC C】	C 信号の CRC エラーの表示設定をします。
ALL SET に同じ		
LINE LENGTH	【LINE LEN】	LINE LENGTH エラーの表示設定をします。
ALL SET に同じ		
FIELD LENGTH	【FIELD LEN】	FIELD LENGTH エラーの表示設定をします。
ALL SET に同じ		
RESERVED DATA	【RSV DATA】	RESERVED DATA エラーの表示設定をします。
ALL SET に同じ		
ANC PARITY	【ANC PARITY】	ANCILLARY PARITY エラーの表示設定をします。
ALL SET に同じ		
ANC CHECKSUM	【ANC CSUM】	ANCILLARY CHECKSUM エラーの表示設定をします。
ALL SET に同じ		
BCH	【BCH】	AUDIO BCH エラーの表示設定をします。
ALL SET に同じ		

MENU

LOG FILTER(続き)	【LOG FILTER】	
AUDIO PACKET	【AUDIO PKT】	AUDIO DATA PACKET DBN インクリメントエラーの表示設定をします。
└─ ALL SET に同じ		
NO AUDIO	【NO AUDIO】	NO AUDIO PACKET エラーの表示設定をします。
└─ ALL SET に同じ		
MUTE	【MUTE】	MUTE エラーの表示設定をします。
└─ ALL SET に同じ		
BLACK	【BLACK】	BLACK エラーの表示設定をします。
└─ ALL SET に同じ		
FREEZE	【FREEZE】	FREEZE エラーの表示設定をします。
└─ ALL SET に同じ		
BLUE	【BLUE】	BLUE エラーの表示設定をします。
└─ ALL SET に同じ		
COMPARE	【COMPARE】	COMPARE エラーの表示設定をします。
└─ ALL SET に同じ		
STILL	【STILL】	STILL エラーの表示設定をします。※1
└─ ALL SET に同じ		
ASYNC	【ASYNC】	ASYNC エラーの表示設定をします。
└─ ALL SET に同じ		

MENU

— ERROR DETECT	【ERR DETECT】	エラー検出の設定とその検出状態の表示を行います。
— START STOP	【START STOP】	エラー検出の開始/停止を設定します。
— START	【START】	エラー検出を開始します。
— STOP	【STOP】	エラー検出を停止します。
— s1 ERROR DETECT	【s1 ERR DET】	SDI IN 1 のエラー検出の状態を表示します。
— COUNT CLEAR	【COUNT CLR】	エラーカウントをクリアします。
— YES=ENTER ボタン	【SET?】	操作を実行します。
— NO=MENU スイッチ		操作を実行しません。
— SDI SIGNAL	【SDI SIGNAL】	SDI 信号無しエラーの状態を表示します。
— TRS	【TRS】	TRS エラーの状態を表示します。
— LINE NUMBER	【LINE NUM】	LINE NUMBER エラーの状態を表示します。
— CRC Y	【CRC Y】	Y 信号の CRC エラーの状態を表示します。
— CRC C	【CRC C】	C 信号の CRC エラーの状態を表示します。
— LINE LENGTH	【LINE LEN】	LINE LENGTH エラーの状態を表示します。
— FIELD LENGTH	【FIELD LEN】	FIELD LENGTH エラーの状態を表示します。
— RESERVED DATA	【RSV DATA】	RESERVED DATA エラーの状態を表示します。
— ANC PARITY	【ANC PARITY】	ANCILLARY PARITY エラーの状態を表示します。
— ANC CHECKSUM	【ANC CSUM】	ANCILLARY CHECKSUM エラーの状態を表示します。
— BCH	【BCH】	AUDIO BCH エラーの状態を表示します。
— AUDIO PACKET	【AUDIO PKT】	AUDIO DATA PACKET DBN インクリメントエラーの状態を表示します。
— NO AUDIO	【NO AUDIO】	NO AUDIO PACKET エラーの状態を表示します。
— MUTE	【MUTE】	MUTE エラーの状態を表示します。
— BLACK	【BLACK】	BLACK エラーの状態を表示します。
— FREEZE	【FREEZE】	FREEZE エラーの状態を表示します。
— BLUE	【BLUE】	BLUE エラーの状態を表示します。
— COMPARE	【COMPARE】	COMPARE エラーの状態を表示します。
— STILL	【STILL】	STILL エラーの状態を表示します。※1
— ASYNC	【ASYNC】	ASYNC エラーの状態を表示します。
— s2 ERROR DETECT	【s2 ERR DET】	SDI IN 2 のエラー検出の状態を表示します。
—		
— s1 ERROR DETECT に同じ		
— s3 ERROR DETECT	【s3 ERR DET】	SDI IN 3 のエラー検出の状態を表示します。
—		
— s1 ERROR DETECT に同じ		
— s4 ERROR DETECT	【s4 ERR DET】	SDI IN 4 のエラー検出の状態を表示します。
—		
— s1 ERROR DETECT に同じ		

MENU

—	ERROR DETECT(続き)	【ERR DETECT】	
—	s1 ERROR SELECT	【s1 ERR SEL】	SDI IN 1 で使用するエラー検知のパターンを選択します。
	123	【123】	ERROR DETECT 1、2、3 を選択します。
	1	【1】	ERROR DETECT 1 を選択します。
	2	【2】	ERROR DETECT 2 を選択します。
	3	【3】	ERROR DETECT 3 を選択します。
	12	【12】	ERROR DETECT 1、2 を選択します。
	23	【23】	ERROR DETECT 2、3 を選択します。
	13	【13】	ERROR DETECT 1、3 を選択します。
—	s2 ERROR SELECT	【s2 ERR SEL】	SDI IN 2 で使用するエラー検知のパターンを選択します。
	s1 ERROR SELECT に同じ			
—	s3 ERROR SELECT	【s3 ERR SEL】	SDI IN 3 で使用するエラー検知のパターンを選択します。
	s1 ERROR SELECT に同じ			
—	s4 ERROR SELECT	【s4 ERR SEL】	SDI IN 4 で使用するエラー検知のパターンを選択します。
	s1 ERROR SELECT に同じ			
—	NO AUDIO PKT PHASE	【NOAUD PKTH】	NO AUDIO PACKET エラーについて、音声クロック位相情報エラーの検出を含めるかの設定をします。
	OFF	【OFF】	当検出を含めません。
	ON	【ON】	当検出を含めます。

MENU

PRESET	【PRESET】	各エラー検出の有無をプリセットとして設定します。
s1 ERROR PRESET	【s1 ERR PRE】	SDI IN 1 のエラー検出のパラメータを設定します。
s1 ERROR DETECT1	【s1 ER DET1】	エラー検知 1 で使用するプリセットパターンを設定します。
1~9	【1~9】	プリセットパターン 1~9(PRESET1~9)を選択します。
OFF	【OFF】	エラー検出を行いません。
s1 ERROR DETECT2	【s1 ER DET2】	エラー検知 2 で使用するプリセットパターンを設定します。
s1 ERROR DETECT1 に同じ	【OFF】	工場出荷設定は OFF です。
s1 ERROR DETECT3	【s1 ER DET3】	エラー検知 3 で使用するプリセットパターンを設定します。
s1 ERROR DETECT1 に同じ	【OFF】	工場出荷設定は OFF です。
s1 MUTE	【s1 MUTE】	MUTE 音声検出のパラメータ設定をします。
s1 TIME1	【s1 TIME1】	ERROR DETECT1 の検出時間を設定します。
1~5~660	【5】	検出時間を秒単位で設定します。
s1 TIME3	【s1 TIME3】	ERROR DETECT3 の検出時間を設定します。
s1 TIME1 に同じ		
s1-4 LEVEL	【s1-4 LEVEL】	MUTE を検出する音声レベルを設定します。 SDI IN 1~4 共通です。
-80~-60	【-80】	音声レベルを dBFS で設定します。
s1 CHANNEL1	【s1 CHANNEL1】	チャンネル 1 検出の設定をします。
OFF	【OFF】	検出を無効にします。
ON	【ON】	検出を有効にします。
s1 CHANNEL4	【s1 CHANNEL4】	チャンネル 4 検出の設定をします。
s1 CH1 に同じ		
s1 CHANNEL5	【s1 CHANNEL5】	チャンネル 5 検出の設定をします。
OFF	【OFF】	検出を無効にします。
ON	【ON】	検出を有効にします。
s1 CHANNEL8	【s1 CHANNEL8】	チャンネル 8 検出の設定をします。
s1 CH5 に同じ		
s1 CH MODE	【s1 CH MODE】	チャンネルの検出条件を設定します。
OR	【OR】	音声の無音を OR 条件で検出します。
AND	【AND】	音声の無音を AND 条件で検出します。
s1 BLACK	【s1 BLACK】	BLACK 映像検出のパラメータ設定をします。
s1 TIME1	【s1 TIME1】	ERROR DETECT1 の検出時間を設定します。
0~5~660	【5】	検出時間を秒単位で設定します。
s1 TIME3	【s1 TIME3】	ERROR DETECT3 の検出時間を設定します。
s1 TIME1 に同じ		
s1-4 LEVEL	【s1-4 LEVEL】	BLACK を検出する輝度レベルを設定します。 SDI IN 1~4 共通です。
0~99	【0】	輝度レベルを IRE で設定します。

MENU

PRESET(続き)	【PRESET】	
s1 ERROR PRESET(続き)	【s1 ERR PRE】	
s1 FREEZE	【s1 FREEZE】	FREEZE 映像検出のパラメータ設定をします。
s1 TIME1	【s1 TIME1】	ERROR DETECT1 の検出時間を設定します。
0~150~19800	【150】	検出時間をフレーム単位で設定します。
s1 TIME3	【s1 TIME3】	ERROR DETECT3 の検出時間を設定します。
s1 TIME1 に同じ		
s1 BLUE	【s1 BLUE】	BLUE 映像検出のパラメータ設定をします。
s1 TIME1	【s1 TIME1】	ERROR DETECT1 の検出時間を設定します。
0~5~999	【5】	検出時間を秒単位で設定します。
s1 TIME3	【s1 TIME3】	ERROR DETECT3 の検出時間を設定します。
s1 TIME1 に同じ		
s1 COMPARE	【s1 COMPARE】	COMPARE 映像検出のパラメータ設定をします。
s1 TIME1	【s1 TIME1】	ERROR DETECT1 の検出時間を設定します。
0~150~19800	【150】	検出時間をフレーム単位で設定します。
s1 TIME3	【s1 TIME3】	ERROR DETECT3 の検出時間を設定します。
s1 TIME1 に同じ		
s1 DELAY	【s1 DELAY】	比較を行う映像の遅延時間を設定します。
0~240	【0】	遅延時間をフレーム単位で設定します。
s1 STILL	【s1 STILL】	STILL 映像検出のパラメータ設定をします。※1
s1 TIME1	【s1 TIME1】	ERROR DETECT1 の検出時間を設定します。
0~150~19800	【5】	検出時間をフレーム単位で設定します。
s1 TIME3	【s1 TIME3】	ERROR DETECT3 の検出時間を設定します。
s1 TIME1 に同じ		
s1 PIX COMPARE	【s1 PIX COMP】	ピクセル(画素)の静止画判定のレベルを設定します。
PIX1~PIX10	【PIX1~10】	PIX1~PIX10 の段階で設定します。
VARI	【VARI】	数値モードの VARI を選択します。
s1 PIX COMP VARI	【s1 PIX VARI】	VARI を選択した時の数値設定です。
1~100	【1】	1~100 の値で設定します。
s1 PIX HIT	【s1 PIX HIT】	STILL 判定するピクセル(画素)数の比率を設定します。
70~100	【100】	70~100%の値で設定します。

MENU

PRESET(続き)	【PRESET】	
s1 ERROR PRESET(続き)	【s1 ERR PRE】	
s1 MASK	【s1 MASK】	BLACK、FREEZE、STILL の検出範囲を決める MASK 設定をします。
s1 MASK	【s1 MASK】	MASK の有効・無効を設定します。
OFF	【OFF】	MASK を無効にします。
ON	【ON】	MASK を有効にします。
s1 PRESET	【s1 PRESET】	プリセットパターンを選択します。
1~8	【1】	1~8 を設定します。
s1 LEFT	【s1 LEFT】	MASK の左位置を設定します。
0~860~1059	【860】	ピクセル単位で指定します。
s1 RIGHT	【s1 RIGHT】	MASK の右位置を設定します。
861~1060~1919	【1060】	ピクセル単位で指定します。
s1 TOP	【s1 TOP】	MASK の上位置を設定します。
0~440~639	【440】	ピクセル単位で指定します。
s1 BOTTOM	【s1 BOTTOM】	MASK の下位置を設定します。
441~640~1019	【640】	ピクセル単位で指定します。
s1 H MOVE	【s1 H MOVE】	全体を横方向に移動させます。
0	【0】	数値を+で右方向、-で左方向に移動します。
s1 V MOVE	【s1 V MOVE】	全体を縦方向に移動させます。
0	【0】	数値を+で下方向、-で上方向に移動します。
s1 REVERSE	【s1 REVERS】	MASK の反転設定をします。
OFF	【OFF】	MASK を反転しません。
ON	【ON】	MASK を反転します。
s1-4 LEVEL	【LEVEL】	MASK カーソルの透過レベルを設定します。 SDI IN 1~4 共通です。
1~4	【4】	1~4 を設定します。
s4 ERROR PRESET	【s4 ERR PRE】	SDI IN 4 のエラー検出のパラメータを設定します。
s1 ERROR PRESET に同じ		
COMPARE PARAM	【COMP PARAM】	COMPARE 映像検出の共通パラメータ設定をします。
MODE	【MODE】	検出モードを設定します。
ALL	【ALL】	SDI IN 1~SDI IN 4 の全ての入力で検出を行います。
PAIR	【PAIR】	SDI IN 1 と 2、SDI IN 3 と 4 の各ペアで検出を行います。
s2s4 FRAME	【s2s4 FRAME】	映像比較で参照するフレームの数を設定します。 MODE 設定が PAIR の時に有効な設定です。
1~3	【1】	参照するフレーム数を設定します。
s1-4 RANGE	【s1-4 RANGE】	エラー判定を行う映像領域を設定します。
80~100	【100】	映像領域を%で設定します。

MENU

PRESET(続き)	【PRESET】	
PRESET1	【PRESET1】	プリセットパターン1のエラー検出の組み合わせを設定します。
ALL	【ALL】	全エラー検出項目を一斉に設定します。
OFF	【OFF】	OFF に設定します。
OR	【OR】	OR 条件で検出します。
AND	【AND】	AND 条件で検出します。
SDI SIGNAL	【SDI SIGNAL】	SDI 信号無しエラーの検出設定をします。
ALL に同じ	【OR】	工場出荷設定は OR です。
TRS	【TRS】	TRS エラーの検出設定をします。
ALL に同じ	【OR】	工場出荷設定は OR です。
LINE NUMBER	【LINE NUM】	LINE NUMBER エラーの検出設定をします。
ALL に同じ	【OR】	工場出荷設定は OR です。
CRC Y	【CRC Y】	Y 信号の CRC エラーの検出設定をします。
ALL に同じ	【OR】	工場出荷設定は OR です。
CRC C	【CRC C】	C 信号の CRC エラーの検出設定をします。
ALL に同じ	【OR】	工場出荷設定は OR です。
LINE LENGTH	【LINE LEN】	LINE LENGTH エラーの検出設定をします。
ALL に同じ	【OR】	工場出荷設定は OR です。
FIELD LENGTH	【FIELD LEN】	FIELD LENGTH エラーの検出設定をします。
ALL に同じ	【OR】	工場出荷設定は OR です。
RESERVED DATA	【RSV DATA】	RESERVED DATA エラーの検出設定をします。
ALL に同じ	【OR】	工場出荷設定は OR です。
ANC PARITY	【ANC PARITY】	ANC PARITY エラーの検出設定をします。
ALL に同じ	【OR】	工場出荷設定は OR です。
ANC CHECKSUM	【ANC SUM】	ANC CHECKSUM エラーの検出設定をします。
ALL に同じ	【OR】	工場出荷設定は OR です。
BCH	【BCH】	BCH エラーの検出設定をします。
ALL に同じ	【OR】	工場出荷設定は OR です。
AUDIO PACKET	【AUDIO PKT】	AUDIO PACKET エラーの検出設定をします。
ALL に同じ	【OR】	工場出荷設定は OR です。
NO AUDIO PACKET	【NO AUDIO】	NO AUDIO PACKET エラーの検出設定をします。
ALL に同じ	【OR】	工場出荷設定は OR です。

MENU

PRESET(続き)	【PRESET】	
PRESET1(続き)	【PRESET1】	
MUTE	【MUTE】	MUTE エラーの検出設定をします。
ALL に同じ	【OFF】	工場出荷設定は OFF です。
BLACK	【BLACK】	BLACK エラーの検出設定をします。
ALL に同じ	【OFF】	工場出荷設定は OFF です。
FREEZE	【FREEZE】	FREEZE エラーの検出設定をします。
ALL に同じ	【OFF】	工場出荷設定は OFF です。
BLUE	【BLUE】	BLUE エラーの検出設定をします。
ALL に同じ	【OFF】	工場出荷設定は OFF です。
COMPARE	【COMPARE】	COMPARE エラーの検出設定をします。
ALL に同じ	【OFF】	工場出荷設定は OFF です。
STILL	【STILL】	STILL エラーの検出設定をします。※1
ALL に同じ	【OFF】	工場出荷設定は OFF です。
ASYNC	【ASYNC】	ASYNC エラーの検出設定をします。
ALL に同じ	【OFF】	工場出荷設定は OFF です。
PRESET9	【PRESET9】	PRESET9 のエラー検出の組み合わせを設定します。
PRESET1 に同じ		

MENU

GPI	【GPI】	GPI 制御を設定します。
HOLD MODE	【HOLD MODE】	アラーム出力の保持機能を設定します。
HOLD MODE	【HOLD MODE】	有効/無効を設定します。
OFF	【OFF】	保持機能を無効にします。
ON	【ON】	保持機能を有効にします。
HOLD MODE TIME	【HOLD TIME】	アラーム出力の自動リセット時間を設定します。
0~99	【0】	自動リセット時間を 0~99(分)で設定します。
HOLD RESET	【HOLD RESET】	保持されたエラー出力をリセットします。
YES=ENTER ボタン	【RESET?】	解除操作を実行します。
NO=MENU スイッチ			解除操作を実行しません。
FREE ASSIGN	【FREE ASG】	GPI の割り当てをカスタマイズします。
IN 1	【IN 1】	GPI 端子の IN 1 をカスタマイズします。
OFF	【OFF】	未使用にします。
SDI IN 1 OA TALLY	【S1 OA TALLY】	SDI IN 1 OA TALLY 入力にします。
SDI IN 1 NEXT TALLY	【S1 NX TALLY】	SDI IN 1 NEXT TALLY 入力にします。
SDI IN 2 OA TALLY	【S2 OA TALLY】	SDI IN 2 OA TALLY 入力にします。
SDI IN 2 NEXT TALLY	【S2 NX TALLY】	SDI IN 2 NEXT TALLY 入力にします。
SDI IN 3 OA TALLY	【S3 OA TALLY】	SDI IN 3 OA TALLY 入力にします。
SDI IN 3 NEXT TALLY	【S3 NX TALLY】	SDI IN 3 NEXT TALLY 入力にします。
SDI IN 4 OA TALLY	【S4 OA TALLY】	SDI IN 4 OA TALLY 入力にします。
SDI IN 4 NEXT TALLY	【S4 NX TALLY】	SDI IN 4 NEXT TALLY 入力にします。
ERROR DET START	【DET START】	ERROR DETECT START 入力にします。
ERROR DET STOP	【DET STOP】	ERROR DETECT STOP 入力にします。
OUT2 4SCREENS	【OUT2 4S】	SDI OUT 2 を 4SCREENS へ切り替えます。
OUT2 SDI IN1	【OUT2 S1】	SDI OUT 2 を SDI IN 1 へ切り替えます。
OUT2 SDI IN2	【OUT2 S2】	SDI OUT 2 を SDI IN 2 へ切り替えます。
OUT2 SDI IN3	【OUT2 S3】	SDI OUT 2 を SDI IN 3 へ切り替えます。
OUT2 SDI IN4	【OUT2 S4】	SDI OUT 2 を SDI IN 4 へ切り替えます。
OUT2 SDI SEQ	【OUT2 SEQ】	SDI OUT 2 を SEQUENTIAL へ切り替えます。
OUT2 TIME	【OUT2 TIME】	SDI OUT 2 を TIME へ切り替えます。
HOLD RESET	【HOLD RESET】	エラーホールドを解除します。
IN 6	【GPI IN 6】	GPI 端子の IN 6 をカスタマイズします。
IN 1 に同じ		

MENU

— GPI(続き)	【GPI】	
— FREE ASSIGN(続き)	【FREE ASG】	
— OUT1	【OUT1】	GPI 端子の OUT 1 をカスタマイズします。
— OFF	【OFF】	未使用にします。
— SDI IN1 OA TALLY	【S1 OA TALLY】	SDI IN 1 OA TALLY 出力にします。
— SDI IN1 NEXT TALLY	【S1 NX TALLY】	SDI IN 1 NEXT TALLY 出力にします。
— SDI IN2 OA TALLY	【S2 OA TALLY】	SDI IN 2 OA TALLY 出力にします。
— SDI IN2 NEXT TALLY	【S2 NX TALLY】	SDI IN 2 NEXT TALLY 出力にします。
— SDI IN3 OA TALLY	【S3 OA TALLY】	SDI IN 3 OA TALLY 出力にします。
— SDI IN3 NEXT TALLY	【S3 NX TALLY】	SDI IN 3 NEXT TALLY 出力にします。
— SDI IN4 OA TALLY	【S4 OA TALLY】	SDI IN 4 OA TALLY 出力にします。
— SDI IN4 NEXT TALLY	【S4 NX TALLY】	SDI IN 4 NEXT TALLY 出力にします。
— ERROR DET START	【DET START】	ERROR DETECT START 出力にします。
— ERROR DET STOP	【DET STOP】	ERROR DETECT STOP 出力にします。
— OUT2 4SCREENS	【OUT2 4S】	SDI OUT 2 が 4SCREENS の時に出力します。
— OUT2 SDI IN1	【OUT2 S1】	SDI OUT 2 が SDI IN 1 の時に出力します。
— OUT2 SDI IN2	【OUT2 S2】	SDI OUT 2 が SDI IN 2 の時に出力します。
— OUT2 SDI IN3	【OUT2 S3】	SDI OUT 2 が SDI IN 3 の時に出力します。
— OUT2 SDI IN4	【OUT2 S4】	SDI OUT 2 が SDI IN 4 の時に出力します。
— OUT2 SDI SEQ	【OUT2 SEQ】	SDI OUT 2 が SEQUENTIAL の時に出力します。
— OUT2 TIME	【OUT2 TIME】	SDI OUT 2 が TIME の時に出力します。
— SDI IN1 ERROR	【S1 ERROR】	s1 ERROR SELECT で選択したパターンが検出された時に出力します。
— SDI IN1 ERROR123	【S1 ERROR123】	SDI IN 1 で ERROR DETECT 1、2、3 が検出した時に出力します。(以下 SDI IN 1 の設定)
— SDI IN1 ERROR1	【S1 ERROR1】	ERROR DETECT 1 が検出した時に出力します。
— SDI IN1 ERROR2	【S1 ERROR2】	ERROR DETECT 2 が検出した時に出力します。
— SDI IN1 ERROR3	【S1 ERROR3】	ERROR DETECT 3 が検出した時に出力します。
— SDI IN1 ERROR12	【S1 ERROR12】	ERROR DETECT 1、2 が検出した時に出力します。
— SDI IN1 ERROR23	【S1 ERROR23】	ERROR DETECT 2、3 が検出した時に出力します。
— SDI IN1 ERROR13	【S1 ERROR13】	ERROR DETECT 1、3 が検出した時に出力します。
— SDI IN2 ERROR	【S2 ERROR】	s2 ERROR SELECT で選択したパターンが検出された時に出力します。
— SDI IN2 ERROR123	【S2 ERROR123】	SDI IN 2 で ERROR DETECT 1、2、3 が検出した時に出力します。(以下 SDI IN 2 の設定)
— SDI IN2 ERROR1	【S2 ERROR1】	ERROR DETECT 1 が検出した時に出力します。
— SDI IN2 ERROR2	【S2 ERROR2】	ERROR DETECT 2 が検出した時に出力します。
— SDI IN2 ERROR3	【S2 ERROR3】	ERROR DETECT 3 が検出した時に出力します。
— SDI IN2 ERROR12	【S2 ERROR12】	ERROR DETECT 1、2 が検出した時に出力します。
— SDI IN2 ERROR23	【S2 ERROR23】	ERROR DETECT 2、3 が検出した時に出力します。
— SDI IN2 ERROR13	【S2 ERROR13】	ERROR DETECT 1、3 が検出した時に出力します。

MENU

— GPI(続き)	【GPI】	
— FREE ASSIGN(続き)	【FREE ASG】	
— OUT1(続き)	【OUT1】	
— SDI IN3 ERROR	【S3 ERROR】	s3 ERROR SELECT で選択したパターンが検出された時に出力します。
— SDI IN3 ERROR123	【S3 ERROR123】	SDI IN 3 で ERROR DETECT1、2、3 が検出した時に出力します。(以下 SDI IN 3 の設定)
— SDI IN3 ERROR1	【S3 ERROR1】	ERROR DETECT 1 が検出した時に出力します。
— SDI IN3 ERROR2	【S3 ERROR2】	ERROR DETECT 2 が検出した時に出力します。
— SDI IN3 ERROR3	【S3 ERROR3】	ERROR DETECT 3 が検出した時に出力します。
— SDI IN3 ERROR12	【S3 ERROR12】	ERROR DETECT 1、2 が検出した時に出力します。
— SDI IN3 ERROR23	【S3 ERROR23】	ERROR DETECT 2、3 が検出した時に出力します。
— SDI IN3 ERROR13	【S3 ERROR13】	ERROR DETECT 1、3 が検出した時に出力します。
— SDI IN4 ERROR	【S4 ERROR】	s4 ERROR SELECT で選択したパターンが検出された時に出力します。
— SDI IN4 ERROR123	【S4 ERROR123】	SDI IN 4 で ERROR DETECT1、2、3 が検出した時に出力します。(以下 SDI IN 4 の設定)
— SDI IN4 ERROR1	【S4 ERROR1】	ERROR DETECT 1 が検出した時に出力します。
— SDI IN4 ERROR2	【S4 ERROR2】	ERROR DETECT 2 が検出した時に出力します。
— SDI IN4 ERROR3	【S4 ERROR3】	ERROR DETECT 3 が検出した時に出力します。
— SDI IN4 ERROR12	【S4 ERROR12】	ERROR DETECT 1、2 が検出した時に出力します。
— SDI IN4 ERROR23	【S4 ERROR23】	ERROR DETECT 2、3 が検出した時に出力します。
— SDI IN4 ERROR13	【S4 ERROR13】	ERROR DETECT 1、3 が検出した時に出力します。
— OUT2	【OUT2】	GPI 端子の OUT 2 をカスタマイズします。
—	└─	OUT1 に同じ	
— EXT IN1	【EXT IN1】	EXT IN 1 をカスタマイズします。※2
—	└─	IN1 に同じ	
— EXT IN16	【EXT IN16】	EXT IN 16 をカスタマイズします。※2
—	└─	IN1 に同じ	
— EXT OUT1	【EXT OUT1】	EXT OUT 1 をカスタマイズします。※2
—	└─	OUT1 に同じ	
— EXT OUT16	【EXT OUT16】	EXT OUT 16 をカスタマイズします。※2
—	└─	OUT1 に同じ	

MENU

— GPI(続き)	【GPI】	
— OA TALLY	【OA TALLY】	OA タリーを点灯させます。
— SDI IN1	【SDI IN1】	SDI IN 1 の OA タリーを点灯させます。
— SDI IN2	【SDI IN2】	SDI IN 2 の OA タリーを点灯させます。
— SDI IN3	【SDI IN3】	SDI IN 3 の OA タリーを点灯させます。
— SDI IN4	【SDI IN4】	SDI IN 4 の OA タリーを点灯させます。
— NEXT TALLY	【NEXT TALLY】	NEXT タリーを点灯させます。
— SDI IN1	【SDI IN1】	SDI IN 1 の NEXT タリーを点灯させます。
— SDI IN2	【SDI IN2】	SDI IN 2 の NEXT タリーを点灯させます。
— SDI IN3	【SDI IN3】	SDI IN 3 の NEXT タリーを点灯させます。
— SDI IN4	【SDI IN4】	SDI IN 4 の NEXT タリーを点灯させます。

MENU

SYSTEM	【SYSTEM】	システムに関する各種設定を行います。
FORMAT	【FORMAT】	出力信号の映像フォーマットを切り替えます。※3
1080i60	【1080i60】	1080i60 に設定します。
1080i59.94	【1080i59】	1080i59.94 に設定します。
1080i50	【1080i50】	1080i50 に設定します。
1080p60A	【1080p60A】	1080p60 Level-A に設定します。※4
1080p59A	【1080p59A】	1080p59.94 Level-A に設定します。※4
1080p50A	【1080p50A】	1080p50 Level-A に設定します。※4
1080p30	【1080p30】	1080p30 に設定します。
1080p29.97	【1080p29】	1080p29.97 に設定します。
1080p25	【1080p25】	1080p25 に設定します。
1080p24	【1080p24】	1080p24 に設定します。
1080p23.98	【1080p23】	1080p23.98 に設定します。
1080sF30	【1080sF30】	1080sF30 に設定します。
1080sF29.97	【1080sF29】	1080sF29.97 に設定します。
1080sF25	【1080sF25】	1080sF25 に設定します。
1080sF24	【1080sF24】	1080sF24 に設定します。
1080sF23.98	【1080sF23】	1080sF23.98 に設定します。
REFERENCE SELECT	【REF SEL】	リファレンス信号を選択します。
EXT SUB	【EXT SUB】	筐体内バスのリファレンス信号に同期します。
LINE DIRECT	【LINE DIR】	SDI IN 1 の映像信号に同期します。
GENLOCK PHASE	【PHASE】	EXT SUB 設定時の SDI 出力の位相を設定します。 LINE DIRECT 設定時はこの設定が無視されます。
H	【H】	水平位相を設定します。
-2749~0~2199	【0】	
V	【V】	垂直位相を設定します。
-1124~0~1124	【0】	
SYSEM TIME	【SYS TIME】	内部時計を設定します。
yy	【yy】	年を設定します。
0	【0】	
mm	【mm】	月を設定します。
0	【0】	
dd	【dd】	日を設定します。
0	【0】	
hh	【hh】	時を設定します。
0	【0】	
mm	【mm】	分を設定します。
0	【0】	
ss	【ss】	秒を設定します。
0	【0】	

MENU

— CONFIG	【CONFIG】	機能に関する各種設定を行います。
— DISPLAY	【DISPLAY】	本体正面の表示器と OSD に関する設定を行います。
— SCREEN SAVER	【SCR SAVER】	スクリーンセーバーの設定を行います。
— DIM 50%	【DIM 50%】	MAIN VIEW の表示輝度が 10 分後に 50%に落ちます。
— DIM 30%	【DIM 30%】	MAIN VIEW の表示輝度が 10 分後に 30%に落ちます。
— OFF	【OFF】	スクリーンセーバー機能を無効にします。
— NAME ROLL	【NAME ROLL】	MAIN VIEW の表示が 10 分後に機種名に変わります。
— DIM 70%	【DIM 70%】	MAIN VIEW の表示輝度が 10 分後に 70%に落ちます。
— OUT 1 OSD MENU	【OUT1 MENU】	SDI OUT1 の TITLE 以外のオンスクリーン表示を設定します。
— DISABLE	【DISABLE】	表示を無効にします。
— ENABLE	【ENABLE】	表示を有効にします。
— OUT 2 OSD MENU	【OUT2 MENU】	SDI OUT2 の TITLE 以外のオンスクリーン表示を設定します。
—	OUT1 OSD MENU に同じ		
— OUT 1 INFO DISP	【OUT1 INFO】	SDI OUT 1 の情報表示を設定します。
— DISABLE	【DISABLE】	表示を無効にします。
— STATUS	【STATUS】	SDI 信号の情報を表示します。
— LOG	【LOG】	ログを表示します。
— OUT 2 INFO DISP	【OUT2 INFO】	SDI OUT 2 の情報表示を設定します。
—	OUT1 INFO DISP に同じ		
— OSD BRIGHT	【OSD BRIGHT】	オンスクリーンメニューの輝度を設定します。
— 0~100	【100】	工場出荷時設定は 100%です。
— SDI OUT2	【SDI OUT2】	SDI OUT 2 の出力を設定します。
— 4 SCREENS	【4 SCREENS】	4 分割画面を出力します。
— SDI IN1	【SDI IN 1】	SDI IN 1 を出力します。
— SDI IN2	【SDI IN 2】	SDI IN 2 を出力します。
— SDI IN3	【SDI IN 3】	SDI IN 3 を出力します。
— SDI IN4	【SDI IN 4】	SDI IN 4 を出力します。
— SEQUENTIAL	【SEQUENTIAL】	シーケンシャル切り替え映像を出力します。
— TIME	【TIME】	時計表示を出力します。

MENU

— CONFIG(続き)	【CONFIG】	
— 4 SCREENS	【4 SCREENS】	4分割画面の設定を行います。
— TOP LEFT SEL	【T LEFT SL】	左上の画面を選択します。
— SDI IN1	【SDI IN1】	SDI IN 1 を表示します。
— SDI IN2	【SDI IN2】	SDI IN 2 を表示します。
— SDI IN3	【SDI IN3】	SDI IN 3 を表示します。
— SDI IN4	【SDI IN4】	SDI IN 4 を表示します。
— BLACK	【BLACK】	黒画面にします。
— TIME	【TIME】	時計(内部時計)を表示します。
— TOP RIGHT SEL	【T RIGHT SL】	右上の画面を選択します。
— TOP LEFT SEL に同じ	【SDI IN 2】	工場出荷設定は SDI IN 2 です。
— BOTTOM LEFT SEL	【B LEFT SL】	左下の画面を選択します。
— TOP LEFT SEL に同じ	【SDI IN 3】	工場出荷設定は SDI IN 3 です。
— BOTTOM RIGHT SEL	【B RIGHT SL】	右下の画面を選択します。
— TOP LEFT SEL に同じ	【SDI IN 4】	工場出荷設定は SDI IN 4 です。
— TOP LEFT CHR	【T LEFT CH】	左上画面の名称を設定します。
— OFF	【OFF】	文字を表示しません。
— AUTO UP	【AUTO UP】	自動で設定した文字を上側に表示します。
— AUTO LOW	【AUTO LOW】	自動で設定した文字を下側に表示します。
— TITLE UP	【TITLE UP】	タイトル設定をした文字を上側に表示します。
— TITLE LOW	【TITLE LOW】	タイトル設定をした文字を下側に表示します。
— TOP RIGHT CHR	【T RIGHT CH】	右上画面の文字を設定します。
— TOP LEFTCHR に同じ		
— BOTTOM LEFT CHR	【B LEFT CH】	左下画面の文字を設定します。
— TOP LEFT CHR に同じ		
— BOTTOM RIGHT CHR	【B RIGHT CH】	右下画面の文字を設定します。
— TOP LEFT CHR に同じ		

MENU

—	CONFIG(続き)	【CONFIG】	
—	4 SCREENS(続き)	【4 SCREENS】	
—	AUDIO MODE	【AUDIO MODE】	出力する音声を選択します。
—	TOP LEFT	【TOP LEFT】	左上画面の音声を出力します。
—	TOP RIGHT	【TOP RIGHT】	右上画面の音声を出力します。
—	BOTTOM LEFT	【BTM LEFT】	左下画面の音声を出力します。
—	BOTTOM RIGHT	【BTM RIGHT】	右下画面の音声を出力します。
—	SDI IN 1	【SDI IN1】	SDI IN 1 の音声を出力します。
—	SDI IN 2	【SDI IN2】	SDI IN 2 の音声を出力します。
—	SDI IN 3	【SDI IN3】	SDI IN 3 の音声を出力します。
—	SDI IN 4	【SDI IN4】	SDI IN 4 の音声を出力します。
—	MUTE	【MUTE】	無音にします。
—	TALLY PATTERN	【TALLY PAT】	タリー表示を設定します。
—	DISABLE	【DISABLE】	表示しません。
—	TALLY 1	【TALLY1】	タリーパターン 1 を表示します。
—	TALLY 2	【TALLY2】	タリーパターン 2 を表示します。
—	AUDIO METER	【AUDIO METER】	音声レベルメーターの表示を設定します。
—	DISABLE	【DISABLE】	表示しません。
—	ENABLE	【ENABLE】	表示します。
—	INFORMATION	【INFORMATION】	SDI 信号の情報表示をを設定します。
—	AUDIO METER に同じ		
—	ERROR FRAME	【ERROR FRAME】	エラー発生時のフレーム表示を設定します。
—	AUDIO METER に同じ		

MENU

— CONFIG(続き)	【CONFIG】	
— SEQUENTIAL	【SEQUENTIAL】	シーケンシャル切り替え表示の設定を行います。
— TRANSITION TIME	【TRS TIME】	映像の切り替え時間を秒単位で設定します。
└─ 1~5~180	【5】	
— SDI IN1	【SDI IN1】	SDI IN 1 の表示を設定します。
└─ DISABLE	【DISABLE】	表示しません。
└─ ENABLE	【ENABLE】	表示します。
— SDI IN2	【SDI IN2】	SDI IN 2 の表示を設定します。
└─ SDI IN1 に同じ		
— SDI IN3	【SDI IN3】	SDI IN 3 の表示を設定します。
└─ SDI IN1 に同じ		
— SDI IN4	【SDI IN4】	SDI IN 4 の表示を設定します。
└─ SDI IN1 に同じ		
— CHARACTER	【CHARACTER】	名称を設定します。
└─ OFF	【OFF】	文字を表示しません。
└─ AUTO UP	【AUTO UP】	自動で設定した文字を上側に表示します。
└─ AUTO LOW	【AUTO LOW】	自動で設定した文字を下側に表示します。
└─ TITLE UP	【TITLE UP】	タイトル設定をした文字を上側に表示します。
└─ TITLE LOW	【TITLE LOW】	タイトル設定をした文字を下側に表示します。
— AUDIO METER	【AUDIO METER】	音声レベルメーターを表示します。
└─ DISABLE	【DISABLE】	表示しません。
└─ ENABLE	【ENABLE】	表示します。
— INFORMATION	【INFORMATION】	SDI 信号の情報表示を設定します。
└─ AUDIO METER に同じ		
— ERROR FRAME	【ERROR FRAME】	エラー発生時のフレーム表示を設定します。
└─ AUDIO METER に同じ		

MENU

— CONFIG(続き)	【CONFIG】	
— SDI IN1 TITLE	【IN1 TITLE】	SDI IN 1 のタイトル名を設定します。※5
— SDI IN2 TITLE	【IN2 TITLE】	SDI IN 2 のタイトル名を設定します。※5
— SDI IN3 TITLE	【IN3 TITLE】	SDI IN 3 のタイトル名を設定します。※5
— SDI IN4 TITLE	【IN4 TITLE】	SDI IN 4 のタイトル名を設定します。※5
— TIME SELECT	【TIME SEL】	時計表示の背景を選択します。
— BLACK	【BLACK】	黒画面にします。
— SDI1	【SDI1】	SDI IN 1 にします。
— SDI2	【SDI2】	SDI IN 2 にします。
— SDI3	【SDI3】	SDI IN 3 にします。
— SDI4	【SDI4】	SDI IN 4 にします。
— OUT2 ERR CHG	【OUT2 ER CH】	エラー発生時の SDI OUT 2 の切り替え動作を設定します。
— OFF	【OFF】	切り替えをしません。(SDI OUT 2 の設定に従います)
— ON	【ON】	エラーを検出した SDI 入力信号に切り替えます。
— INFORMATION	【INFO】	各種ステータスを表示します。
— VERSION	【VERSION】	モジュールのバージョン情報を表示します。
— SOFT	【SOFT】	ソフトウェアのバージョン情報を表示します。
— HARD MAIN	【HARD MAIN】	ハードウェアのバージョン情報を表示します。
— HARD GEN	【HARD GEN】	ゲンロックのハードウェアのバージョン情報を表示します。
— STATUS	【STATUS】	各 SDI 入力の状態を表示します。
— SDI IN1	【SDI IN1】	SDI IN 1 の状態を表示します。
— SDI IN2	【SDI IN2】	SDI IN 2 の状態を表示します。
— SDI IN3	【SDI IN3】	SDI IN 3 の状態を表示します。
— SDI IN4	【SDI IN4】	SDI IN 4 の状態を表示します。
— IN1 PAYLOAD IN	【s1 PAYLOAD】	SDI IN 1 のペイロード ID を表示します。
— IN2 PAYLOAD IN	【s2 PAYLOAD】	SDI IN 2 のペイロード ID を表示します。
— IN3 PAYLOAD IN	【s3 PAYLOAD】	SDI IN 3 のペイロード ID を表示します。
— IN4 PAYLOAD IN	【s4 PAYLOAD】	SDI IN 4 のペイロード ID を表示します。
— PAYLOAD OUT	【PAYLOAD OT】	SDI OUT(1,2 共通)のペイロードを表示します。

MENU

└─ MAINTENANCE	【MTN】	メンテナンスの設定をします。
└─ INIT CONDITION	【INI COND】	全ての設定値を工場出荷時に戻します。
└─ YES=ENTER ボタン	【INITIAL?】	初期化を実行します。
└─ NO=MENU スイッチ			初期化を実行せず、キャンセルします。
└─ FLASH FORMAT	【FL FORMAT】	フラッシュドライブをフォーマットします。
└─ YES=ENTER ボタン	【SET?】	フォーマットを実行します。
└─ NO=MENU スイッチ			フォーマットを実行せず、キャンセルします。
└─ s1 ERROR DUMP	【s1ERR DUMP】	SDI IN 1 の全エラーを表示します。
└─ SDI SIGNAL	【SDI SIGNAL】	SDI 信号無しエラーを表示します。
└─ TRS	【TRS】	TRS エラーを表示します。
└─ LINE NUMBER	【LINE NUM】	LINE NUMBER エラーを表示します。
└─ CRC Y	【CRC Y】	Y 信号の CRC エラーを表示します。
└─ CRC C	【CRC C】	C 信号の CRC エラーを表示します。
└─ LINE LENGTH	【LEN LEN】	LINE LENGTH エラーを表示します。
└─ FIELD LENGTH	【FILED LEN】	FIELD LENGTH エラーを表示します。
└─ RESERVED DATA	【RSV DATA】	RESERVED DATA エラーを表示します。
└─ ANC PARITY	【ANC PARITY】	ANC PARITY エラーエラーを表示します。
└─ ANC CHECKSUM	【ANC CSUM】	ANC CHECKSUM エラーを表示します。
└─ BCH	【BCH】	BCH エラーを表示します。
└─ AUDIO PACKET	【AUDIO PKT】	AUDIO PACKET エラーを表示します。
└─ NO AUDIO	【NO AUDIO】	NO AUDIO PACKET エラーを表示します。
└─ MUTE	【MUTE】	MUTE エラーを表示します。
└─ BLACK	【BLACK】	BLACK エラーを表示します。
└─ FREEZE	【FREEZE】	FREEZE エラーを表示します。
└─ BLUE	【BLUE】	BLUE エラーを表示します。
└─ COMPARE	【COMPARE】	COMPARE エラーを表示します。
└─ STILL	【STILL】	STILL エラーを表示します。※1
└─ ASYNC	【ASYNC】	ASYNC エラーを表示します。
└─ s4 ERROR DUMP	【s4ERR DUMP】	SDI IN 4 の全エラーを表示します。
└─ s1 ERROR DUMP に同じ			
└─ FAN ROTATE	【FAN ROTATE】	チップクーリング FAN の回転数を表示します。
└─ DEVICE TEMP	【DEV TEMP】	メインデバイス温度を表示します。

メニューツリー内の【 】は、ELディスプレイ上に表示される略称を示します。

メニューツリー内の ■ は工場出荷時設定を示します。変更した全ての設定は電源OFF時も保持されます。

※1 映像フォーマット3G-SDIではご使用になれません。

※2 SMV-70H-01 GPIO拡張ケーブル(将来対応のオプション)が必要です。

※3 入力信号と出力信号の映像フォーマットが異なる場合、入力信号を簡易変換して出力します。

※4 映像フォーマット3G-SDIでのご使用には機能制限がございます。詳しくは「9.仕様/1.機能」欄をご参照ください。

※5 本体操作では英数字と”-“、スペースを設定できます。漢字・かなの入力にはWebServerをご使用ください。

3. 各機能の説明

各機能を説明いたします。

本体正面の EL ディスプレイと選択ツマミによる操作を説明しておりますが、SDI OUT 出力のオンスクリーン表示(OSD)でしか機能できないものや、EL ディスプレイより視認性が良いものはオンスクリーン表示の説明がされております。

(1) ERROR LOG

ELディスプレイを押すと、ELディスプレイ上に下図の「図4-3-1 メインメニュー階層」が表示されます。更に、選択ツマミでERROR LOGを選択し、同ツマミを押すと、下図の「図4-3-2 ERROR LOG階層」が表示されます。本書ではこの様な操作手順を”MENU→ERROR LOG”と表現し、ERROR LOG階層と呼びます。

ERROR LOG階層は、エラーログについてのオンスクリーン表示やフィルター指定、テキストファイル保存を行います。

```
>ERROR LOG
LOG FILTER
ERROR DET
PRESET
GPI
```

```
>SDI IN1
SDI IN2
SDI IN3
SDI IN4
LOG DISP
```

図4-3-1 メインメニュー階層

図4-3-2 ERROR LOG階層

1) SDI IN 1~4

オンスクリーン表示で使用する機能です。

MENU→ERROR LOG→SDI IN 1~4の選択で、SDI IN 1~4のERROR LOGをオンスクリーンで表示します。

この機能のご使用の際は、事前にオンスクリーンメニューを表示させておいてください。

(操作方法は「3.各部の名称と働き / 1.メインモジュール/コネクターモジュール / (2)ELディスプレイ/MENUスイッチ」を参照)

ELディスプレイはログ表示までの操作はできますが、ログ自体は表示されません。

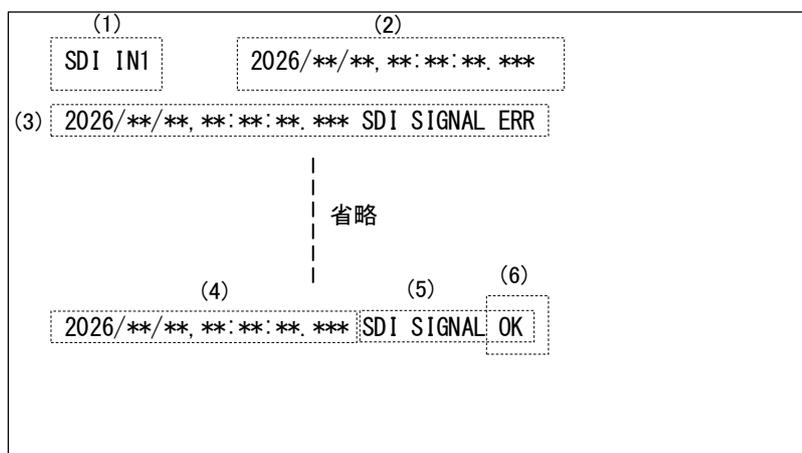


図4-3-3 ERROR LOG(オンスクリーン表示)

- (1) ERROR LOGを表示するSDI INを示します。
- (2) 内部時計の現在の時刻を示します。
****/**/**,**:**:**.*** = 年 / 月 / 日, 時 : 分 : 秒(1/1000秒まで表示)
- (3) 最新のログが最上段に表示されます。選択ツマミを回すとイベントがスクロールします。
- (4) エラーを検出した日時を示します。
- (5) エラー内容を示します。エラーの表示内容は表4-3-1 エラーログ一覧をご参照ください。
- (6) エラーが解除されるとOKの表示がされます。

・ご注意

- ①ログは各SDI入力に対して約10,000イベントまで記録され、越えた場合は順次古いイベントから削除され新しいイベントが記録されます。
- ②ログの表示能力は1秒間に約12行程度です。それを超える場合は表示されない時があります。
- ③ログはフラッシュメモリーに保存されるため、書き込みには時間がかかります。例えば数フレーム間隔でエラーが連続するような場合は、書き込み時間が間に合わず保存されない場合があります。(5フレーム間隔のエラーが約20秒以上連続した場合など。)
- ④フラッシュメモリーには寿命がありますので、頻繁に発生するエラーや運用に影響のないエラーなどは記録しないよう設定を見直してください。

表4-3-1 エラーログ一覧

名称	説明	ERROR DETECT 1~3対応
SDI SIGNAL	SDI信号なし	
TRS	映像タイミング基準コード(TRS)エラー	
LINE NUMBER	ラインナンバーエラー	
CRC Y	Yデータ系列CRCエラー	
CRC C	Cb,Crデータ系列CRCエラー	
LINE LENGTH	1ラインの長さエラー	
FIELD LENGTH	1フィールドの長さエラー	
RESERVED DATA	リザーブドデータエラー	
ANC PARITY	補助データパケットのパリティエラー	
ANC CHECKSUM	補助データパケットのチェックサムエラー	
BCH	エンベデッド・オーディオのエラー	
AUDIO PACKET	エンベデッド・オーディオ・パケットのデータブロック番号 インクリメントエラー	
NO AUDIO PACKET	エンベデッド・オーディオなし	
MUTE1~3	エンベデッド・オーディオ無音検出	○
BLACK1~3	黒味検出	○
FREEZE1~3	フリーズ検出	○
BLUE1~3	青色検出	○
COMPARE1~3	映像比較	○
STILL1~3	スチル検出(3G-SDI使用時は検出無し)	○
ASYNC	ASYNC検出	
LOG CLEAR	ログクリアー操作が行われた	
POWER ON	電源再投入が行われた	
HOLD RESET	ホールドされていたエラーアラームがリセットされた	

2) LOG DISP

MENU→ERROR LOG→LOG DISPの選択で、LOG FILTERによるERROR LOGの表示を設定します。



図4-3-4 LOG DISP階層

- ① ALL OFFとHIGHに設定された項目を表示します。
- ② HIGH HIGHに設定された項目のみを表示します。

3) LOG CLEAR

MENU→ERROR LOG→LOG CLEARの選択で、ERROR LOGをクリアーします。

ENTERボタンを押下するとERROR LOGのクリアーを実行します。

クリアーを実行しない時はMENUスイッチを押下してください。

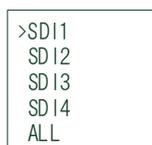


図4-3-5 LOG CLEAR階層

- ① SDI1 SDI IN 1のERROR LOGをクリアーします。
- ② SDI2 SDI IN 2のERROR LOGをクリアーします。
- ③ SDI3 SDI IN 3のERROR LOGをクリアーします。
- ④ SDI4 SDI IN 4のERROR LOGをクリアーします。
- ⑤ ALL SDI IN 1、2、3、4のERROR LOGをクリアーします

4) LOG MODE

MENU→ERROR LOG→LOG MODEの選択で、ERROR MODEを設定します。

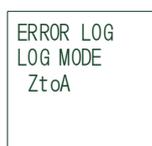


図4-3-6 LOG MODE階層

- ① ZtoA ログを記録の順に下から上へ表示します。テキストファイルの並びもこれに従います。
- ② AtoZ ログを記録の順に上から下へ表示します。テキストファイルの並びもこれに従います。

(2) LOG FILTER

MENU→LOG FILTERの選択で、ERROR LOG一覧のテキストファイルへの保存と、ERROR LOGの一覧から表示させたくない項目の指定をします。

```
>LOG SAVE
ALL SET
SDI SIGNAL
TRS
LINE NUMBER
```

図4-3-7 LOG FILTER階層

① LOG SAVE

FILTERをかけたログ一覧をテキストファイルlogtext.txtに保存します。
筐体のLANからFTPでダウンロードしてパソコンなどで閲覧・編集ができます。
詳細は「4.操作方法 / 4.ログのダウンロード」を参照してください。

LOG SAVEを選択すると下図の画面が表示されます。
ENTERボタンを押下するとLOG SAVEを実行します。
LOG SAVEを実行しない時はMENUスイッチを押下してください。

```
LOG FILTER
LOG SAVE
SAVE?
```

図4-3-8 LOG SAVE階層

② ALL SET

全てのエラー検出項目を一斉に設定します。

```
LOG FILTER
ALL SET
OFF
```

図4-3-9 ALL SET階層

- OFF………… LOG DISPの設定がALLの時のみにERROR LOGを表示しません。
- ON………… ログを表示しません。(フィルターをする)
- HIGH………… LOG DISPの設定がALLとHIGHの時にERROR LOGを表示します。

選択後にENTERボタンを押下してください。
以降の項目も同様の操作になります。

③ SDI SIGNAL	SDI信号無しエラーの表示設定をします。
④ TRS	TRSエラーの表示設定をします。
⑤ LINE NUMBER	LINE NUMBERエラーの表示設定をします。
⑥ CRC Y	Y信号のCRCエラーの表示設定をします。
⑦ CRC C	C信号のCRCエラーの表示設定をします。
⑧ LINE LENGTH	LINE LENGTHエラーの表示設定をします。
⑨ FIELD LENGTH	FIELD LENGTHエラーの表示設定をします。
⑩ RESERVED DATA	RESERVED DATAエラーの表示設定をします。
⑪ ANC PARITY	ANCILLARY PARITYエラーの表示設定をします。
⑫ ANC CHECKSUM	ANCILLARY CHECKSUMエラーの表示設定をします。
⑬ BCH	BCHエラーの表示設定をします。
⑭ AUDIO PACKET	AUDIO DATA PACKET DBNインクリメントエラーの表示設定をします。
⑮ NO AUDIO	NO AUDIO PACKETエラーの表示設定をします。
⑯ MUTE	MUTEエラーの表示設定をします。
⑰ BLACK	BLACKエラーの表示設定をします。
⑱ FREEZE	FREEZEエラーの表示設定をします。
⑲ BLUE	BLUEエラーの表示設定をします。
⑳ COMPARE	COMPAREエラーの表示設定をします。
㉑ STILL	STILLエラーの表示設定をします。(3G-SDIではご使用になれません)
㉒ ASYNC	ASYNCエラーの表示設定をします。

(3) ERROR DETECT

MENU→ERROR DETECTの選択で、エラー検出の設定とその検出状態を表示します。

```
>START STOP
s1 ERR DET
s2 ERR DET
s3 ERR DET
s4 ERR DET
```

図4-3-10 ERROR DETECT階層

1) START STOP

MENU→ERROR DETECT→START STOPの選択で、エラー検出動作の開始/停止を設定します。

```
ERROR DET
START STOP
START
```

図4-3-11 SATART STOP階層

- ① START エラー検出動作を開始します。
- ② STOP エラー検出動作を停止します。

2) s1~4 ERROR DETECT

MENU→ERROR DETECT→s1~4 ERROR DETECTの選択で、SDI IN 1~4の各エラー検出の状態を表示します。

設定項目の先頭の「s1」はSDI IN 1を示します。

オンスクリーン表示では複数のERROR項目が表示できます。(図4-3-13参照)

ELディスプレイでは選択した一つのERROR項目が表示されます。(図4-3-15参照)

```
>COUNT CLR
SDI SIGNAL
TRS
LINE NUM
CRC Y
```

図4-3-12 s1 ERROR DETECT階層

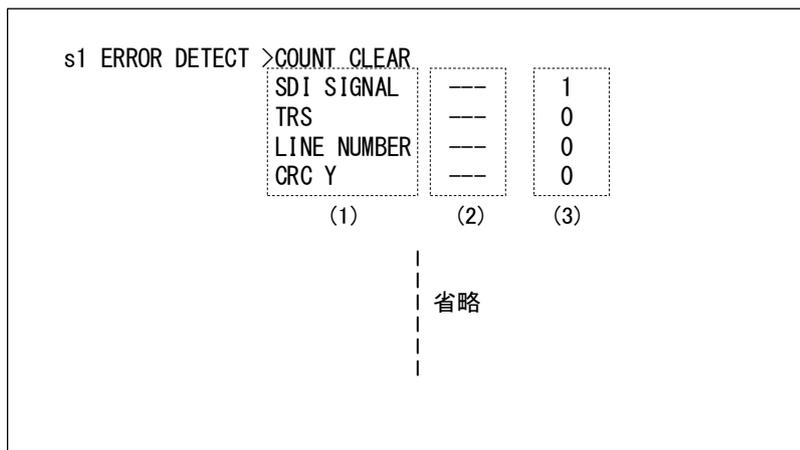


図4-3-13 s1 ERROR DETECT(オンスクリーン表示)

- (1) ERRORの項目名を示します。選択ツマミを回すと項目がスクロールします。
- (2) ERRORの検出状態を示します。“---”は未検出、“ERR”は検出がされている状態を示します。
- (3) ERRORのカウント数を示します。

- ① COUNT CLEAR エラーカウントをクリアします。

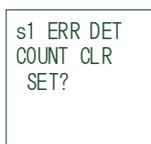


図4-3-14 COUNT CLEAR階層

- YES(ENTER)・・・ 操作を実行します。
- NO(MENU)・・・ 操作を実行しません。

- ② SDI SIGNAL SDI信号無しエラーの状態を表示します。



図4-3-15 SDI SIGNAL階層

ENTERもしくはMENUボタンの押下でこの表示を抜けます。
 以降の項目も同様の操作になります。

③ TRS	TRSエラー検出の状態を表示します。
④ LINE NUMBER	LINE NUMBERエラー検出の状態を表示します。
⑤ CRC Y	Y信号のCRCエラー検出の状態を表示します。
⑥ CRC C	C信号のCRCエラー検出の状態を表示します。。
⑦ LINE LENGTH	LINE LENGTHエラー検出の状態を表示します。
⑧ FIELD LENGTH	FIELD LENGTHエラー検出の状態を表示します。
⑨ RESERVED DATA	RESERVED DATAエラー検出の状態を表示します。
⑩ ANC PARITY	ANCILLARY PARITYエラー検出の状態を表示します。
⑪ ANC CHECKSUM	ANCILLARY CHECKSUMエラー検出の状態を表示します。
⑫ BCH	BCHのエラー検出の状態を表示します。
⑬ AUDIO PACKET	AUDIO DATA PACKET DBNインクリメントエラー検出の状態を表示します。
⑭ NO AUDIO	NO AUDIO PACKETエラー検出の状態を表示します。
⑮ MUTE	MUTEエラー検出の状態を表示します。
⑯ BLACK	BLACKエラー検出の状態を表示します。
⑰ FREEZE	FREEZEエラー検出の状態を表示します。
⑱ BLUE	BLUEエラー検出の状態を表示します。
⑲ COMPARE	COMPAREエラー検出の状態を表示します。
⑳ STILL	STILLエラー検出の状態を表示します。(3G-SDIではご使用になれません)
㉑ ASYNC	ASNCエラー検出の状態を表示します。

3) s1~4 ERROR SELECT

MENU→ERROR DETECT→s1~4 ERROR SELECTの選択で、SDI IN 1~4で使用するエラー検知のパターンを選択します。



図4-3-16 s1 ERROR SEELCT階層

① 123	ERROR DETECT 1、2、3を選択します。
② 1	ERROR DETECT 1を選択します。
③ 2	ERROR DETECT 2を選択します。
④ 3	ERROR DETECT 3を選択します。
⑤ 12	ERROR DETECT 1、2を選択します。
⑥ 23	ERROR DETECT 2、3を選択します。
⑦ 13	ERROR DETECT 1、3を選択します。

4) NO AUDIO PKT PHASE

MENU→ERROR DETECT→NO AUDIO PKT PHASEの選択で、NO AUDIO PACKETエラーについて音声クロック位相情報エラーの検出の有無を設定します。



図4-3-17 NO AUDIO PKT PHASE階層

- ① OFF 当検出を含めません。
- ② ON 当検出を含めます。

(4) PRESET

MENU→PRESETの選択で、各エラー検出の有無をプリセットとして設定します。

```
>s1 ERR PRE
s2 ERR PRE
s3 ERR PRE
s4 ERR PRE
COMP PARAM
```

図4-3-18 PRESET階層

1) s1～4 ERROR PRESET

MENU→PRESET→s1～4 ERROR PRESETの選択で、SDI IN 1～4のエラー検出のパラメータを設定します。

```
>s1 ERR DET1
s1 ERR DET2
s1 ERR DET3
s1 MUTE
s1 BLACK
```

図4-3-19 s1ERROR PRESET階層

① s1 ERROR DETECT1 エラー検知1で使用するプリセットパターンを設定します。

```
s1 ERR PRE
s1 ER DET1
1
```

図4-3-20 s1ERROR DETECT1階層

- 1～9………… プリセットパターン1～9(PRESET1～9)を選択します。
プリセットパターンは9パターンあり、SDI IN 1～4で共通です。
- OFF………… エラー検出を行いません。

② s1 ERROR DETECT2 エラー検知2で使用するプリセットパターンを設定します。
操作方法はs1 ERROR DETECT1と同じです。

③ s1 ERROR DETECT3 エラー検知3で使用するプリセットパターンを設定します。
操作方法はs1 ERROR DETECT1と同じです。

④ s1 MUTE

MUTE音声検出のパラメータ設定をします。

```
s1 TIME1
s1 TIME2
s1 TIME3
s1-4 LEVEL
s1 CHANNEL1
```

図4-3-21 s1MUTE階層

- s1 TIME1～3・・・ ERROR DETECT1～3の検出時間を設定します。
設定範囲は1～660秒です。
- s1-4 LEVEL・・・ MUTEを検出する音声レベルを設定します。
SDI IN 1～4共通です。
設定範囲は-80～-60dBFSです。
- s1 CHANNEL1～8・・・ チャンネル1～8のそれぞれの検出のON(有効)/
OFF(無効)を設定します。
- s1 CH MODE・・・ s1 CHANNEL1～8でONに設定したチャンネルの検出条件を
AND/ORで設定します。

AND： ONに設定したチャンネルが全てMUTEの時に 検出
になります。

OR： ONに設定したチャンネルのどれか1つでもMUTEに
なると検出になります。

⑤ s1 BLACK

BLACK映像検出のパラメータ設定をします。

```
s1 TIME1
s1 TIME2
s1 TIME3
s1-4 LEVEL
```

図4-3-22 s1BLACK階層

- s1 TIME1～3・・・ ERROR DETECT1～3の検出時間を設定します。
設定範囲は0～660秒です。
- s1-4 LEVEL・・・ BLACKを検出する輝度レベルを設定します。
SDI IN 1～4共通です。
設定範囲は0～99IREです。

- ⑥ s1 FREEZE FREEZE映像検出のパラメータ設定をします。



```
s1 TIME1
s1 TIME2
s1 TIME3
```

図4-3-23 s1FREEZE階層

- s1 TIME1～3・・・ ERROR DETECT1～3の検出時間を設定します。
設定範囲は0～19800フレームです。

- ⑦ s1 BLUE BLUE映像検出のパラメータ設定をします。



```
s1 TIME1
s1 TIME2
s1 TIME3
```

図4-3-24 s1 BLUE階層

- s1 TIME1～3・・・ ERROR DETECT1～3の検出時間を設定します。
設定範囲は0～999秒です。

- ⑧ s1 COMPARE COMPARE映像検出のパラメータ設定をします。



```
s1 TIME1
s1 TIME2
s1 TIME3
s1 DELAY
```

図4-3-25 s1COMPARE階層

- s1 TIME1～3・・・ ERROR DETECT1～3の検出時間を設定します。
設定範囲は0～19800フレームです。
- s1 DELAY・・・ 比較を行う映像の遅延時間を設定します。
設定範囲は0～240フレームです。

※COMPARE映像検出の共通設定はMENU→PRESET→COMPARE PARAMIにあります。

※設定値の詳細は「5.エラー検出について / 18.COMPARE」をご参照ください。

⑨ s1 STILL

STILL映像検出のパラメータ設定をします。(3G-SDIではご使用になれません)

```
s1 TIME1
s1 TIME2
s1 TIME3
s1 PIX CMP
s1 PIX VAR
```

図4-3-26 s1STILL階層

- s1 TIME1～3…… ERROR DETECT1～3の検出時間を設定します。
設定範囲は0～19800フレームです。
- s1 PIX COMPARE… ピクセル(画素)の静止判定のレベルを設定します。
PIX1～PIX10 : 10段階の設定モードです。
「PIX1」は静止画判定が厳しくなり、
「PIX10」は判定が甘くなります。
VARI : 数値設定モードです。
- s1 PIX COMP VARI…s1 PIX COMPAREで「VARI」を設定した時の数値設定
です。
1を設定するとピクセルの上位8ビットが完全に同じ場合に
静止画と判定します。
100を設定すると静止判定が甘くなり多少ピクセルが
変動していても静止画として判定します。
- s1 PIX HIT…… STILL判定するピクセル(画素)数の比率を設定します。
設定範囲は70～100%です。
100%を設定すると全ピクセルが静止判定した場合に
スチル判定します。
70%を設定すると全ピクセルの70%以上が静止判定した
場合にスチル判定します。

※設定値の詳細は「5.エラー検出について / 19.STILL」をご参照ください。

※完全に静止した映像を検出するにはFREEZEを使用してください。

※映像が多少変化してもスチルと検出しますので、ディゾルブなど1フレーム間で差分の変化が少ない
映像は設定値により、見た目でも動いていてもスチル検出することがあります。

⑩ s1 MASK

BLACK、FREEZE、STILLの検出範囲を決めるMASK設定をします。

```
s1 MASK
s1 PRESET
s1 LEFT
s1 RIGHT
s1 TOP
```

図4-3-27 s1MASK階層

- s1 MASK···· マスクのON(有効)/OFF(無効)を設定します。
マスクの範囲を表示するマスクカーソルは、SDI OUT 2を4分割画面以外に設定をした状態で、SDI OUT 2のみに出力されます。(図4-3-28参照)
この時、メニューの階層はMENU→PRESET→s1 ERROR PRESETに入っている必要があります。
- s1 PRESET···· マスクを使用するプリセットパターン1～8を選択します。
- s1 LEFT···· マスクの左位置を設定します。
- s1 RIGHT···· マスクの右位置を設定します。
- s1 TOP···· マスクの上位置を設定します。
- s1 BOTTOM·· マスクの下位置を設定します。
- s1 H MOVE···· マスク全体を横方向に移動します。
- s1 V MOVE···· マスク全体を縦方向に移動します。
- s1 REVERSE·· マスクを反転します。
- s1-4 LEVEL·· マスクカーソルの表示レベルを設定します。
1に設定するとカーソルに映像が透過し、4は透過しません。
SDI IN 1～4共通です。

・マスクカーソル

マスクカーソルは実際のマスクの範囲を示します。

マスクは下図のグレーの領域で示されるように、外枠と内部の矩形部分の二つで構成されます。

グレーの領域はBLACK、FREEZE、STILLの検出が行われません。

マスクの範囲の調整ができるのは内部の四角部分です。

外枠は全体の97.5%より外の領域で、固定の検出されない領域です。

REVERSEをONにするとマスクに対して検出エリアが反転します。

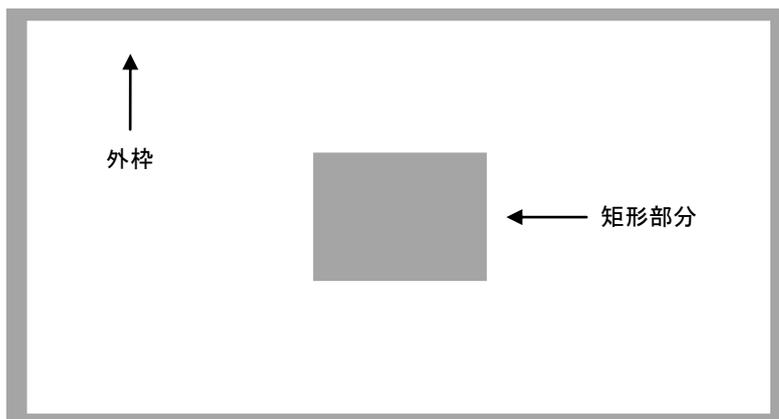


図4-3-28 マスクカーソル

2) COMPARE PARAM

MENU→PRESET→COMPARE PARAMの選択で、COMPARE映像検出の共通パラメータを設定します。

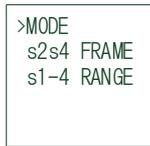


図4-3-29 COMPARE PARAM階層

- ① MODE 検出モードを設定します。
 - ALL…………… SDI IN 1～SDI IN 4の全ての入力で検出を行います。
 - PAIR…………… SDI IN 1と2、SDI IN 3と4の各ペアで検出を行います。
- ② s2S4 FRAME 映像比較で参照するフレームの数を設定します。
MODE設定がPAIRの時に有効な設定です。
- ③ s1-4 RANGE エラー判定を行う映像領域を設定します。
映像領域を80～100%の範囲で設定します。

※COMPARE映像検出のSDI入力別の設定は**MENU**→PRESET→ s1 ERROR PRESET→ s1 COMPAREにあります。

※設定値の詳細は「5.エラー検出について / 18.COMPARE」をご参照ください。

3) PRESET1～9

MENU→PRESET→PRESET1～9の選択で、各プリセットパターンのエラー検出の組み合わせを設定します。



図4-3-30 PRESET1階層

① ALL	全エラー検出項目を一斉に設定します。 > OFF…… エラー検出がされてもアラーム出力をしません。 > OR…… エラー検出がされるとアラーム出力をします。 他のエラー検出の影響は受けません。 > AND…… PRESET1階層の他のエラー検出項目について全てエラー検出 がされた場合にアラーム出力されます。 ※以降の項目も同様の操作になります。
② SDI SIGNAL	SDI信号無しエラーの状態を表示します。
③ TRS	TRSエラー検出の状態を表示します。
④ LINE NUMBER	LINE NUMBERエラー検出の状態を表示します。
⑤ CRC Y	Y信号のCRCエラー検出の状態を表示します。
⑥ CRC C	C信号のCRCエラー検出の状態を表示します。。
⑦ LINE LENGTH	LINE LENGTHエラー検出の状態を表示します。
⑧ FIELD LENGTH	FIELD LENGTHエラー検出の状態を表示します。
⑨ RESERVED DATA	RESERVED DATAエラー検出の状態を表示します。
⑩ ANC PARITY	ANCILLARY PARITYエラー検出の状態を表示します。
⑪ ANC CHECKSUM	ANCILLARY CHECKSUMエラー検出の状態を表示します。
⑫ BCH	BCHのエラー検出の状態を表示します。
⑬ AUDIO PACKET	AUDIO DATA PACKET DBNインクリメントエラー検出の状態を表示します。
⑭ NO AUDIO	NO AUDIO PACKETエラー検出の状態を表示します。
⑮ MUTE	MUTEエラー検出の状態を表示します。
⑯ BLACK	BLACKエラー検出の状態を表示します。
⑰ FREEZE	FREEZEエラー検出の状態を表示します。
⑱ BLUE	BLUEエラー検出の状態を表示します。
⑲ COMPARE	COMPAREエラー検出の状態を表示します。
⑳ STILL	STILLエラー検出の状態を表示します。(3G-SDIではご使用になれません)
㉑ ASYNC	ASNCエラー検出の状態を表示します。

(5) GPI

MENU → GPIの選択で、GPI入出力を設定します。

```
>HOLD MODE
FREE ASG
OA TALLY
NEXT TALLY
```

図4-3-31 GPI階層

1) HOLD MODE

MENU → GPI → HOLD MODEの選択で、アラーム出力の保持機能を設定します。

```
>HOLD MODE
HOLD TIME
HOLD RESET
```

図4-3-32 HOLD MODE階層

① HOLD MODE アラーム出力の保持機能を設定します。

```
HOLD MODE
HOLD MODE
OFF
```

図4-3-33 HOLD MODE階層

- OFF..... 設定を無効にします。
- ON..... 設定を有効にします。

一度発生したエラーが解消しても、その表示とGPI出力は保持されます。保持機能のリセットはメニュー操作のHOLD RESETまたはGPI、SNMPでリセットすることができます

② HOLD MODE TIME アラーム出力の自動リセット時間を分単位で設定します。

```
HOLD MODE
HOLD TIME
0
```

図4-3-34 HOLD TIME階層

0を設定するとリセットはされません。

1～99を設定した場合、その時間になるとホールド機能がリセットされます。

- ③ HOLD RESET 保持されたエラー出力をリセットします。



図4-3-35 HOLD RESET階層

- YES……… リセット操作を実行します。
- NO……… リセット操作を実行しません。

2) FREE ASSIGN

MENU → GPI → FREE ASSIGNの選択で、GPIの割り当てをカスタマイズします。

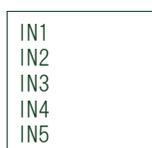


図4-3-36 FREE ASSIGN階層

図4-3-37 IN1階層

図4-3-38 OUT1階層

① IN1

GPI端子のIN1をカスタマイズします。

- OFF……… 未使用にします。
- SDI IN 1 OA TALLY……… SDI IN 1 OA TALLY入力にします。
- SDI IN 1 NEXT TALLY……… SDI IN 1 NEXT TALLY入力にします。
- SDI IN 2 OA TALLY……… SDI IN 2 OA TALLY入力にします。
- SDI IN 2 NEXT TALLY……… SDI IN 2 NEXT TALLY入力にします。
- SDI IN 3 OA TALLY……… SDI IN 3 OA TALLY入力にします。
- SDI IN 3 NEXT TALLY……… SDI IN 3 NEXT TALLY入力にします。
- SDI IN 4 OA TALLY……… SDI IN 4 OA TALLY入力にします。
- SDI IN 4 NEXT TALLY……… SDI IN 4 NEXT TALLY入力にします。
- ERROR DET START……… ERROR DETECT START入力にします。
- ERROR DET STOP……… ERROR DETECT STOP入力にします。
- OUT2 4SCREENS……… SDI OUT 2を4SCREENSへ切り替えます。
- OUT2 SDI IN1……… SDI OUT 2をSDI IN 1へ切り替えます。
- OUT2 SDI IN2……… SDI OUT 2をSDI IN 2へ切り替えます。
- OUT2 SDI IN3……… SDI OUT 2をSDI IN 3へ切り替えます。
- OUT2 SDI IN4……… SDI OUT 2をSDI IN 4へ切り替えます。
- OUT2 SDI SEQ……… SDI OUT 2を4SCREENSへ切り替えます。
- OUT2 TIME……… SDI OUT 2をTIMEへ切り替えます。
- HOLD RESET……… パルス入力でエラーホールドを解除します。

② IN2～6

GPI端子のIN2～6をカスタマイズします。設定方法はIN1と同じです。

③ OUT1

GPI端子のOUT1をカスタマイズします。

- OFF..... 未使用にします。
- SDI IN 1 OA TALLY..... SDI IN 1 OA TALLY出力にします。
- SDI IN 1 NEXT TALLY..... SDI IN 1 NEXT TALLY出力にします。
- SDI IN 2 OA TALLY..... SDI IN 2 OA TALLY出力にします。
- SDI IN 2 NEXT TALLY..... SDI IN 2 NEXT TALLY出力にします。
- SDI IN 3 OA TALLY..... SDI IN 3 OA TALLY出力にします。
- SDI IN 3 NEXT TALLY..... SDI IN 3 NEXT TALLY出力にします。
- SDI IN 4 OA TALLY..... SDI IN 4 OA TALLY出力にします。
- SDI IN 4 NEXT TALLY..... SDI IN 4 NEXT TALLY出力にします。
- ERROR DET START..... ERROR DETECT START出力にします。
- ERROR DET STOP..... ERROR DETECT STOP出力にします。
- OUT2 4SCREENS..... SDI OUT 2が4SCREENSの時に出力します。
- OUT2 SDI IN1..... SDI OUT 2がSDI IN 1の時に出力します。
- OUT2 SDI IN2..... SDI OUT 2がSDI IN 2の時に出力します。
- OUT2 SDI IN3..... SDI OUT 2がSDI IN 3の時に出力します。
- OUT2 SDI IN4..... SDI OUT 2がSDI IN 4の時に出力します。
- OUT2 SDI SEQ..... SDI OUT 2が4SCREENSの時に出力します。
- OUT2 TIME..... SDI OUT 2がTIMEの時に出力します。
- SDI IN1 ERROR..... s1 ERROR SELECTで選択したパターンが検出された時に出力します。
- SDI IN1 ERROR123..... SDI IN 1でERROR DETECT1、2、3が検出した時に出力します。(以下SDI IN 1の設定)
- SDI IN1 ERROR1..... ERROR DETECT1が検出した時に出力します。
- SDI IN1 ERROR2..... ERROR DETECT2が検出した時に出力します。
- SDI IN1 ERROR3..... ERROR DETECT3が検出した時に出力します。
- SDI IN1 ERRO12..... ERROR DETECT1、2が検出した時に出力します。
- SDI IN1 ERRO23..... ERROR DETECT2、3が検出した時に出力します。
- SDI IN1 ERRO13..... ERROR DETECT1、3が検出した時に出力します。
- SDI IN2 ERROR..... s2 ERROR SELECTで選択したパターンが検出された時に出力します。
- SDI IN2 ERROR123..... SDI IN 2でERROR DETECT1、2、3が検出した時に出力します。(以下SDI IN 2の設定)
- SDI IN2 ERROR1..... ERROR DETECT1が検出した時に出力します。
- SDI IN2 ERROR2..... ERROR DETECT2が検出した時に出力します。
- SDI IN2 ERROR3..... ERROR DETECT3が検出した時に出力します。
- SDI IN2 ERRO12..... ERROR DETECT1、2が検出した時に出力します。
- SDI IN2 ERRO23..... ERROR DETECT2、3が検出した時に出力します。
- SDI IN2 ERRO13..... ERROR DETECT1、3が検出した時に出力します。
- SDI IN3 ERROR..... s3 ERROR SELECTで選択したパターンが検出された時に出力します。
- SDI IN3 ERROR123..... SDI IN 3でERROR DETECT1、2、3が検出した時に出力します。(以下SDI IN 3の設定)

- SDI IN3 ERROR1..... ERROR DETECT1が検出した時に出力します。
 - SDI IN3 ERROR2..... ERROR DETECT2が検出した時に出力します。
 - SDI IN3 ERROR3..... ERROR DETECT3が検出した時に出力します。
 - SDI IN3 ERRO12..... ERROR DETECT1、2が検出した時に出力します。
 - SDI IN3 ERRO23..... ERROR DETECT2、3が検出した時に出力します。
 - SDI IN3 ERRO13..... ERROR DETECT1、3が検出した時に出力します。
 - SDI IN4 ERROR..... s4 ERROR SELECTで選択したパターンが検出された時に出力します。
 - SDI IN4 ERROR123..... SDI IN 4でERROR DETECT1、2、3が検出した時に出力します。(以下SDI IN 4の設定)
 - SDI IN4 ERROR1..... ERROR DETECT1が検出した時に出力します。
 - SDI IN4 ERROR2..... ERROR DETECT2が検出した時に出力します。
 - SDI IN4 ERROR3..... ERROR DETECT3が検出した時に出力します。
 - SDI IN4 ERRO12..... ERROR DETECT1、2が検出した時に出力します。
 - SDI IN4 ERRO23..... ERROR DETECT2、3が検出した時に出力します。
 - SDI IN4 ERRO13..... ERROR DETECT1、3が検出した時に出力します。
- ④ OUT2 GPI端子のOUT2をカスタマイズします。設定方法はOUT1と同じです。
- ⑤ EXT IN1～16 オプションのGPI拡張ケーブル(SMV-70H-01)のIN1～16をカスタマイズします。設定方法はIN1と同じです
- ⑥ EXT OUT1～16 オプションのGPI拡張ケーブル(SMV-70H-01)のOUT1～16をカスタマイズします。設定方法はOUT1と同じです

3) OA TALLY

MENU→GPI→OA TALLYの選択で、OAタリーの表示を設定します。

タリーの表示は、**MENU**→CONFIG→4 SCREENS→TALLY PATTERNを設定してください。



図4-3-39 OA TALLY階層



図4-3-40 NEXT TALLY階層

- ① SDI IN1～4 SDI IN 1～4のOAタリーを点灯させます。

4) NEXT TALLY

MENU→GPI→NEXT TALLYの選択で、NEXTタリーの表示を設定します。

タリーの表示は、**MENU**→CONFIG→4 SCREENS→TALLY PATTERNを設定してください。

- ① SDI IN1～4 SDI IN 1～4のNEXTタリーを点灯させます。

(6) SYSTEM

MENU→SYSTEMの選択で、システムに関する各種設定をします

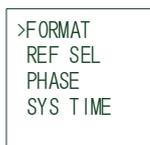


図4-3-41 SYSTEM階層

1) FORMAT

MENU→SYSTEM→FORMATの選択で、出力信号の映像フォーマットの切り替えをします。
入力信号と出力信号の映像フォーマットが異なる場合、入力信号を簡易変換して出力します。

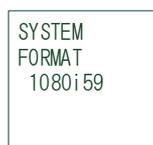


図4-3-42 FORMAT階層

- | | |
|------------|--|
| ① 1080i60 | 1080i60に設定します。 |
| ② 1080i59 | 1080i59.94に設定します。 |
| ③ 1080i50 | 1080i50に設定します。 |
| ④ 1080p60A | 1080p60 Level-A(1080p59.94Aと略します)に設定します。※ |
| ⑤ 1080p59A | 1080p59.94 Level-A(1080p59.94Aと略します)に設定します。※ |
| ⑥ 1080p50A | 1080p50 Level-A(1080p59.94Aと略します)に設定します。※ |
| ⑦ 1080p30 | 1080p30に設定します。 |
| ⑧ 1080p29 | 1080p29.97に設定します。 |
| ⑨ 1080p25 | 1080p25に設定します。 |
| ⑩ 1080p24 | 1080p24に設定します。 |
| ⑪ 1080p23 | 1080p23.98に設定します。 |
| ⑫ 1080sF30 | 1080sF30に設定します。 |
| ⑬ 1080sF29 | 1080sF29.97に設定します。 |
| ⑭ 1080sF25 | 1080sF25に設定します。 |
| ⑮ 1080sF24 | 1080sF24に設定します。 |
| ⑯ 1080sF23 | 1080sF23.98に設定します。 |

※ 映像フォーマット3G-SDIでのご使用時には機能制限がございます。詳しくは本書の「9.仕様 / 1.機能」欄をご参照ください。

2) REFERENCE SELECT

MENU→SYSTEM→REFERENCE SELECTの選択で、リファレンス信号の選択をします。



図4-3-43 REFERENCE SELECT階層

- ① EXT SUB 筐体内部バスのリファレンス信号に同期します。
- ② LINE DIRECT SDI IN 1の映像信号に同期します。

3) GENLOCK PHASE

MENU→SYSTEM→GENLOCK PHASEの選択で、EXT SUB設定時のSDI出力位相の設定をします。
LINE DIRECT設定時のこの設定は無視されます。
SDI出力信号の位相については、**MENU**→REFERENCE SELECTの説明も合わせてご参照ください。

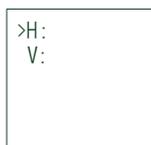


図4-3-44 GENLOCK PHASE階層

- ① H 水平位相を設定します。
- ② V 垂直位相を設定します。

4) SYSTEM TIME

MENU→SYSTEM→SYSTEM TIMEの選択で、内部時計の確認と設定をします。

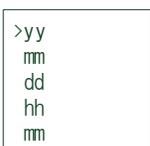


図4-3-45 SYSTEM TIME階層

- ① yy 年を設定します。
- ② mm 月を設定します。
- ③ dd 日を設定します。
- ④ hh 時を設定します。
- ⑤ mm 分を設定します。
- ⑥ ss 秒を設定します。

(7) CONFIG

MENU → CONFIGの選択で、機能に関する各種設定をします。

```
>DISPLAY
SD1 OUT2
4 SCREENS
SEQUENTIAL
IN1 TITLE
```

図4-3-46 CONFIG階層

1) DISPLAY

MENU → CONFIG → DISPLAYの選択で、本体正面の表示器とOSDに関する設定をします。

```
>SCRN SAVER
MAIN VIEW
OSD
OSD BRIGHT
```

図4-3-47 DISPLAY階層

① SCREEN SAVER スクリーンセーバーの設定を行います。

```
DI SPLAY
SCR SAVER
DIM 50%
```

図4-3-48 SCREEN SAVER階層

- DIM 50%..... MAIN VIEWの表示輝度が10分後に50%に落ちます。
- DIM 30%..... MAIN VIEWの表示輝度が10分後に30%に落ちます。
- OFF..... スクリーンセーバー機能を無効にします。
- NAME ROLL..... MAIN VIEWの表示が10分後に機種名に変わります。
- DIM 70%..... MAIN VIEWの表示輝度が10分後に70%に落ちます。

② OUT1, 2 OSD MENU SDI OUT1,2のオンスクリーン表示を設定します。

```
DI SPLAY
OSD1 MENU
ENABLE
```

図4-3-49 OUT1 OSD MENU階層

- DISABLE…………… 表示を無効にします。
- ENABLE…………… 表示を有効にします。

③ OUT1, 2 INFO DISP SDI OUT1,2の情報表示を設定します。



図4-3-50 OUT1 INFO DISP階層

- DISABLE…………… 表示を無効にします。
- STATUS…………… SDI信号の情報を表示します。

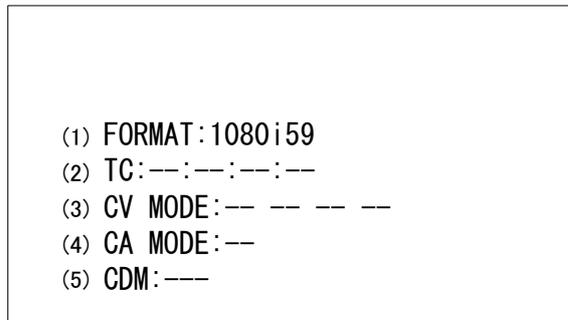


図4-3-51 INFO DISP STATUS表示項目(4分割画面表示)

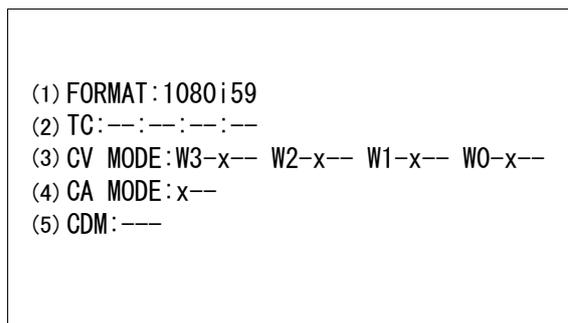


図4-3-52 INFO DISP STATUS表示項目(全画面表示)

- (1) 映像フォーマットを表示します。
- (2) タイムコードを表示します。

(3) カレント映像モードを表示します。(16進表示)

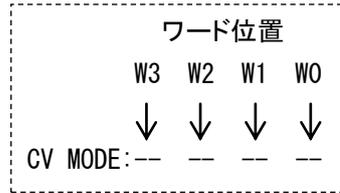


図4-3-53 4分割画面のCV MODE表示

(4) カレント音声モードを表示します。(16進表示)

(5) カレントダウンミックスを表示します。(2進表示)

➤ LOG..... ログを表示します。

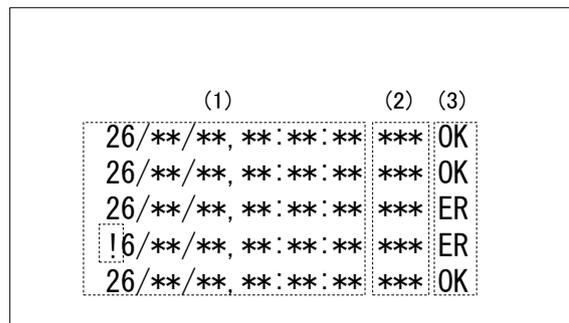


図4-3-54 INFO DISP LOG表示(オンスクリーン表示)

(1) エラーを検出した日時を示します。

(2) エラー内容を示します。

(3) エラーが解消されるとOKの表示がされます。

(4) エラーが解消されていない項目は"! "の表示がされます。

④ OSD BRIGHT

オンスクリーンメニューの輝度を設定します。

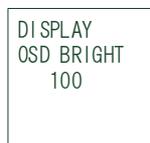


図4-3-55 OSD BRIGHT階層

2) SDI OUT2

MENU→CONFIG→SDI OUT2の選択で、SDI OUT 2の出力を設定します。



図4-3-56 SDI OUT2階層

- | | |
|--------------|----------------------|
| ① 4 SCREENS | 4分割画面を出力します。 |
| ② SDI IN1 | SDI IN 1を出力します。 |
| ③ SDI IN2 | SDI IN 2を出力します。 |
| ④ SDI IN3 | SDI IN 3を出力します。 |
| ⑤ SDI IN4 | SDI IN 4を出力します。 |
| ⑥ SEQUENTIAL | シーケンシャル切り替え映像を出力します。 |
| ⑦ TIME | 時計表示を出力します。 |

3) 4 SCREENS

MENU→CONFIG→4 SCREENSの選択で、4分割画面の設定をします。

4分割画面は、各SDI入力映像を4分割して表示する機能です。

設定変更の内容によっては、設定の反映に時間を要する場合があります。

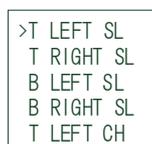


図4-3-57 4 SCREENS階層

4 SCREENS の表示

TOP LEFT	TOP RIGHT
BOTTOM LEFT	BOTTOM RIGHT

図4-3-58 4 SCREENSの各画面の名称

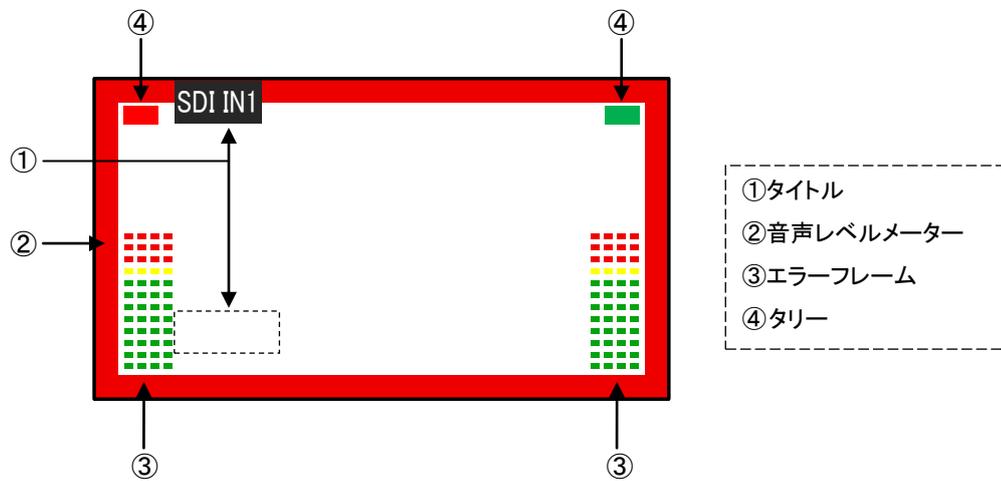


図4-3-59 4 SCREENSの各表示のイメージ(4分割の1画面)

- ① TOP LEFT SEL 左上の画面を選択します。
- SDI IN 1…………… SDI IN 1を表示します。
 - SDI IN 2…………… SDI IN 2を表示します。
 - SDI IN 3…………… SDI IN 3を表示します
 - SDI IN 4…………… SDI IN 4を表示します
 - BLACK…………… 黒画面にします。
 - TIME…………… 時計(内部時計)を表示します。
- ※内部時計はVbus-WebServer!によって
NTP!に同期させることができます。
- ② TOP RIGHT SEL 右上の画面を選択します。
選択内容はTOP LEFT SELと同じです。
- ③ BOTTOM LEFT SEL 左下の画面を選択します。
選択内容はTOP LEFT SELと同じです。
- ④ BOTTOM RIGHT SEL 右下の画面を選択します。
選択内容はTOP LEFT SELと同じです。
- ⑤ TOP LEFT CHR 左上画面の名称を設定します。
- OFF…………… 文字を表示しません。
 - AUTO UP…………… 自動で設定した文字を上側に表示します。
 - AUTO LOW…………… 自動で設定した文字を下側に表示します
 - TITLE UP…………… タイトル設定をした文字を上側に表示します。
 - TITLE LOW…………… タイトル設定をした文字を下側に表示します。
- ⑥ TOP RIGHT CHR 右上画面の名称を設定します。
選択内容はTOP LEFT CHRと同じです。
- ⑦ BOTTOM LEFT CHR 左下画面の名称を設定します。
選択内容はTOP LEFT CHRと同じです。
- ⑧ BOTTOM RIGHT CHR 右下画面の名称を設定します。
選択内容はTOP LEFT CHRと同じです。
- ⑨ AUDIO MODE 出力する音声を選択します。
- TOP LEFT…………… 左上の音声を出力します。
 - TOP RIGHT…………… 右上の音声を出力します。
 - BOTTOM LEFT……… 左下の音声を出力します。
 - BOTTOM RIGHT……… 右下の音声を出力します。
 - SDI IN 1…………… SDI IN 1を出力します。
 - SDI IN 2…………… SDI IN 2を出力します。
 - SDI IN 3…………… SDI IN 3を出力します。

- SDI IN 4..... SDI IN 4を出力します。
- MUTE..... 無音にします。

⑩ TALLY PATTERN

タリーを表示します。

- DISABLE..... 表示しません。
- TALLY 1..... タリーパターン1を表示します。
- TALLY 2..... タリーパターン2を表示します。

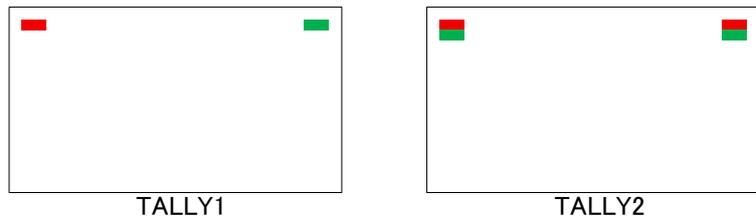


図4-3-60 タリーパターンの種類

⑪ AUDIO METER

音声レベルメーターを表示します。

- DISABLE..... 表示しません。
- ENABLE..... 表示します。

⑫ INFORMATION

SDI信号のエラーの検出状態を表示します。

- DISABLE..... 表示しません。
- ENABLE..... 表示します。

⑬ ERROR FRAME

エラー発生時にフレームを表示します。

- DISABLE..... 表示しません。
- ENABLE..... 表示します。

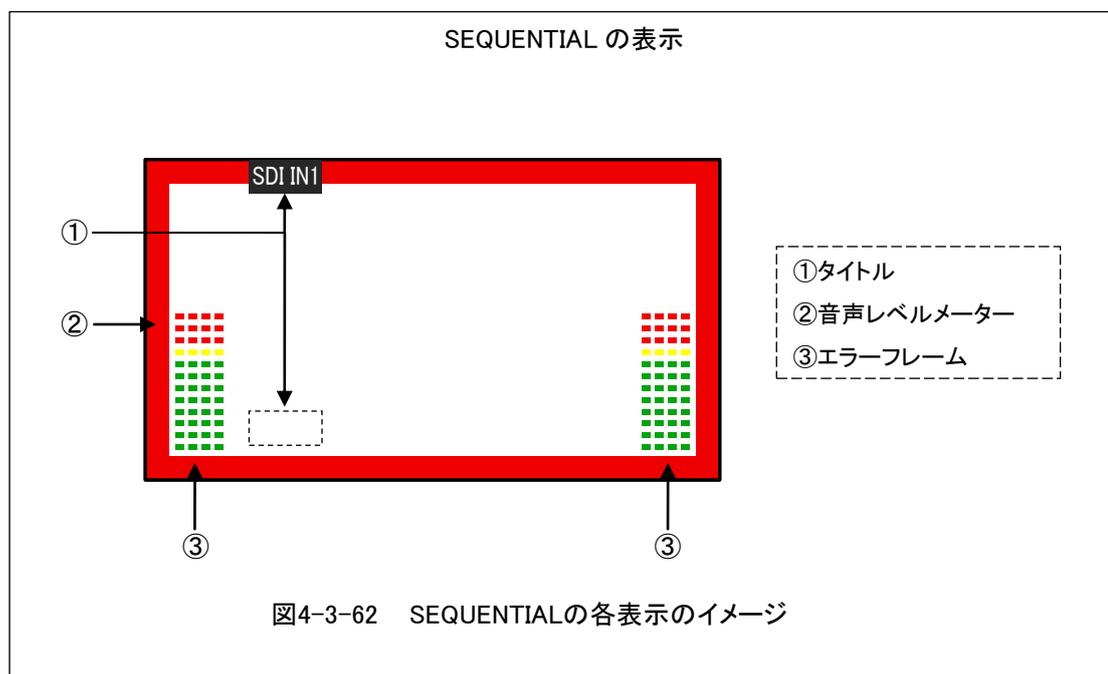
4) SEQUENTIAL

MENU→**CONFIG**→**SEQUENTIAL**の選択で、シーケンシャル切り替え表示の設定をします。

シーケンシャル切り替え表示は、各SDI入力映像を全画面で順番に切り替えて表示する機能です。設定変更の内容によっては、設定の反映に時間を要する場合があります。

```
>TRS TIME
SDI IN1
SDI IN2
SDI IN3
SDI IN4
```

図4-3-61 4 SEQUENTIAL階層



- ① TRANSITION TIME 映像の切り替え時間を秒単位で設定します。
- ② SDI IN 1～4 SDI IN 1～4の表示を設定します。
 - DISABLE…………… 表示しません。
 - ENABLE…………… 表示します。
- ③ CHARACTER 名称を設定します。
 - OFF…………… 文字を表示しません。
 - AUTO UP…………… 自動で設定した文字を上側に表示します。
 - AUTO LOW…………… 自動で設定した文字を下側に表示します。
 - TITLE UP…………… タイトル設定した文字を上側に表示します。
 - TITLE LOW…………… タイトル設定した文字を下側に表示します。

- ④ AUDIO METER 音声レベルメーターを表示します。
 - DISABLE…………… 表示しません。
 - ENABLE…………… 表示します。

- ⑤ INFORMATION SDI信号のエラーの検出状態を表示します。
 - DISABLE…………… 表示しません。
 - ENABLE…………… 表示します。

- ⑥ ERROR FRAME エラー発生時にフレームを表示します。
 - DISABLE…………… 表示しません。
 - ENABLE…………… 表示します。

5) SDI IN 1～4 TITLE

MENU→CONFIG→SDI IN 1～4 TITLEの選択で、SDI IN 1～4のそれぞれのタイトル名を設定します。

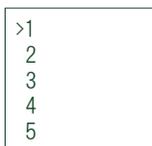


図4-3-63 SDI IN 1 TITLE階層

本体操作では英数字と”-“、スペースを設定できます。(英小文字は非対応)

漢字やかなの入力にはWebServerをご使用ください。

漢字によっては正しく表示できない場合がございますので、実際に入力をして表示をご確認ください。

全画面では全角・半角ともに20文字まで表示できます。

4分割表示では全角12文字、半角20文字まで表示できます。

6) TIME SELECT

MENU→CONFIG→TIME SELECTの選択で、時計表示の背景を設定します。



図4-3-64 TIME SELECT階層

- | | |
|---------|---------------|
| ① BLACK | 黒画面にします。 |
| ② SDI1 | SDI IN 1にします。 |
| ③ SDI2 | SDI IN 2にします。 |
| ④ SDI3 | SDI IN 3にします。 |
| ⑤ SDI4 | SDI IN 4にします。 |

7) OUT2 ERR CHG

MENU→CONFIG→OUT2 ERR CHGの選択で、エラー発生時のSDI OUT 2の切り替え動作を設定します。



図4-3-65 OUT2 ERR CHG階層

- | | |
|-------|-------------------------------|
| ① OFF | 切り替えをしません。(SDI OUT 2の設定に従います) |
| ② ON | エラーを検出したSDI入力信号に切り替えます。 |

(8) INFORMATION

MENU→INFORMATIONの選択で、各種ステータスの表示をします。

```
>VERSION
STATUS
s1 PAYLOAD
s2 PAYLOAD
s3 PAYLOAD
```

図4-3-66 INFORMATION階層

① VERSION

モジュールのバージョン情報を表示します。

- SOFT..... ソフトウェアのバージョン情報を表示します。
- HARD MAIN... ハードウェアのバージョン情報を表示します。
- HARD GEN... ゲンロックのハードウェアのバージョン情報を表示します。

② STATUS

各SDI入力の状態とオプションの情報を表示します。

```
>SDI IN1
SDI IN2
SDI IN3
SDI IN4
```

図4-3-67 STATUS階層

- SDI IN1~4... SDI IN 1~4の各信号の状態を表示します。
 - 「OK」..... 入力信号に異常がありません。
 - 「NO-SIG」..... 入力信号がありません。
 - 「UNFORMAT」.. 入力信号がロックできません。

③ IN1~4 PAYLOAD IN

SDI IN 1~4のペイロードIDを表示します。

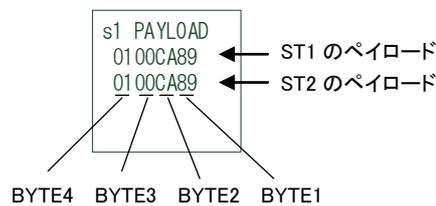


図4-3-68 IN1 PAYLOAD IN

PAYLOAD IDは16進数8桁でBYTE4~BYTE1の順に表示します。
また、PAYLOAD IDを含まない場合、“-----”と表示します。

④ PAYLOAD OUT

SDI OUT(1,2共通)のペイロードを表示します。

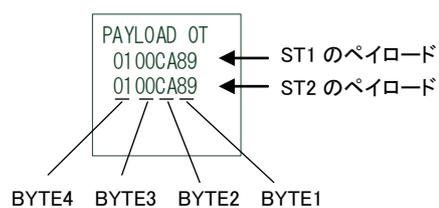


図4-3-69 IN1 PAYLOAD IN

PAYLOAD IDは16進数8桁でBYTE4～BYTE1の順に表示します。
また、PAYLOAD IDを含まない場合、“-----”と表示します。

(9) MAINTENANCE

MENU→MAINTENANCEの選択で、メンテナンスの操作をします。

```
>INI COND
FL FORMAT
s1 ERR DUMP
s2 ERR DUMP
s3 ERR DUMP
```

図4-3-70 MAINTENANCE階層

1) INIT CONDITION

MENU→MAINTENANCE→INIT CONDITIONの選択で、全ての設定値を工場出荷時に戻せます。

```
MTN
INI COND
INITIAL?
```

図4-3-71 INIT CONDITION階層

- ① YES(ENTERボタン) 初期化を実行します。
- ② NO(MENUスイッチ) 初期化を実行せず、キャンセルします。

2) FLASH FORMAT

MENU→MAINTENANCE→FLASH FORMATの選択で、フラッシュドライブのフォーマットができます。ログやその他のファイルも消去されますのでフラッシュドライブが壊れた時以外は使用禁止です。

```
MTN
FL FORMAT
SET?
```

図4-3-72 FLASH FORMAT階層

- ① YES(ENTERボタン) フォーマットを実行します。
- ② NO(MENUスイッチ) フォーマットを実行せず、キャンセルします。

3) s1~4 ERROR DUMP

MENU→MAINTENANCE→s1~4 ERROR DUMPの選択で、SDI IN 1~4の各エラーの検出状態を表示します。

オンスクリーン表示とELディスプレイでの確認が可能です。

・オンスクリーン表示での確認方法

オンスクリーンメニューを表示させてください。(操作方法は「3.各部の名称と働き / (2)ELディスプレイ / MENUスイッチ」を参照)

MENU→MAINTENANCE→s1 ERROR DUMPを選択します。(SDI IN 1の場合)

下図はオンスクリーン表示(OSD)です。

実際には全ての項目を表示する事はできませんので、選択ツマミの操作で表示範囲を調整してください。

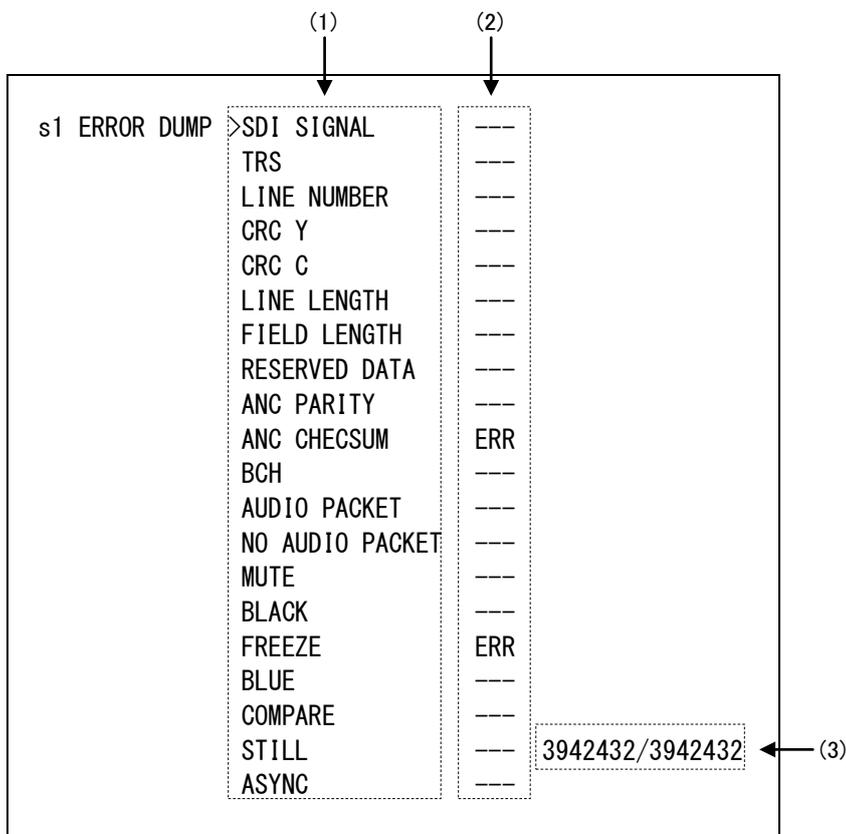


図4-3-73 pERROR DUMP

- (1) 検出項目を示します。
- (2) 検出状態を示します。
 - ----- エラーを検出していません。
 - ERR..... エラーを検出しています。
- (3) STILLの検出値を示します。(3G-SDIではご使用になれません)
 左の数値が現在の検出値で、右の数値は検出範囲での検出値の総数を示します。
 映像フォーマットが1080p59の時の検出値は常に0になります。

・ELディスプレイでの確認方法

MENU→MAINTENANCE→s1 ERROR DUMPを選択します。(SDI IN 1の場合)

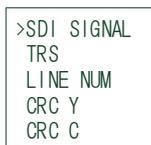


図4-3-74 s1 ERROR DUMP階層

- ① SDI SIGNAL SDI信号無しのエラー検出の状態を表示します。



図4-3-75 SDI SIGNAL階層

- ----..... エラーを検出していません。
 - ERR..... エラーを検出しています。
- ※以降の項目も同様の表示になります。

- ② TRS TRSエラー検出の状態を表示します。
- ③ LINE NUMBER LINE NUMBERエラー検出の状態を表示します。
- ④ CRC Y Y信号のCRCエラー検出の状態を表示します。
- ⑤ CRC C C信号のCRCエラー検出の状態を表示します。。
- ⑥ LINE LENGTH LINE LENGTHエラー検出の状態を表示します。
- ⑦ FIELD LENGTH FIELD LENGTHエラー検出の状態を表示します。
- ⑧ RESERVED DATA RESERVED DATAエラー検出の状態を表示します。
- ⑨ ANC PARITY ANCILLARY PARITYエラー検出の状態を表示します。
- ⑩ ANC CHECKSUM ANCILLARY CHECKSUMエラー検出の状態を表示します。
- ⑪ BCH BCHのエラー検出の状態を表示します。
- ⑫ AUDIO PACKET AUDIO DATA PACKET DBNインクリメントエラー検出の状態を表示します。
- ⑬ NO AUDIO NO AUDIO PACKETエラー検出の状態を表示します。
- ⑭ MUTE MUTEエラー検出の状態を表示します。
- ⑮ BLACK BLACKエラー検出の状態を表示します。
- ⑯ FREEZE FREEZEエラー検出の状態を表示します。
- ⑰ BLUE BLUEエラー検出の状態を表示します。
- ⑱ COMPARE COMPAREエラー検出の状態を表示します。
- ⑲ STILL STILLエラー検出の状態を表示します。(3G-SDIではご使用になれません)
- ⑳ ASYNC ASYNCエラー検出の状態を表示します。

4) FAN ROTATE

MENU→MAINTENANCE→FAN ROTATEの選択で、チップクーリングFANの回転数を表示します。



図4-3-76 FAN ROT階層

5) DEVICE TEMP

MENU→MAINTENANCE→DEV TEMPの選択で、メインデバイス温度を表示します。



図4-3-77 DEV TEMP階層

4. ログのダウンロード

ログのダウンロードは Vbus 筐体の LAN から FTP で接続をして行います。

Vbus 筐体の接続方法は Vbus-70 シリーズの取扱説明書をご参照ください。

まず、ログのテキストファイルを生成します。

・**MENU**→LOG FILTER→LOG SAVE で YES(ENTER ボタン)を選択して生成を実行します。

次に生成されたログテキストファイルをダウンロードします。

以下の手順はコマンドプロンプトから FTP コマンドを使用して SDI IN 1 のログをダウンロードする方法です。

SDI IN 2~4 のログをダウンロードする時は、※印の”logtext1.txt”を”logtext2.txt”、”logtext3.txt”、”logtext4.txt”としてください。

[FTP 接続操作]

```
C:\>data>ftp xx.xx.xx.xx[Enter] (ftp クライアントソフトを起動、x は Vbus 筐体の IP アドレス)
```

```
xx.xx.xx.xx に接続しました。
```

```
220 FTP Server ready
```

```
500 Unrecognized command
```

```
ユーザー(xx.xx.xx.xx(none)):ADMIN[Enter] (ユーザー名を半角大文字で入力)
```

```
331 Password required
```

```
パスワード:VBUS[Enter] (パスワードは表示されませんが半角大文字で入力)
```

```
230 Logged in
```

```
ftp>cd x:[Enter] (x はドライブ名 d~m で、Vbus 筐体スロット 1 が d、スロット 10 が m を示す)
```

```
250 Requested file action completed
```

[ログのダウンロード操作]

```
ftp> get logtext1.txt ※
```

```
200 Command successful
```

```
150 Opening data connection
```

```
226 Closing data connection; Requested file action successful
```

```
ftp: 25831 バイトが受信されました 0.26 秒 99.73KB/秒。
```

```
ftp>
```

ログはコマンドプロンプト上で示すディレクトリへ保存されます。

5. 設定ファイルのダウンロード、アップロード

メニューの設定状態を json ファイルでダウンロードできます。

また、アップロードによって設定の変更、他のモジュールへの設定のコピーができます。

json ファイルのダウンロード・アップロードは、筐体の LAN から WebServer で行います。

WebServer からのダウンロード・アップロードの場合は、Vbus-WebServer の取扱説明書をご参照ください。

※タイトルに表示する文字は、こちらの json ファイルではダウンロード、アップロードができません。

これらの文字の保存と復元は、WebServer の SETTING 画面の**設定 保存**、**設定 復元**機能をご使用ください。

5. エラー検出について

1. SDI SIGNAL

SDI信号なし

SDI信号未検出および映像フォーマットが一致しない場合、エラーにします。

2. TRS

映像タイミング基準コードエラー

映像タイミング基準コード(TRS)のH,V,FとP3~0の関係が一致しない場合、エラーにします。

映像タイミング基準コード
ビット番号

ワード番号	9 (MSB)	8	7	6	5	4	3	2	1	0 (LSB)
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	1	F	V	H	P3	P2	P1	P0	0	0

F=0 : 第1フィールドの期間 V=0 : デジタルアクティブフィールドの期間
 1 : 第2フィールドの期間 1 : デジタルフィールドブランキングの期間
 H=0 : SAV P3~0 : プロテクションビット
 1 : EAV

図5-1 TRSコード

3. LINE NUMBER

ラインナンバーエラー

映像タイミング基準コード(TRS)のFから数えたライン番号とライン番号データが一致しない場合、エラーにします。

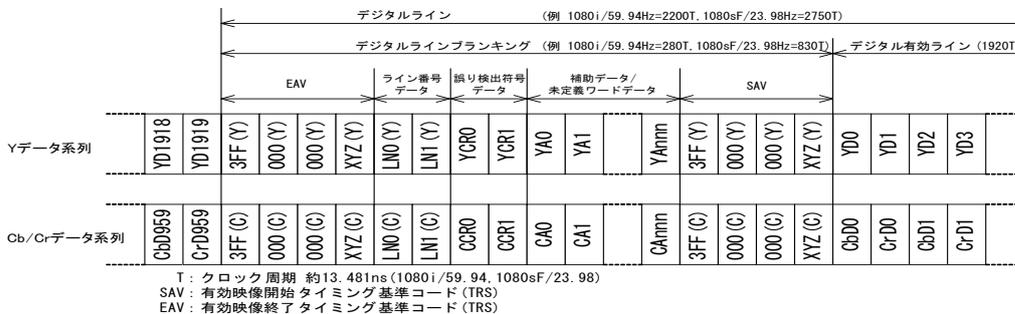


図5-2 データストリームの構造

4. CRC Y

Yデータ系列CRCエラー

Yデータ系列、前ラインのワード(YD0)からライン番号データの最後のワード(LN1)までの誤り検出符号の計算値と誤り検出符号データ(YCR0、YCR1)が一致しない場合、エラーにします。

5. CRC C

Cb,Crデータ系列CRCエラー

Cb/Crデータ系列、前ラインのワード(CbD0)からライン番号データの最後のワード(LN1)までの誤り検出符号の計算値と誤り検出符号データ(CCR0、CCR1)が一致しない場合、エラーにします。

6. LINE LENGTH

1ラインの長さエラー

SAVと次のSAV、SAVとEAVのサンプル数に異常がある場合、エラーにします。

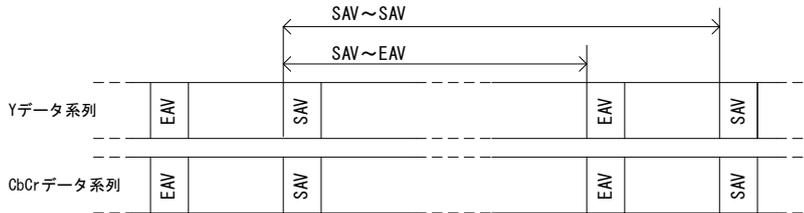


図5-3 SAVとEAVの位置

7. FIELD LENGTH

1フィールドの長さエラー

フィールド、デジタルフィールドブランキングのライン数に異常がある場合、エラーにします。

8. RESERVED DATA

リザーブドデータエラー

SAV、EAV、ADF以外に”000h~003h“、”3FCh~3FFh“のデータがある場合、エラーにします。

9. ANC PARITY

補助データパケットのパリティエラー

補助データパケットのDIDワード、DBN/SDIDワード、DCワードのパリティが一致しない場合、エラーにします。

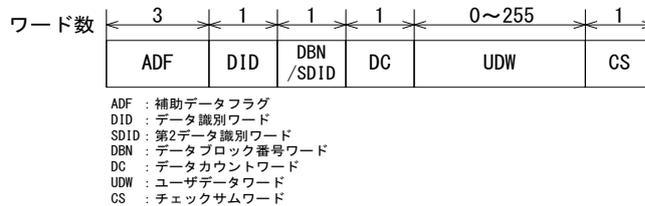


図5-4 音声データパケットの構造

10. ANC CHECKSUM

補助データパケットのチェックサムエラー

補助データパケットのDIDワードからUDWワードまでの総和の下位9ビットとCSワードが一致しない場合、エラーにします。

11. BCH

エンベデッド・オーディオのエラー

音声データパケットのADFワードから音声データCH4までの誤り訂正の生成値と誤り訂正データ(ECC0~5)が一致しない場合、エラーにします。

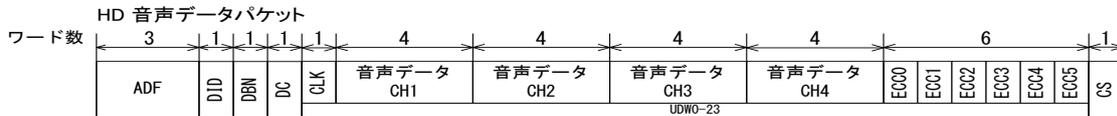


図5-5 誤り訂正データ(ECC0~5)

12. AUDIO PACKET

エンベデッド・オーディオ・パケットのデータブロック番号インクリメントエラー

音声データパケットのデータブロック番号ワード(DBN)がパケットごとに1ずつ増加し、1から255までの値の繰り返しに異常がある場合、エラーにします。

13. NO AUDIO PACKET

エンベデッド・オーディオなし

音声データパケットがない時や、音声クロック位相情報に異常がある場合にエラーにします。

音声クロック位相情報の検出の有無は **MENU** → ERROR DETECT → NO AUDIO PKT PHASE で設定をしてください。

工場出荷設定ではこの検出は含まれません。

音声データパケットのグループが一つでも検知されるとエラーにしません。

14. MUTE

無音検出

音声レベルのピーク値が閾値 (LEVEL 設定: -60~-80dBFS) 以下で一定時間 (DETECT TIME 設定: 0~999秒の範囲) 継続後、エラーにします。(1~8CH対応)

15. BLACK

黒味検出

この検出はマスク(MASK)で検出範囲を調整できます。(画面の約97.5%以内の範囲で)

輝度レベルのピーク値が閾値 (LEVEL 設定: 0~99IRE) 以下で一定時間 (TIME 設定: 0~999秒の範囲) 継続後、エラーにします。

※画面の約97.5%を検出領域としています。

※通常時のコンテンツに含まれる黒系映像と障害時の黒味映像を識別するために、単独で使用せず **必ず** FREEZE/STILL/MUTEなどを併用してください。

16. FREEZE

フリーズ検出

この検出はマスク(MASK)で検出範囲を調整できます。(画面の約97.5%以内の範囲で)

映像のラインごとにCRCを演算した1フィールドが1フレーム前の値と一致した状態が一定時間(DETECT TIME設定:0~999秒の範囲)継続後、エラーにします。

※画面の約97.5%を検出領域としています。

※フレーム間で圧縮した映像やノイズある映像は目視で静止していても、映像データが1ビットでも異なると動画と判定しフリーズ検出できません。その場合、19.STILL スチル検出を使用してください。

※映画等の3-2プルダウン変換の処理をした映像は静止していなくてもダブりのフィールドでフリーズを検出しますので、DETECT TIMEの設定を最低2フレーム以上にしてください。

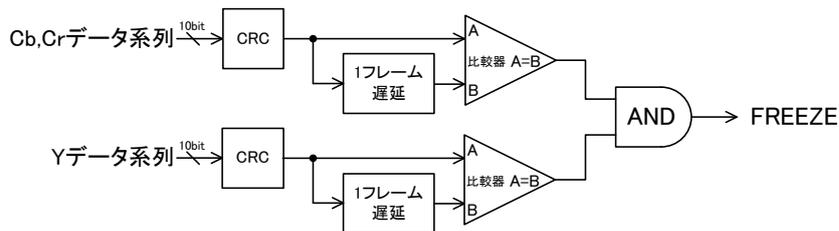


図5-6 フリーズの検出

17. BLUE

青色検出

色相が青色を基準に約-32~+25度、サンプル点が画面の約90%を占めた状態が一定時間(DETECT TIME設定:0~999秒の範囲)継続後、エラーにします。

※画面全体(輝度のみのサンプル点を除く)を検出領域としています。

※輝度が0IRE以下の場合や彩度が約35%以下の場合には検出しません。

※通常時のコンテンツに含まれる青系映像と障害時の青色映像を識別するために、単独で使用せず**必ず** FREEZE/STILL/MUTEなどを併用してください。

18. COMPARE

映像比較

各SDI入力映像を比較して不一致があればエラーにします。

検出モードとして、SDI IN 1~4を全て比較する"ALL"モードと、SDI IN 1と2、SDI IN 3と4の各ペアを比較する"PAIR"モードがあります。(MENU→PRESET→COMPARE PARAM→MODEにて設定)

いずれも、映像の画面全体で1サンプルでも不一致があれば、1フレーム+一定時間(DETECT TIME設定:0~19800フレームの範囲)継続後、エラーにします。

映像比較は、ライン毎に画素をCRC計算したデータを用いて行われます。

・DELAY設定

比較をする映像をSDI入力別に遅延させる事ができます。

設定範囲は0~240フレームです。(MENU→PRESET→s1~4 ERROR PRESET→s1~4 COMPARE→s1~4 DELAYにて設定)

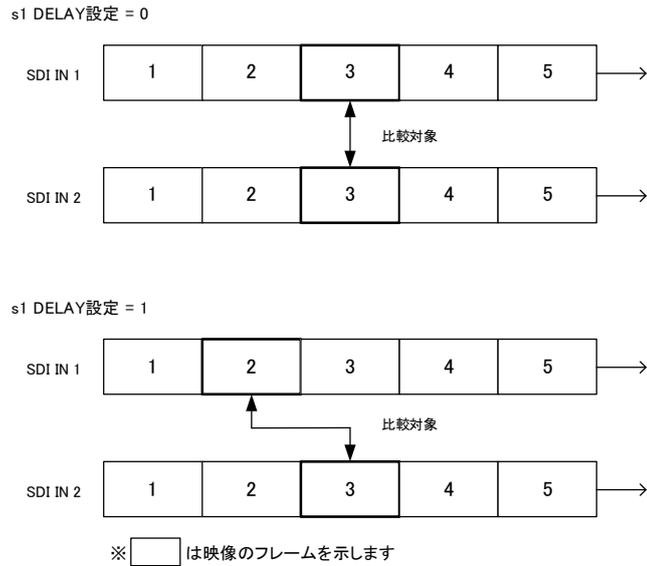


図4-3-16 DELAY設定

・FRAME設定

検出モードが”PAIR”の時に有効な設定です。

映像比較で参照するフレームの数を設定します。設定範囲は1~3フレームで、SDI IN 1~4共通です。

1フレーム設定時、SDI IN 1(もしくはIN 3)の1つのフレームとSDI IN 2(もしくはIN 4)の1つのフレームを比較します。

3フレーム設定時、SDI IN 1(もしくはIN 3)の1つのフレームとSDI IN 2(もしくはIN 4)の3つのフレームを比較します。

この比較するフレームで一致する映像がなければエラーと判定します。

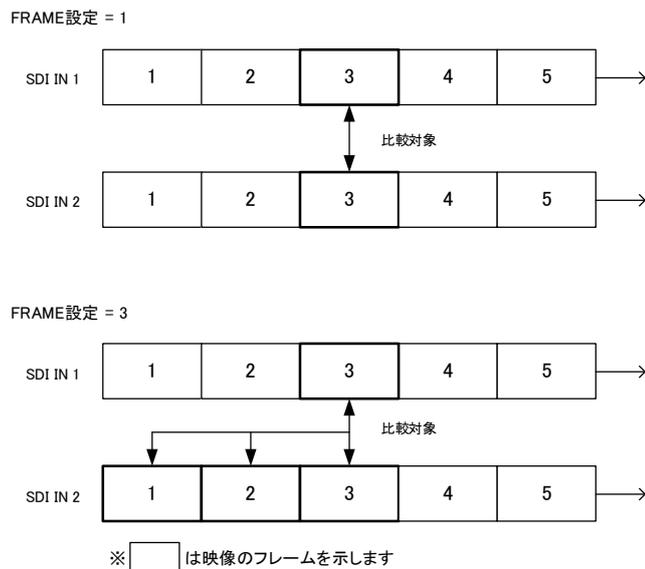


図4-3-18 FRAME設定

・RANGE設定

エラー判定を行う映像領域を設定します。設定範囲は80～100%で、SDI IN 1～4共通です。

100%設定時、比較する映像が全領域で一致しないとエラーになります。

80%設定時、比較する映像の80%の領域で一致しないとエラーになります。

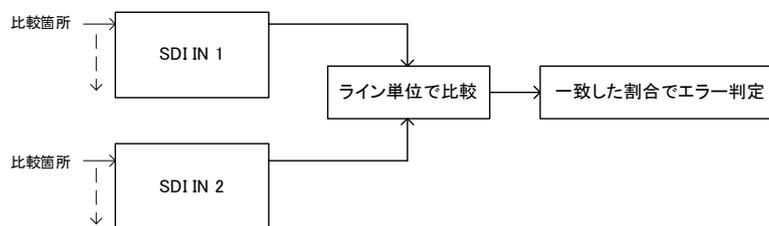


図4-3-17 RANGE設定

19. STILL

スチル検出

この検出はマスク(MASK)で検出範囲を調整できます。(画面の約97.5%以内の範囲で)

現在の映像と1フレーム遅延した映像との差分を取り、差分がPIX COMPARE未満の画素をPIX HITで設定した個数以上の状態が一定時間(DETECT TIME設定:0~999秒の範囲)継続後、エラーにします。

※画面の約 97.5%を検出領域としています。

※映像が多少変化してもスチルと検出しますのでディゾルブなど 1 フレーム間で差分の変化が少ない映像は設定値によりエラーになることがあります。

※映像データが完全に静止した映像を検出するには**16.FREEZE フリーズ検出**を使用してください。

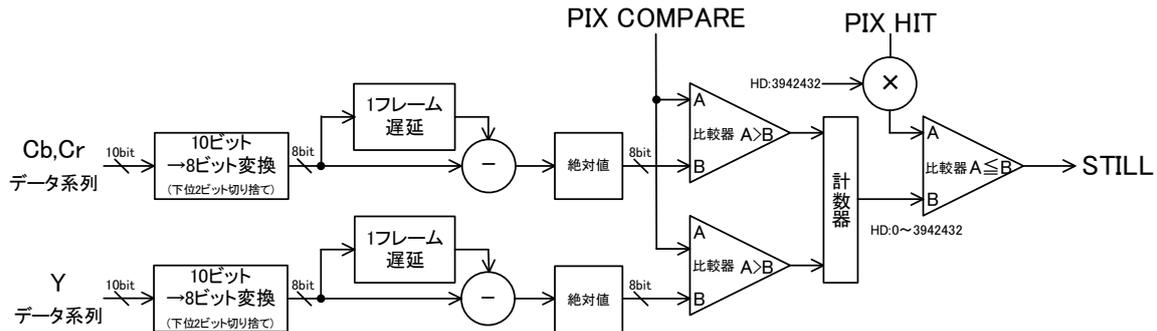


図5-7 スチルの検出

検出動作の例

以下の 2 枚のサンプル映像を使い、STILL の検出アルゴリズムを解説いたします。

2 枚の画像を比較すると飛行機の部分が違ってきます。通常で考えればこの映像は変化しているので動画になりますが、STILL は映像が変化しても静止画として検出する機能です。

・ 静止画素判定：実際の差分 < 条件の差分

(動画：実際の差分 > 条件の差分)

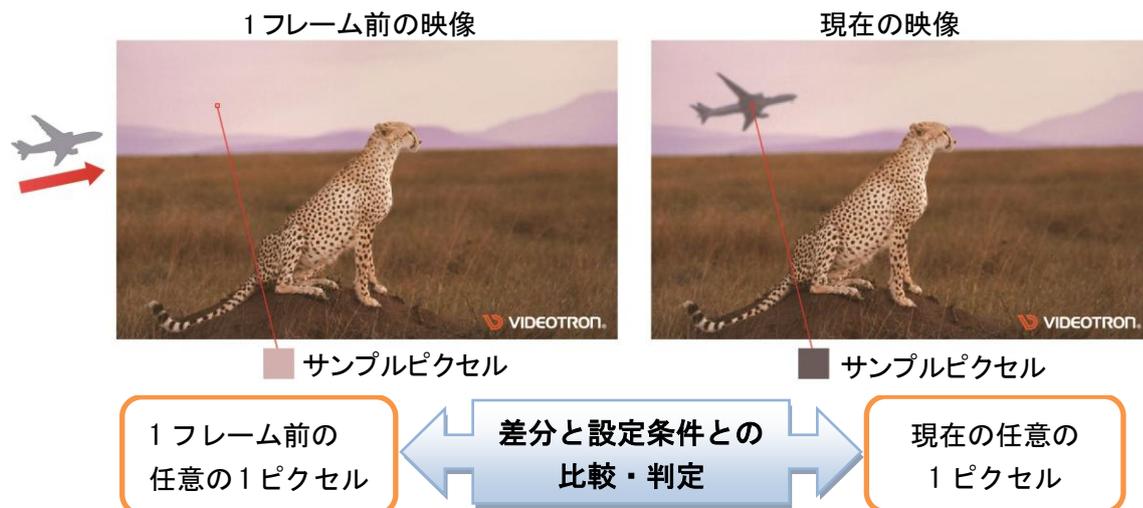


図 5-8 静止画素判定のイメージ

(1)1 ピクセルの比較条件の設定

まず【PIX COMPARE (PIX1~PIX10)】または、【PIX COMP VARI (1~100)】にて比較する任意の 1 ピクセル(1 画素)について条件を設定します。【1 フレーム前の任意の 1 ピクセル】と【現在の任意の 1 ピクセル】の実際の差分と設定した条件の差分を比較し実際の差分が設定条件を超えない時、任意のピクセルを静止画として判定します。

実際の差分が設定条件を超えた時、動画と判断し静止画判定されません。

例として映像にあるサンプルピクセルの差分が仮に 20%だったとすると、PIX COMPARE を PIX5(または PIX VARI 50)以下に設定すると動画と判断し静止画判定されません。PIX6(または PIX VARI 60)以上に設定しますと変化していても静止画と判定します。

【PIX COMP VARI 1】:前後のピクセルの違い(差分)が 0.39%未満(超えない)の時そのピクセルを静止画と判定します。PIX1~10 と VARI の関係は以下の表の通りです。

表 5-1 PIX COMPARE と PIX COMP VARI の対照表

PIX COMPARE(PIX)	PIX COMP VARI	差分(%)
PIX1	10	3.91%
PIX2	20	7.81%
PIX3	30	11.72%
PIX4	40	15.63%
PIX5	50	19.53%
PIX6	60	23.44%
PIX7	70	27.34%
PIX8	80	31.25%
PIX9	90	35.16%
PIX10	100	39.06%

(2)全体のピクセルの比較条件の設定

次に【PIX HIT (70~100%)】にて面全体のピクセル数に対して静止画判定したピクセル数がどの程度あるかで静止画と判定する割合を決定します。

上記サンプル映像の【1 フレーム前の全ピクセル】と【現在の全ピクセル】を比較します。

静止画と判定したピクセル数が設定値の割合を上回った場合 STILL と検知します。70~100%の値で設定します。

- ・ 静止画面判定：静止画面と判定したピクセル数>設定値の割合
 (動画：静止画と判定したピクセル数<設定値の割合)

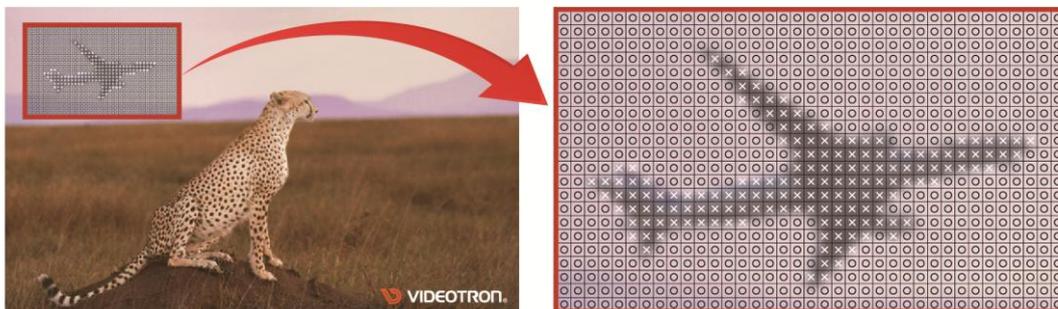


図 5-9 静止画面判定のイメージ

静止画と判定したピクセルを”○”、静止画として判定されなかったピクセルを”×”とします。

仮に”×”の数が全体の 10%だったとすると”○”の数は 90%になります。

PIX HIT の値を 90%以下に設定するとこの映像を静止画として検出します。

91%以上に設定すると静止画として検出されません。

以上より、【PIX COMPARE (PIX1~PIX10)】または、【PIX COMP VARI (1~100)】の設定値を大きくすると条件の範囲が広がるので静止画判定をしやすくなります。

また、【PIX HIT (70~100%)】は設定値を小さくすることで条件緩和されるので、静止画判定をしやすくなります。

20. ASYNC

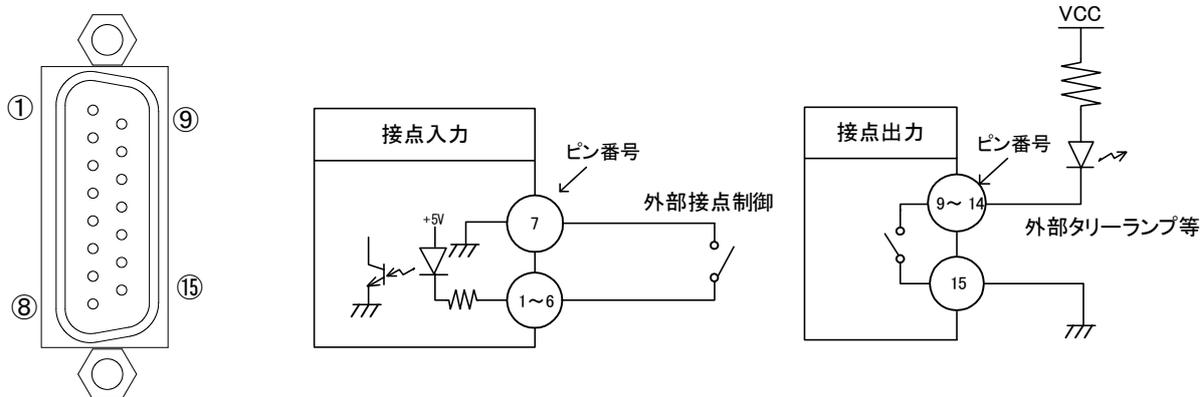
非同期検出

各SDI入力信号がリファレンス信号(MENU)→SYSTEM→REFERENCE SELECTにて設定)に対して同期をしていないとエラーにします。

なお、リファレンス信号に対して判定をするSDI入力信号の位相の変化が、5フレームの時間で2ピクセル以内の時はエラーとしては検出できません。

6. 外部インターフェース

1. GPI 端子



Dsub-15pin(f)

※薄型の Dsub コネクタのケースをご使用ください。

※推奨 Dsub コネクタケースは、第一電子工業社製：17JE-15H-1C-CF です。

※推奨 Dsub コネクタは、ヒロセ電機製：HDAB-15PF(05)です。

※Dsub コネクタの嵌合ネジはインチタイプです。

※接点出力の絶対最大定格は 60V/300mA です。外部抵抗で電流を 300mA 以下に制限してください。

※TTL 信号で接点制御する場合は、吸い込み電流が 12mA 以上のデバイスで駆動してください。

ピン番号	I/O	信号	名称	備考
1	I	接点入力	IN 1	フリーアサイン
2	I	接点入力	IN 2	フリーアサイン
3	I	接点入力	IN 3	フリーアサイン
4	I	接点入力	IN 4	フリーアサイン
5	I	接点入力	IN 5	フリーアサイン
6	I	接点入力	IN 6	フリーアサイン
7	-	GND	GND	接点入力及び 拡張 GPI 制御用グラウンド
8	O	+5V	+5V	拡張 GPI 制御用+5V ※GND への短絡にご注意ください
9	O	接点出力	OUT 1	フリーアサイン
10	O	接点出力	OUT 2	フリーアサイン
11	-	COM	CO M	接点出力用コモン
12	O	SCL	SCL1	拡張 GPI 制御用 SCL1
13	IO	SDA	SDA1	拡張 GPI 制御用 SDA1
14	O	SCL	SCL2	拡張 GPI 制御用 SCL2
15	IO	SDA	SDA2	拡張 GPI 制御用 SDA2

拡張 GPI 制御は、SMV-70H-01 GPIO 拡張ケーブル(オプション)で使用します。

7. SNMP

Vbus筐体からSNMPでステータス監視を行う時、SMV-70HのMIBデータは、以下の表に対応します。
 オブジェクト識別子は、【1. 3. 6. 1. 4. 1. 20120. 20. 1. [機種コード]. 1. 1. [項番]. [Index]】になります。
 (旧識別子は、【1. 3. 6. 1. 4. 1. 20120. [Index] . [項番]. 0】となります)

例:機種:SMV-70H、項番:3、スロット:1番の場合は【1. 3. 6. 1. 4. 1. 20120. 20. 1. 335. 1. 1. 3. 1】となります。

- [機種コード] …機種毎に番号が割り当てられています。(SMV-70Hは335となります。)
- [項番] …下記表の項番が入ります。(項番=OID:2バイト)
- [index] …スロット番号が入ります。(10スロットタイプの筐体は1~10が入ります。)

MIBデータが変化した時は【TRAP】が発生します。(SNMPまたはWebserverで更新された項番は【TRAP】が発生しません。)※SNMPおよびSNMP TRAPの詳細はVbus筐体の取扱説明書を参照してください。

表の内容

- アクセス …R/O=ReadOnly、R/W=Read/Writeを表します。
- TRAP …MIBデータが変化してトラップが発生する物を[○]で表します。

項番	オブジェクト識別子	アクセス	バイト数	内容	実装例	SYNTAX	TRAP
1	sms70hPid	R/O	80	プログラム情報	char PID[5][16]の内容 製品コード SMV-70H 会社名 VIDEOTRON Corp バージョン 01.00.00 R00 製造日時 2026/01/01 THU Build-00:00:00	STRING	
3	sms70hKCode	R/O	4	機種コード	335	INTEGER	
10	sms70hFanStop	R/O	4	FANの状態 (dipsw2 が ON の時に有効です。) 0=正常 1=停止また回転数低下	正常 0	INTEGER	○
12	sms70hRefInput	R/O	4	リファレンス入力とロックの状態 Bit0: 1=LINE DIRECT Bit1: 1=EXT SUB Bit2: 1=外部入力あり Bit3: 1=内部入力あり Bit4: 1=ロック OK	LINE DIRECT 25	INTEGER	○
14	sms70hInputVideo	R/O	2	SDI 入力の状態 Bit0: 1=SDI IN1 入力あり Bit1: 1=SDI IN2 入力あり Bit2: 1=SDI IN3 入力あり Bit3: 1=SDI IN4 入力あり	SDI1、SDI2、SDI3、SDI4 に入 力あり 15	INTEGER	○
21	sms70hErrSta	R/O	4	エラーステータス 0=エラーなし 1=DIPSW8 戻し忘れ警告	エラーなし 0	INTEGER	○
40	sms70hHardDipsw	R/O	4	ハードバージョン、ディップスイッチ などの情報 Bit0~15: バージョン(末尾 2 文字) Bit16~23: DIP SW1~8 Bit24~31: 予約		INTEGER	○

項番	オブジェクト識別子	アクセス	バイト数	内容	実装例	SYNTAX	TRAP
900	sms70HFpgaVer	R/O	8	FPGA バージョン	00.00.00	STRING	
1000	smv70hVformat	R/W	4	映像フォーマット 0=1080i60 1=1080i59.94 2=1080i50 3=1080p60A 4=1080p59A 5=1080p50A 6=1080p30 7=1080p29.97 8=1080p25 9=1080p24 10=1080p23.98 11=1080sF30 12=1080sF29.97 13=1080sF25 14=1080sF24 15=1080sF29.98	1080i59.94 0	INTEGER	○
1001	smv70hRefSel	R/W	4	リファレンス選択 0=EXT SUB 1=LINE DIRECT	EXT SUB 0	INTEGER	○
1002	smv70hGenHposi	R/W	4	ゲンロックポジション H -2749~2749	0	INTEGER	○
1003	smv70hGenVposi	R/W	4	ゲンロックポジション V -1124~1124	0	INTEGER	○
1004	smv70hSysDate	R/W	4	システム時計、日付 Bit0~7=日 Bit8~15=月 Bit16~31=年 ※リアルタイムには更新しません、更新させるには-1を設定してください。	2025年1月1日 132710657	INTEGER	○
1005	smv70hSysTime	R/W	4	システム時計、時間 Bit0~7=秒 Bit8~15=分 Bit16~23=時 ※リアルタイムには更新しません、更新させるには-1を設定してください。	1時1分1秒 65793	INTEGER	○
1100	smv70hErrStart	R/W	4	エラー監視 START/STOP 0=STOP 1=START	START 1	INTEGER	○

項番	オブジェクト識別子	アクセス	バイト数	内容	実装例	SYNTAX	TRAP
1101	smv70hs1ErrDetect	R/O	4	SDI IN1 のエラー検出 ビット対応 Bit0=SDI SIGNAL Bit1=TRS Bit2=LINE NUMBER Bit3=CRC Y Bit4=CRC C Bit5=LINE LENGTH Bit6=FIELD LENGTH Bit7=RESERVED DATA Bit8=NO EDH(未使用) Bit9=EDH(未使用) Bit10=ANC PARTY Bit11=ANC CHECKSUM Bit12=BCH Bit13=AUDIO PACKET Bit14=NO AUDIO Bit15=MUTE Bit16=BLACK Bit17=FREEZE Bit18=BLUE Bit19=COMPARE Bit20=STILL Bit21=ASYNC	エラーなし 0	INTEGER	○
1102	smv70hs2ErrDetect	R/O	4	SDI IN2 のエラー検出 項番 1101 と同じ	エラーなし 0	INTEGER	○
1103	smv70hs3ErrDetect	R/O	4	SDI IN3 のエラー検出 項番 1101 と同じ	エラーなし 0	INTEGER	○
1104	smv70hs4ErrDetect	R/O	4	SDI IN4 のエラー検出 項番 1101 と同じ	エラーなし 0	INTEGER	○
1105	smv70hs12ErrMtCh	R/O	4	MUTE ERROR CHANNEL Bit0:SDI IN1 CH1 Bit1:SDI IN1 CH2 Bit2:SDI IN1 CH3 Bit3:SDI IN1 CH4 Bit4:SDI IN1 CH5 Bit5:SDI IN1 CH6 Bit6:SDI IN1 CH7 Bit7:SDI IN1 CH8 Bit15:SDI IN2 CH1 Bit16:SDI IN2 CH2 Bit17:SDI IN2 CH3 Bit18:SDI IN2 CH4 Bit19:SDI IN2 CH5 Bit20:SDI IN2 CH6 Bit21:SDI IN2 CH7 Bit22:SDI IN2 CH8 ※MUTE を検出した時“1”に変化。	エラーなし 0	INTEGER	○

項番	オブジェクト識別子	アクセス	バイト数	内容	実装例	SYNTAX	TRAP
1106	smv70hs34ErrMtCh	R/O	4	MUTE ERROR CHANNEL Bit0:SDI IN3 CH1 Bit1:SDI IN3 CH2 Bit2:SDI IN3 CH3 Bit3:SDI IN3 CH4 Bit4:SDI IN3 CH5 Bit5:SDI IN3 CH6 Bit6:SDI IN3 CH7 Bit7:SDI IN3 CH8 Bit15:SDI IN4 CH1 Bit16:SDI IN4 CH2 Bit17:SDI IN4 CH3 Bit18:SDI IN4 CH4 Bit19:SDI IN4 CH5 Bit20:SDI IN4 CH6 Bit21:SDI IN4 CH7 Bit22:SDI IN4 CH8 ※MUTEを検出した時“1”に変化。	エラーなし 0	INTEGER	○
1107	smv70hErrSel	R/W	4	エラー検出の条件選択 Bit0~7:SDI IN1 の条件選択 Bit8~15:SDI IN2 の条件選択 Bit16~23:SDI IN3 の条件選択 Bit25~31:SDI IN4 の条件選択 条件選択内容 0=1,2,3or 1=1 2=2 3=3 4=1,2or 5=2,3or 5=1,3or	SDI IN1~4 すべて 1,2,3or 0	INTEGER	○
1108	smv70hNoAuPkPh	R/W	4	NOAUDIO PACKET 検出に遅延を含める設定 0=OFF(含めない) 1=ON(含める)	含めない 0	INTEGER	○
1109	smv70hs1ErrCnt1	R/O	4	SDI IN1 のエラー検出カウント 1 Bit0~7:SDI SIGNAL Bit8~15:TRS Bit16~23:LINE NUMBER Bit24~31:CRC Y ※カウントは 0~255	カウント 00	INTEGER	○
1110	smv70hs1ErrCnt2	R/O	4	SDI IN1 のエラー検出カウント 2 Bit0~7:CRC C Bit8~15:LINE LENGTH Bit16~23:FIELD LENGTH Bit24~31:RESERVED DATA ※カウントは 0~255	カウント 0 0	INTEGER	○
1111	smv70hs1ErrCnt3	R/O	4	SDI IN1 のエラー検出カウント 3 Bit0~7:NO EDH Bit8~15:EDH Bit16~23:ANC PARTY Bit24~31:ANC CHECKSUM ※カウントは 0~255	カウント 0 0	INTEGER	○

項番	オブジェクト識別子	アクセス	バイト数	内容	実装例	SYNTAX	TRAP
1112	smv70hs1ErrCnt4	R/O	4	SDI IN1 のエラー検出カウンタ 4 Bit0~7:BCH Bit8~15:AUDIO PACKET Bit16~23:NO AUDIO Bit24~31:MUTE ※カウンタは 0~255	カウンタ 0 0	INTEGER	○
1113	smv70hs1ErrCnt5	R/O	4	SDI IN1 のエラー検出カウンタ 5 Bit0~7:BLACK Bit8~15:FREEZE Bit16~23:BLUE Bit24~31:COMPARE ※カウンタは 0~255	カウンタ 0 0	INTEGER	○
1114	smv70hs1ErrCnt6	R/O	4	SDI IN1 のエラー検出カウンタ 6 Bit0~7:STILL Bit8~15:ASYNC ※カウンタは 0~255	カウンタ 0 0	INTEGER	○
1115	smv70hs2ErrCnt1	R/O	4	SDI IN2 のエラー検出カウンタ 1 項番 1109 と同じ	カウンタ 0 0	INTEGER	○
1116	smv70hs2ErrCnt2	R/O	4	SDI IN2 のエラー検出カウンタ 2 項番 1110 と同じ	カウンタ 0 0	INTEGER	○
1117	smv70hs2ErrCnt3	R/O	4	SDI IN2 のエラー検出カウンタ 3 項番 1111 と同じ	カウンタ 0 0	INTEGER	○
1118	smv70hs2ErrCnt4	R/O	4	SDI IN2 のエラー検出カウンタ 4 項番 1112 と同じ	カウンタ 0 0	INTEGER	○
1119	smv70hs2ErrCnt5	R/O	4	SDI IN2 のエラー検出カウンタ 5 項番 1113 と同じ	カウンタ 0 0	INTEGER	○
1120	smv70hs2ErrCnt6	R/O	4	SDI IN2 のエラー検出カウンタ 6 項番 1114 と同じ	カウンタ 0 0	INTEGER	○
1121	smv70hs3ErrCnt1	R/O	4	SDI IN3 のエラー検出カウンタ 1 項番 1109 と同じ	カウンタ 0 0	INTEGER	○
1122	smv70hs3ErrCnt2	R/O	4	SDI IN3 のエラー検出カウンタ 2 項番 1110 と同じ	カウンタ 0 0	INTEGER	○
1123	smv70hs3ErrCnt3	R/O	4	SDI IN3 のエラー検出カウンタ 3 項番 1111 と同じ	カウンタ 0 0	INTEGER	○
1124	smv70hs3ErrCnt4	R/O	4	SDI IN3 のエラー検出カウンタ 4 項 番 1112 と同じ	カウンタ 00	INTEGER	○
1125	smv70hs3ErrCnt5	R/O	4	SDI IN3 のエラー検出カウンタ 5 項番 1113 と同じ	カウンタ 0 0	INTEGER	○
1126	smv70hs3ErrCnt6	R/O	4	SDI IN3 のエラー検出カウンタ 6 項番 1114 と同じ	カウンタ 0 0	INTEGER	○
1127	smv70hs4ErrCnt1	R/O	4	SDI IN4 のエラー検出カウンタ 1 項番 1109 と同じ	カウンタ 0 0	INTEGER	○
1128	smv70hs4ErrCnt2	R/O	4	SDI IN4 のエラー検出カウンタ 2 項番 1110 と同じ	カウンタ 0 0	INTEGER	○
1129	smv70hs4ErrCnt3	R/O	4	SDI IN4 のエラー検出カウンタ 3 項番 1111 と同じ	カウンタ 0 0	INTEGER	○
1130	smv70hs4ErrCnt4	R/O	4	SDI IN4 のエラー検出カウンタ 4 項番 1112 と同じ	カウンタ 0 0	INTEGER	○
1131	smv70hs4ErrCnt5	R/O	4	SDI IN4 のエラー検出カウンタ 5 項番 1113 と同じ	カウンタ 0 0	INTEGER	○
1132	smv70hs4ErrCnt6	R/O	4	SDI IN4 のエラー検出カウンタ 6 項番 1114 と同じ	カウンタ 0 0	INTEGER	○
1133	smv70hErrCntClr	R/W	4	エラー検出カウンタのクリアー ビット対応 Bit0:SDI IN1 Bit1:SDI IN2 Bit2:SDI IN3 Bit3:SDI IN4 ※'1'にするとクリアー	読み出しは常に 0	INTEGER	○

項番	オブジェクト識別子	アクセス	バイト数	内容	実装例	SYNTAX	TRAP
1200	smv70hOut2Select	R/W	4	SDI OUT2 の選択 0=4 画面 1=SDI IN1 の FULL 画面 2=SDI IN2 の FULL 画面 3=SDI IN3 の FULL 画面 4=SDI IN4 の FULL 画面 5=SDI IN1~4 のシーケンシャル 6=時計画面	4 画面 0	INTEGER	○
1201	smv70hOut2ErrChg	R/W	4	エラー発生時の SDI OUT2 切替 0=OFF(切替なし) 1=ON(切替あり)	切替なし 0	INTEGER	○
1202	smv70hOANext	R/W	4	ON-AIR、NEXT の設定 Bit0~7:ON-AIR の設定 Bit8~15:NEXT の設定 ※設定内容 0=SDI IN1 1=SDI IN2 2=SDI IN3 3=SDI IN4	ON-AIR=SDI IN1、NEXT=SDI IN2 256	INTEGER	○
1300	smv70hLogFilter1	R/W	4	ERROR LOG 表示のフィルター設定 1 と LOG のテキスト保存ビット対応、2bit で設定 0,0=OFF 0,1=ON 1,0=HIGH Bit1,0=SDI SIGNAL Bit3,2=TRS Bit5,4=LINE NUMBER Bit7,6=CRC Y Bit9,8=CRC C Bit11,10=LINE LENGTH Bit13,12=FIELD LENGTH Bit15,14=RESERVED DATA Bit17,16=NO EDH(未使用) Bit19,18=EDH(未使用) Bit21,20=ANC PARTY Bit23,22=ANC CHECKSUM Bit25,24=BCH Bit27,26=AUDIO PACKET Bit29,28=NO AUDIO Bit31,30=MUTE ※-1 を書き込むと LOG をテキストファイル logtext.txt に保存します。	全て OFF 0	INTEGER	○
1301	smv70hLogFilter2	R/W	4	ERROR LOG 表示のフィルター設定 1 ビット対応、2bit で設定 0,0=OFF 0,1=ON 1,0=HIGH Bit1,0=BLACK Bit3,2=FREEZE Bit5,4=BLUE Bit7,6=COMPARE Bit9,8=STILL Bit11,10=ASYNC	全て OFF 0	INTEGER	○

項番	オブジェクト識別子	アクセス	バイト数	内容	実装例	SYNTAX	TRAP
1302	smv70hLogClear	R/W	4	ERROR LOG のクリアー 1=SDI IN1 のログクリアー 2=SDI IN2 のログクリアー 3=SDI IN3 のログクリアー 4=SDI IN4 のログクリアー 5=SDI IN1~4 全てのログクリアー	読み出しは常に 0	INTEGER	○
1303	smv70hLogMode	R/W	4	ログ表示モードの設定 Bit0~7:表示フィルターモード 0=ALL、1=HIGH Bit8~15:表示順モード 0=ZtoA、1=AtoZ	表示フィルターモード=ALL、表示順モード ZtoA 0	INTEGER	○
1304	smv70hSnmLogSel	R/W	4	Webserver ログ表示選択 0=SDI IN1 のログ 1=SDI IN2 のログ 2=SDI IN3 のログ 3=SDI IN4 のログ 4=システムログ	SDI IN1 のログを表示 0	INTEGER	○
1400	smv70hs1PresetSel	R/W	4	SDI IN1 のプリセット選択 Bit0~7:ERROR DETECT1 Bit8~15:ERROR DETECT2 Bit16~23:ERROR DETECT3 設定内容 0=OFF1~9=PRESET1~9	ERROR DETECT1=1、ERROR DETECT2=OFF、ERROR DETECT3=OFF1	INTEGER	○
1401	smv70hs2PresetSel	R/W	4	SDI IN2 のプリセット選択 Bit0~7:ERROR DETECT1 Bit8~15:ERROR DETECT2 Bit16~23:ERROR DETECT3 設定内容 0=OFF 1~9=PRESET1~9	ERROR DETECT1=1、ERROR DETECT2=OFF、ERROR DETECT3=OFF 1	INTEGER	○
1402	smv70hs3PresetSel	R/W	4	SDI IN3 のプリセット選択 Bit0~7:ERROR DETECT1 Bit8~15:ERROR DETECT2 Bit16~23:ERROR DETECT3 設定内容 0=OFF 1~9=PRESET1~9	ERROR DETECT1=1、ERROR DETECT2=OFF、ERROR DETECT3=OFF 1	INTEGER	○
1403	smv70hs4PresetSel	R/W	4	SDI IN4 のプリセット選択 Bit0~7:ERROR DETECT1 Bit8~15:ERROR DETECT2 Bit16~23:ERROR DETECT3 設定内容 0=OFF 1~9=PRESET1~9	ERROR DETECT1=1、ERROR DETECT2=OFF、ERROR DETECT3=OFF 1	INTEGER	○
1404	smv70hPageSel	R/W	4	プリセットページの切替 項番 1405、1406 の内容を切り替える 0~8=PRESET1~9	PRESET1 に切替 0	INTEGER	○

項番	オブジェクト識別子	アクセス	バイト数	内容	実装例	SYNTAX	TRAP
1405	smv70hPresetData1	R/W	4	PRESET データ 1 の設定 (PRESET1~9 の切り替えは 1404 で行う) ビット対応、2bit で設定 0,0=OFF 0,1=OR 1,0=AND 検出 Bit1,0=SDI SIGNAL Bit3,2=TRS Bit5,4=LINE NUMBER Bit7,6=CRC YBit9,8=CRC C Bit11,10=LINE LENGTH Bit13,12=FIELD LENGTH Bit15,14=RESERVED DATA Bit17,16=未使用 Bit19,18=未使用 Bit21,20=ANC PARTY Bit23,22=ANC CHECKSUM Bit25,24=BCH Bit27,26=AUDIO PACKET Bit29,28=NO AUDIO Bit31,30=MUTE	SDI SINGNAL OR 1	INTEGER	○
1406	smv70hPresetData2	R/W	4	PRESET データ 2 の設定 (PRESET1~9 の切り替えは 1404 で行う) ビット対応、2bit で設定 0,0=OFF 0,1=ON 1,0=AND 検出 Bit1,0=BLACK Bit3,2=FREEZE Bit5,4=BLUE Bit7,6=COMPARE Bit9,8=STILL Bit11,10=ASYNC	BLACK OR 1	INTEGER	○
1407	smv70hs12MtDetTm 1	R/W	4	SDI IN1,2 の MUTE エラー検出時 間設定 1 Bit0~15: SDI IN1 TIME1 Bit16~31: SDI IN2 TIME1 1~660(秒)	SDI IN1 TIME1=5 秒 SDI IN2 TIME1=5 秒 327685	INTEGER	○
1408	smv70hs34MtDetTm 1	R/W	4	SDI IN3,4 の MUTE エラー検出時 間設定 1 Bit0~15: SDI IN1 TIME1 Bit16~31: SDI IN2 TIME1 1~660(秒)	SDI IN3 TIME1=5 秒 SDI IN4 TIME1=5 秒 327685	INTEGER	○
1409	smv70hs12MtDetTm 2	R/W	4	SDI IN1,2 の MUTE エラー検出時 間設定 2 Bit0~15: SDI IN1 TIME2 Bit16~31: SDI IN2 TIME2 1~660(秒)	SDI IN1 TIME2=5 秒 SDI IN2 TIME2=5 秒 327685	INTEGER	○
1410	smv70hs34MtDetTm 2	R/W	4	SDI IN3,4 の MUTE エラー検出時 間設定 2 Bit0~15: SDI IN1 TIME2 Bit16~31: SDI IN2 TIME2 1~660(秒)	SDI IN3 TIME2=5 秒 SDI IN4 TIME2=5 秒 327685	INTEGER	○
1411	smv70hs12MtDetTm 3	R/W	4	SDI IN1,2 の MUTE エラー検出時 間設定 2 Bit0~15: SDI IN1 TIME3 Bit16~31: SDI IN2 TIME3 1~660(秒)	SDI IN1 TIME3=5 秒 SDI IN2 TIME3=5 秒 327685	INTEGER	○

項番	オブジェクト識別子	アクセス	バイト数	内容	実装例	SYNTAX	TRAP
1412	smv70hs34MtDetTm3	R/W	4	SDI IN3,4 の MUTE エラー検出時間設定 2 Bit0~15: SDI IN1 TIME3 Bit16~31: SDI IN2 TIME3 1~660(秒)	SDI IN3 TIME3=5 秒 SDI IN4 TIME3=5 秒 327685	INTEGER	○
1413	smv70hs12MtDetCh	R/W	4	MUTE エラー検出チャンネルの設定 1 Bit0~15:SDI IN1 Bit0:CH1 0=OFF,1=ON Bit1:CH2 0=OFF,1=ON Bit2:CH3 0=OFF,1=ON Bit3:CH4 0=OFF,1=ON Bit4:CH5 0=OFF,1=ON Bit5:CH6 0=OFF,1=ON Bit6:CH7 0=OFF,1=ON Bit7:CH8 0=OFF,1=ON Bit8~15:CH MODE 0=AND,1=OR Bit16~31:SDI IN2 Bit16:CH1 0=OFF,1=ON Bit17:CH2 0=OFF,1=ON Bit18:CH3 0=OFF,1=ON Bit19:CH4 0=OFF,1=ON Bit20:CH5 0=OFF,1=ON Bit21:CH6 0=OFF,1=ON Bit22:CH7 0=OFF,1=ON Bit23:CH8 0=OFF,1=ON Bit24~31:CH MODE 0=AND,1=OR	SDI IN1,2 CH1~8=ON、AND モード 16711935	INTEGER	○
1414	smv70hs34MtDetCh	R/W	4	MUTE エラー検出チャンネルの設定 2 Bit0~15:SDI IN3 Bit0:CH1 0=OFF,1=ON Bit1:CH2 0=OFF,1=ON Bit2:CH3 0=OFF,1=ON Bit3:CH4 0=OFF,1=ON Bit4:CH5 0=OFF,1=ON Bit5:CH6 0=OFF,1=ON Bit6:CH7 0=OFF,1=ON Bit7:CH8 0=OFF,1=ON Bit8~15:CH MODE 0=AND,1=OR Bit16~31:SDI IN4 Bit16:CH1 0=OFF,1=ON Bit17:CH2 0=OFF,1=ON Bit18:CH3 0=OFF,1=ON Bit19:CH4 0=OFF,1=ON Bit20:CH5 0=OFF,1=ON Bit21:CH6 0=OFF,1=ON Bit22:CH7 0=OFF,1=ON Bit23:CH8 0=OFF,1=ON Bit24~31:CH MODE 0=AND,1=OR	SDI IN3,4 CH1~8=ON、AND モード 16711935	INTEGER	○

項番	オブジェクト識別子	アクセス	バイト数	内容	実装例	SYNTAX	TRAP
1415	smv70hMtBkDetLv	R/W	4	MUTE LEVEL、BLACK LEVEL の設定 Bit0~15:MUTE の検出レベル設定 0~20=-80~-60dBFS Bit16~31:BLACK の検出レベル設定 0~99(IRE)	MUTE レベル-80dBFS、 BLACK レベル 0IRE 0	INTEGER	○
1416	smv70hs12BkDetTm1	R/W	4	SDI IN1,2 の BLACK エラーの検出時間の設定 1 Bit0~15:SDI IN1 TIME1 Bit16~31:SDI IN2 TIME1 0~660(秒)	SDI IN1 TIME1=5 秒 SDI IN2 TIME1=5 秒 327685	INTEGER	○
1417	smv70hs34BkDetTm1	R/W	4	SDI IN3,4 の BLACK エラーの検出時間の設定 1 Bit0~15:SDI IN3 TIME1 Bit16~31:SDI IN4 TIME1 0~660(秒)	SDI IN3 TIME1=5 秒 SDI IN4 TIME1=5 秒 327685	INTEGER	○
1418	smv70hs12BkDetTm2	R/W	4	SDI IN1,2 の BLACK エラーの検出時間の設定 2 Bit0~15:SDI IN1 TIME2 Bit16~31:SDI IN2 TIME2 0~660(秒)	SDI IN1 TIME2=5 秒 SDI IN2 TIME2=5 秒 327685	INTEGER	○
1419	smv70hs34BkDetTm2	R/W	4	SDI IN3,4 の BLACK エラーの検出時間の設定 2 Bit0~15:SDI IN3 TIME2 Bit16~31:SDI IN4 TIME2 0~660(秒)	SDI IN3 TIME2=5 秒 SDI IN4 TIME2=5 秒 327685	INTEGER	○
1420	smv70hs12BkDetTm3	R/W	4	SDI IN1,2 の BLACK エラーの検出時間の設定 3 Bit0~15:SDI IN1 TIME3 Bit16~31:SDI IN2 TIME3 0~660(秒)	SDI IN1 TIME3=5 秒 SDI IN2 TIME3=5 秒 327685	INTEGER	○
1421	smv70hs34BkDetTm3	R/W	4	SDI IN3,4 の BLACK エラーの検出時間の設定 3 Bit0~15:SDI IN3 TIME3 Bit16~31:SDI IN4 TIME3 0~660(秒)	SDI IN3 TIME3=5 秒 SDI IN4 TIME3=5 秒 327685	INTEGER	○
1422	smv70hs12FzDetTm1	R/W	4	SDI IN1,2 の FREEZE エラーの検出時間の設定 1 Bit0~15:SDI IN1 TIME1 Bit16~31:SDI IN2 TIME1 0~19800(frame)	SDI IN1 TIME1=150frame SDI IN2 TIME1=150frame 9830550	INTEGER	○
1423	smv70hs34FzDetTm1	R/W	4	SDI IN3,4 の FREEZE エラーの検出時間の設定 1 Bit0~15:SDI IN1 TIME1 Bit16~31:SDI IN2 TIME1 0~19800(frame)	SDI IN3 TIME1=150frame SDI IN4 TIME1=150frame 9830550	INTEGER	○
1424	smv70hs12FzDetTm2	R/W	4	SDI IN1,2 の FREEZE エラーの検出時間の設定 2 Bit0~15:SDI IN1 TIME2 Bit16~31:SDI IN2 TIME2 0~19800(frame)	SDI IN1 TIME2=150frame SDI IN2 TIME2=150frame 9830550	INTEGER	○
1425	smv70hs34FzDetTm2	R/W	4	SDI IN3,4 の FREEZE エラーの検出時間の設定 2 Bit0~15:SDI IN1 TIME2 Bit16~31:SDI IN2 TIME2 0~19800(frame)	SDI IN3 TIME2=150frame SDI IN4 TIME2=150frame 9830550	INTEGER	○

項番	オブジェクト識別子	アクセス	バイト数	内容	実装例	SYNTAX	TRAP
1426	smv70hs12FzDetTm3	R/W	4	SDI IN1,2 の FREEZE エラーの検出時間の設定 3 Bit0~15: SDI IN1 TIME3 Bit16~31: SDI IN2 TIME3 0~19800(frame)	SDI IN1 TIME3=150frame SDI IN2 TIME3=150frame 9830550	INTEGER	○
1427	smv70hs34FzDetTm3	R/W	4	SDI IN3,4 の FREEZE エラーの検出時間の設定 3 Bit0~15: SDI IN1 TIME3 Bit16~31: SDI IN2 TIME3 0~19800(frame)	SDI IN3 TIME3=150frame SDI IN4 TIME3=150frame 9830550	INTEGER	○
1428	smv70hs12BIDetTm1	R/W	4	SDI IN1,2 の BLUE エラーの検出時間の設定 1 Bit0~15: SDI IN1 TIME1 Bit16~31: SDI IN2 TIME1 0~660(秒)	SDI IN1 TIME1=5 秒 SDI IN2 TIME1=5 秒 327685	INTEGER	○
1429	smv70hs34BIDetTm1	R/W	4	SDI IN3,4 の BLUE エラーの検出時間の設定 1 Bit0~15: SDI IN1 TIME1 Bit16~31: SDI IN2 TIME1 0~660(秒)	SDI IN3 TIME1=5 秒 SDI IN4 TIME1=5 秒 327685	INTEGER	○
1430	smv70hs12BIDetTm2	R/W	4	SDI IN1,2 の BLUE エラーの検出時間の設定 2 Bit0~15: SDI IN1 TIME2 Bit16~31: SDI IN2 TIME2 0~660(秒)	SDI IN1 TIME2=5 秒 SDI IN2 TIME2=5 秒 327685	INTEGER	○
1431	smv70hs34BIDetTm2	R/W	4	SDI IN3,4 の BLUE エラーの検出時間の設定 2 Bit0~15: SDI IN1 TIME2 Bit16~31: SDI IN2 TIME2 0~660(秒)	SDI IN3 TIME2=5 秒 SDI IN4 TIME2=5 秒 327685	INTEGER	○
1432	smv70hs12BIDetTm3	R/W	4	SDI IN1,2 の BLUE エラーの検出時間の設定 3 Bit0~15: SDI IN1 TIME3 Bit16~31: SDI IN2 TIME3 0~660(秒)	SDI IN1 TIME3=5 秒 SDI IN2 TIME3=5 秒 327685	INTEGER	○
1433	smv70hs34BIDetTm3	R/W	4	SDI IN3,4 の BLUE エラーの検出時間の設定 3 Bit0~15: SDI IN1 TIME3 Bit16~31: SDI IN2 TIME3 0~660(秒)	SDI IN3 TIME3=5 秒 SDI IN4 TIME3=5 秒 327685	INTEGER	○
1434	smv70hs12CpDetTm1	R/W	4	SDI IN1,2 の COMPARE エラーの検出時間の設定 1 Bit0~15: SDI IN1 TIME1 Bit16~31: SDI IN2 TIME1 0~19800(frame)	SDI IN1 TIME1=150frame SDI IN2 TIME1=150frame 9830550	INTEGER	○
1435	smv70hs34CpDetTm1	R/W	4	SDI IN3,4 の COMPARE エラーの検出時間の設定 1 Bit0~15: SDI IN1 TIME1 Bit16~31: SDI IN2 TIME1 0~19800(frame)	SDI IN3 TIME1=150frame SDI IN4 TIME1=150frame 9830550	INTEGER	○
1436	smv70hs12CpDetTm2	R/W	4	SDI IN1,2 の COMPARE エラーの検出時間の設定 2 Bit0~15: SDI IN1 TIME2 Bit16~31: SDI IN2 TIME2 0~19800(frame)	SDI IN1 TIME2=150frame SDI IN2 TIME2=150frame 9830550	INTEGER	○

項番	オブジェクト識別子	アクセス	バイト数	内容	実装例	SYNTAX	TRAP
1437	smv70hs34CpDetTm2	R/W	4	SDI IN3,4 の COMPARE エラーの検出時間の設定 2 Bit0~15:SDI IN1 TIME2 Bit16~31:SDI IN2 TIME2 0~19800(frame)	SDI IN3 TIME2=150frame SDI IN4 TIME2=150frame 9830550	INTEGER	○
1438	smv70hs12CpDetTm3	R/W	4	SDI IN1,2 の COMPARE エラーの検出時間の設定 3 Bit0~15:SDI IN1 TIME3 Bit16~31:SDI IN2 TIME3 0~19800(frame)	SDI IN1 TIME3=150frame SDI IN2 TIME3=150frame 9830550	INTEGER	○
1439	smv70hs34CpDetTm3	R/W	4	SDI IN3,4 の COMPARE エラーの検出時間の設定 3 Bit0~15:SDI IN1 TIME3 Bit16~31:SDI IN2 TIME3 0~19800(frame)	SDI IN3 TIME3=150frame SDI IN4 TIME3=150frame 9830550	INTEGER	○
1440	smv70hCpMode	R/W	4	COMPARE モード 0=ALL(4 画面) 1=PAIE(12/34)	ALL 0	INTEGER	○
1441	smv70hCpDelay	R/W	4	COMPARE DEIAY 設定 Bit0~7:SDI IN1 の DELAY Bit8~15:SDI IN2 の DELAY Bit16~23:SDI IN3 の DELAY Bit24~31:SDI IN4 の DELAY 0~240	SDI1~4 DELAY0 0	INTEGER	○
1442	smv70hCpFrame	R/W	4	COMPARE FRAMEとRANGEの設定 Bit0~15:FRAME 1~3 Bit16~31:RANGE 80~100	FRAME=1、RANGE=80 5242881	INTEGER	○
1443	smv70hs12StDetTm1	R/W	4	SDI IN1,2 の STILL エラーの検出時間の設定 1 Bit0~15:SDI IN1 TIME1 Bit16~31:SDI IN2 TIME1 0~19800(frame)	SDI IN1 TIME1=150frame SDI IN2 TIME1=150frame 9830550	INTEGER	○
1444	smv70hs34StDetTm1	R/W	4	SDI IN3,4 の STILL エラーの検出時間の設定 1 Bit0~15:SDI IN1 TIME1 Bit16~31:SDI IN2 TIME1 0~19800(frame)	SDI IN3 TIME1=150frame SDI IN4 TIME1=150frame 9830550	INTEGER	○
1445	smv70hs12StDetTm2	R/W	4	SDI IN1,2 の STILL エラーの検出時間の設定 2 Bit0~15:SDI IN1 TIME2 Bit16~31:SDI IN2 TIME2 0~19800(frame)	SDI IN1 TIME2=150frame SDI IN2 TIME2=150frame 9830550	INTEGER	○
1446	smv70hs34StDetTm2	R/W	4	SDI IN3,4 の STILL エラーの検出時間の設定 2 Bit0~15:SDI IN1 TIME2 Bit16~31:SDI IN2 TIME2 0~19800(frame)	SDI IN3 TIME2=150frame SDI IN4 TIME2=150frame 9830550	INTEGER	○
1447	smv70hs12StDetTm3	R/W	4	SDI IN1,2 の STILL エラーの検出時間の設定 3 Bit0~15:SDI IN1 TIME3 Bit16~31:SDI IN2 TIME3 0~19800(frame)	SDI IN1 TIME3=150frame SDI IN2 TIME3=150frame 9830550	INTEGER	○
1448	smv70hs34StDetTm3	R/W	4	SDI IN3,4 の STILL エラーの検出時間の設定 3 Bit0~15:SDI IN1 TIME3 Bit16~31:SDI IN2 TIME3 0~19800(frame)	SDI IN3 TIME3=150frame SDI IN4 TIME3=150frame 9830550	INTEGER	○

項番	オブジェクト識別子	アクセス	バイト数	内容	実装例	SYNTAX	TRAP
1449	smv70hs12StComp	R/W	4	SDI IN1,2 の STILL エラー検出の COMPARE 設定 Bit0~15: SDI IN1 Bit16~31: SDI IN2 1~10=PIX1~PIX10 11=VARI	SDI IN1=PIX1 SDI IN2=PIX1 65537	INTEGER	○
1450	smv70hs34StComp	R/W	4	SDI IN3,4 の STILL エラー検出の COMPARE 設定 Bit0~15: SDI IN3 Bit16~31: SDI IN4 1~10=PIX1~PIX10 11=VARI	SDI IN3=PIX1 SDI IN4=PIX1 65537	INTEGER	○
1451	smv70hs12StVari	R/W	4	SDI IN1,2 の STILL エラー検出の COMPARE VARI 設定 Bit0~15: SDI IN1 Bit16~31: SDI IN2 1~100	SDI IN1,2 VARI=1 65537	INTEGER	○
1452	smv70hs34StVari	R/W	4	SDI IN3,4 の STILL エラー検出の COMPARE VARI 設定 Bit0~15: SDI IN3 Bit16~31: SDI IN4 1~100	SDI IN3,4 VARI=1 65537	INTEGER	○
1453	smv70hs12StHit	R/W	4	SDI IN1,2 の STILL エラー検出の PIXEL HIT 設定 Bit0~15: SDI IN1 Bit16~31: SDI IN2 700~1000=70.0~100%	SDI IN1,2 HIT=100.0 65537000	INTEGER	○
1454	smv70hs34StHit	R/W	4	SDI IN3,4 の STILL エラー検出の PIXEL HIT 設定 Bit0~15: SDI IN3 Bit16~31: SDI IN4 700~1000=70.0~100%	SDI IN3,4 HIT=100.0 65537000	INTEGER	○
1500	smv70hs1MaskPara	R/W	4	SDI IN1 MASK のパラメータ設定 Bit0~7: ON/OFF 0=OFF 1=ON Bit8~15: REVERS 0=OFF 1=ON 16~23: PRESET 0~7=PRESET1~8	MASK OFF、REVERS OFF、 PRESET1 0	INTEGER	○
1501	smv70hs2MaskPara	R/W	4	SDI IN2 MASK のパラメータ設定 項番 1500 と同じ	項番 1500 と同じ	INTEGER	○
1502	smv70hs3MaskPara	R/W	4	SDI IN3 MASK のパラメータ設定 項番 1500 と同じ	項番 1500 と同じ	INTEGER	○
1503	smv70hs4MaskPara	R/W	4	SDI IN4 MASK のパラメータ設定 項番 1500 と同じ	項番 1500 と同じ	INTEGER	○
1504	smv70hs1MaskHposi	R/W	4	SDI IN1 MASK PRESET1~8 の H POSI 設定 Bit0~15: LEFT POSI Bit16~31: RIGHT POSI ※1500 で PRESET 番号を設定してから SET、GET してください。 0~1919 ※LEFT < RIGHT	LEFT=960、RIGHT=1060 69469020	INTEGER	○
1505	smv70hs2MaskHposi	R/W	4	SDI IN2 MASK PRESET1~8 の H POSI 設定 項番 1504 と同じ ※1501 で PRESET 番号を設定してから SET、GET してください。	項番 1504 と同じ	INTEGER	○

項番	オブジェクト識別子	アクセス	バイト数	内容	実装例	SYNTAX	TRAP
1506	smv70hs3MaskHposi	R/W	4	SDI IN3 MASK PRESET1~8 の HPOSI 設定 項番 1504 と同じ ※1502 で PRESET 番号を設定してから SET、GET してください。	項番 1504 と同じ	INTEGER	○
1507	smv70hs4MaskHposi	R/W	4	SDI IN4 MASK PRESET1~8 の HPOSI 設定 項番 1504 と同じ ※1503 で PRESET 番号を設定してから SET、GET してください。	項番 1504 と同じ	INTEGER	○
1508	smv70hs1MaskVposi	R/W	4	SDI IN1 MASK PRESET1~8 の V POSI 設定 Bit0~15: TOP POSI Bit16~31: BOTTOM POSI ※1500 で PRESET 番号を設定してから SET、GET してください。 0~1079 ※TOP < BOTTOM	TOP=440、BOTTOM=640 41943480	INTEGER	○
1509	smv70hs2MaskVposi	R/W	4	SDI IN2 MASK PRESET1~8 の V POSI 設定 項番 1508 と同じ ※1501 で PRESET 番号を設定してから SET、GET してください。 0~1079 ※TOP < BOTTOM	項番 1508 と同じ	INTEGER	○
1510	smv70hs3MaskVposi	R/W	4	SDI IN3 MASK PRESET1~8 の V POSI 設定 項番 1508 と同じ ※1502 で PRESET 番号を設定してから SET、GET してください。 0~1079 ※TOP < BOTTOM	項番 1508 と同じ	INTEGER	○
1511	smv70hs4MaskVposi	R/W	4	SDI IN4 MASK PRESET1~8 の V POSI 設定 項番 1508 と同じ ※1503 で PRESET 番号を設定してから SET、GET してください。 0~1079 ※TOP < BOTTOM	項番 1508 と同じ	INTEGER	○
1512	smv70hMaskLevel	R/W	4	MASK LEVEL の設定 0~3=1~4	MASK LEVEL4 3	INTEGER	○
1600	smv70hGpiHoldMode	R/W	4	エラー検知保持の設定 0=OFF(保持しない) 1=ON(保持する)	保持しない 0	INTEGER	○
1601	smv70hGpiHoldRst	R/W	4	エラー検知保持の解除 1=エラー解除	読み出しは常に 0	INTEGER	○
1602	smv70hHoldTime	R/W	4	ホールドモードの自動リセット時間を設定します。 0=自動リセットなし 1~99=自動リセット時間(分)	自動リセットなし 0	INTEGER	○

項番	オブジェクト識別子	アクセス	バイト数	内容	実装例	SYNTAX	TRAP
1603	smv70hGpiIn1	R/W	4	GPI IN フリーアサインの設定 Bit0~7:IN1 の設定 Bit8~15:IN2 の設定 Bit16~23:IN3 の設定 Bit24~31:IN4 の設定 設定 0=OFF 1=S1 OA TALLY 2=S1 NX TALLY 3=S2 OA TALLY 4=S2 NX TALLY 5=S3 OA TALLY 6=S3 NX TALLY 7=S4 OA TALLY 8=S4 NX TALLY 9=DET START 10=DET STOP 11=OUT2 4S 12=OUT2 S1 13=OUT2 S2 14=OUT2 S3 15=OUT2 S4 16=OUT2 SEQ 17=OUT2 TIME 18=HOLD RESET	IN1~IN4 OFF 0	INTEGER	○
1604	smv70hGpiIn2	R/W	4	GPI IN フリーアサインの設定 Bit0~7:IN5 の設定 Bit8~15:IN6 の設定 設定は項番 1603 と同じ	IN5~IN6 OFF 0	INTEGER	○

項番	オブジェクト識別子	アクセス	バイト数	内容	実装例	SYNTAX	TRAP
1605	smv70hGpiOut	R/W	4	GPI OUT フリーアサインの設定 Bit0~7: OUT1 の設定 Bit8~15: OUT2 の設定 設定 0=OFF 1=S1 OA TALLY 2=S1 NX TALLY 3=S2 OA TALLY 4=S2 NX TALLY 5=S3 OA TALLY 6=S3 NX TALLY 7=S4 OA TALLY 8=S4 NX TALLY 9=DET START 10=DET STOP 11=OUT2 4S 12=OUT2 S1 13=OUT2 S2 14=OUT2 S3 15=OUT2 S4 16=OUT2 SEQ 17=OUT2 TIME 18=S1 ERROR 19=S1 ERR123 20=S1 ERR1 21=S1 ERR2 22=S1 ERR3 23=S1 ERR12 24=S1 ERR23 25=S1 ERR13 26=S2 ERROR 27=S2 ERR123 28=S2 ERR1 29=S2 ERR2 30=S2 ERR3 31=S2 ERR12 32=S2 ERR23 33=S2 ERR13 34=S3 ERROR 35=S3 ERR123 36=S3 ERR1 37=S3 ERR2 38=S3 ERR3 39=S3 ERR12 40=S3 ERR23 41=S3 ERR13 42=S4 ERROR 43=S4 ERR123 44=S4 ERR1 45=S4 ERR2 46=S4 ERR3 47=S4 ERR12 48=S4 ERR23 49=S4 ERR13	OUT1~OUT2 OFF 0	INTEGER	○
1606	smv70hGpiExtIn1	R/W	4	GPI EXT IN1~4 フリーアサインの設定 Bit0~7: EXT IN1 の設定 Bit8~15: EXT IN2 の設定 Bit16~23: EXT IN3 の設定 Bit24~31: EXT IN4 の設定 設定は項番 1603 と同じ	EXT IN1~4 OFF 0	INTEGER	○

項番	オブジェクト識別子	アクセス	バイト数	内容	実装例	SYNTAX	TRAP
1607	smv70hGpiExtIn2	R/W	4	GPI EXT IN5~8 フリーアサインの設定 Bit0~7:EXT IN5 の設定 Bit8~15:EXT IN6 の設定 Bit16~23:EXT IN7 の設定 Bit24~31:EXT IN8 の設定 設定は項番 1603 と同じ	EXT IN5~8 OFF 0	INTEGER	○
1608	smv70hGpiExtIn3	R/W	4	GPI EXT IN9~12 フリーアサインの設定 Bit0~7:EXT IN9 の設定 Bit8~15:EXT IN10 の設定 Bit16~23:EXT IN11 の設定 Bit24~31:EXT IN12 の設定 設定は項番 1603 と同じ	EXT IN9~12 OFF 0	INTEGER	○
1609	smv70hGpiExtIn4	R/W	4	GPI EXT IN13~16 フリーアサインの設定 Bit0~7:EXT IN13 の設定 Bit8~15:EXT IN14 の設定 Bit16~23:EXT IN15 の設定 Bit24~31:EXT IN16 の設定 設定は項番 1603 と同じ	EXT IN13~16 OFF 0	INTEGER	○
1610	smv70hGpiExtOut1	R/W	4	GPI EXT OUT1~4 フリーアサインの設定 Bit0~7:EXT OUT1 の設定 Bit8~15:EXT OUT2 の設定 Bit16~23:EXT OUT3 の設定 Bit24~31:EXT OUT4 の設定 設定は項番 1605 と同じ	EXT OUT1~4 OFF 0	INTEGER	○
1611	smv70hGpiExtOut2	R/W	4	GPI EXT OUT5~8 フリーアサインの設定 Bit0~7:EXT OUT5 の設定 Bit8~15:EXT OUT6 の設定 Bit16~23:EXT OUT7 の設定 Bit24~31:EXT OUT8 の設定 設定は項番 1605 と同じ	EXT OUT5~8 OFF 0	INTEGER	○
1612	smv70hGpiExtOut3	R/W	4	GPI EXT OUT9~12 フリーアサインの設定 Bit0~7:EXT OUT9 の設定 Bit8~15:EXT OUT10 の設定 Bit16~23:EXT OUT11 の設定 Bit24~31:EXT OUT12 の設定 設定は項番 1605 と同じ	EXT OUT9~12 OFF 0	INTEGER	○
1613	smv70hGpiExtOut4	R/W	4	GPI EXT OUT13~16 フリーアサインの設定 Bit0~7:EXT OUT13 の設定 Bit8~15:EXT OUT14 の設定 Bit16~23:EXT OUT15 の設定 Bit24~31:EXT OUT16 の設定 設定は項番 1605 と同じ	EXT OUT13~16 OFF 0	INTEGER	○

項番	オブジェクト識別子	アクセス	バイト数	内容	実装例	SYNTAX	TRAP
1700	smv70hDisplay	R/W	4	表示器、オンスクリーンの設定 Bit0~7:SCREEN SAVER 0=OFF 1=NAME ROLL 2=DIM 70% 3=DIM 50% 4=DIM 30% Bit8~15:OUT1 OSD ENABLE 0=DISABLE 1=ENABLE Bit16~23:OUT2 OSD ENABLE 0=DISABLE 1=ENABLE Bit16~23:OSD 0=DISABLE 1=ENABLE Bit24~31:OSD BRIGHT 0~100	SCREEN SAVER=50%、 OUT1 OSD ENABLE=ENABLE OUT2 OSD ENABLE=ENABLE OSD BRIGHT=100 1677787395	INTEGER	○
1701	smv70hOsdInfo	R/W	4	オンスクリーン INFO の設定 Bit0~7:OUT1 OSD INFO 0=DISABLE 1=STATUS 2=LOG Bit8~15:OUT2 OSD INFO 0=DISABLE 1=STAUS 2=LOG	OUT1,2 DISABLE 0	INTEGER	○
1702	smv70hScr4Sel	R/W	4	4 画面の表示画面設定 Bit0~7:TOP LEFT SEL Bit8~15:TOP RIGHT SEL Bit16~23:BOTTOM LEFT SEL Bit24~31:BOTTOM RIGHT SEL 0=SDI IN1 1=SDI IN2 2=SDI IN3 3=SDI IN4 4=BLACK 5=TIME	TOP LEFT SEL=SDI IN1 TOP RIGHT SEL=SDI IN2 BOTTOM LEFT SEL=SDI IN3 BOTTOM RIGHT SEL=SDI IN4 50462976	INTEGER	○
1703	smv70hScr4Chr	R/W	4	4 画面のキャラクター表示設定 Bit0~7:TOP LEFT CHR Bit8~15:TOP RIGHT CHR Bit16~23:BOTTOM LEFT CHR Bit24~31:BOTTOM RIGHT CHR 0=OFF 1=AUTO UP 2=AUTO LOW 3=TITLE UP 4=TITLE LOW	TOP LEFT CHR=OFF TOP RIGHT CHR=OFF BOTTOM LEFT CHR=OFF BOTTOM RIGHT CHR=OFF 0	INTEGER	○

項番	オブジェクト識別子	アクセス	バイト数	内容	実装例	SYNTAX	TRAP
1704	smv70hScr4SeqPara	R/W	4	4画面とSEQUENTIAL画面の設定 Bit0:4 画面 AUDIO METER Bit1:4 画面 INFO Bit2:4 画面 ERROR FRAME Bit3:4 画面 JINGLE Bit0:SEQUENTIAL画面 AUDIO METER Bit1::SEQUENTIAL画面 INFO Bit2::SEQUENTIAL画面 ERROR FRAME Bit3::SEQUENTIAL画面 JINGLE '0'=OFF '1'=ON	全て OFF 0	INTEGER	○
1705	smv70hScr4Audio	R/W	4	4画面のAUDIO選択 0=TOP LEFT 1=TOP RIGHT 2=BOTTOM LEFT 3=BOTTOM RIGHT 4=SDI IN1 5=SDI IN2 6=SDI IN3 7=SDI IN4 8=MUTE	TOP LEFT 0	INTEGER	○
1706	smv70hTallyType	R/W	4	TALLYパターンの選択 0=DISABLE 1=TALLY1 2=TALLY2	DISABLE 0	INTEGER	○
1707	smv70hSeqTime	R/W	4	SEQUENTIAL表示の切替時間設定 1~180(秒)	5秒 5	INTEGER	○
1708	smv70hSeqSel	R/W	4	SEQUENTIAL表示の設定 Bit0~7:SDI IN1 Bit8~15:SDI IN2 Bit15~23:SDI IN3 Bit24~31:SDI IN4 設定内容 0=DISABLE 1=ENABLE	全て DISABLE 0	INTEGER	○
1709	smv70hSeqChr	R/W	4	SEQUENTIAL画面のキャラクター表示設定 0=OFF 1=AUTO UP 2=AUTO LOW 3=TITLE UP 4=TITLE LOW	OFF0	INTEGER	○
1710	smv70hs1Title	R/W	4	SDI IN1のタイトル文字 ASCII、シフトJIS 最大20文字		STRING	○
1711	smv70hs2Title	R/W	4	SDI IN2のタイトル文字 ASCII、シフトJIS 最大20文字		STRING	○
1712	smv70hs3Title	R/W	4	SDI IN3のタイトル文字 ASCII、シフトJIS 最大20文字		STRING	○
1713	smv70hs4Title	R/W	4	SDI IN4のタイトル文字 ASCII、シフトJIS 最大20文字		STRING	○
1714	smv70hTimeDspSel	R/W	4	TIME画面の設定 0=BLACK 1=SDI IN1 2=SDI IN2 3=SDI IN3 4=SDI IN4	BLACK 0	INTEGER	○

項番	オブジェクト識別子	アクセス	バイト数	内容	実装例	SYNTAX	TRAP
1800	smv70hs1PayloadIn1	R/O	4	SDI IN1 ID1 PAYLOAD なしの場合は、 "-----"	"00 00 00 00"	STRING	○
1801	smv70hs1PayloadIn2	R/O	4	SDI IN1 ID2 PAYLOAD なしの場合は、 "-----"	"00 00 00 00"	STRING	○
1802	smv70hs2PayloadIn1	R/O	4	SDI IN2 ID1 PAYLOAD なしの場合は、 "-----"	"00 00 00 00"	STRING	○
1803	smv70hs2PayloadIn2	R/O	4	SDI IN2 ID2 PAYLOAD なしの場合は、 "-----"	"00 00 00 00"	STRING	○
1804	smv70hs3PayloadIn1	R/O	4	SDI IN3 ID1 PAYLOAD なしの場合は、 "-----"	"00 00 00 00"	STRING	○
1805	smv70hs3PayloadIn2	R/O	4	SDI IN3 ID2 PAYLOAD なしの場合は、 "-----"	"00 00 00 00"	STRING	○
1806	smv70hs4PayloadIn1	R/O	4	SDI IN4 ID1 PAYLOAD なしの場合は、 "-----"	"00 00 00 00"	STRING	○
1807	smv70hs4PayloadIn2	R/O	4	SDI IN4 ID2 PAYLOAD なしの場合は、 "-----"	"00 00 00 00"	STRING	○
1808	smv70hPayloadOut1	R/O	4	SDI OUT ID1 PAYLOAD なしの場合は、 "-----"	"00 00 00 00"	STRING	○
1809	smv70hPayloadOut2	R/O	4	SDI OUT ID2 PAYLOAD なしの場合は、 "-----"	"00 00 00 00"	STRING	○
1900	smv70hInitCond	R/W	4	設定の初期化 1=初期化実行	読み出しは常に 0	INTEGER	○
1901	smv70hFlashFormat	R/W	4	内臓 FLASH を再フォーマットし、ログを初期化 1=フォーマット実行	読み出しは常に 0	INTEGER	○
1902	smv70hs1ErrDump	R/O	4	SDI IN1 エラーの状態 ビット対応、ERROR DETECT OFF/OR/AND の設定に関係なく 検出、MUTE~STILL までの項目 は 1 秒以上で検出 Bit0=SDI SIGNAL Bit1=TRS Bit2=LINE NUMBER Bit3=CRC Y Bit4=CRC C Bit5=LINE LENGTH Bit6=FIELD LENGTH Bit7=RESERVED DATA Bit8=NO EDH Bit9=EDH Bit10=ANC PARTY Bit11=ANC CHECKSUM Bit12=BCH Bit13=AUDIO PACKET Bit14=NO AUDIO Bit15=MUTE Bit16=BLACK Bit17=FREEZE Bit18=BLUE Bit19=COMPARE Bit20=STILL Bit21=ASYNC	エラーなし 0	INTEGER	○

項番	オブジェクト識別子	アクセス	バイト数	内容	実装例	SYNTAX	TRAP
1903	smv70hs2ErrDump	R/O	4	SDI IN2 エラーの状態 項番 1902 と同じ	エラーなし 0	INTEGER	○
1904	smv70hs3ErrDump	R/O	4	SDI IN3 エラーの状態 項番 1902 と同じ	エラーなし 0	INTEGER	○
1905	smv70hs4ErrDump	R/O	4	SDI IN4 エラーの状態 項番 1902 と同じ	エラーなし 0	INTEGER	○
1906	smv70hs12MtErrCh	R/O	4	SDI IN1,2 MUTE ERROR CHANNEL Bit0~15: SDI IN1 Bit0=CH1~Bit7=CH8 Bit16~31: SDI IN2 Bit16=CH1~Bit23=CH8 ※チャンネルごとに MUTE を検出した時“1”に変化。ErrDump の MUTE が“1”になっている時に参照できます、通常は全て“0”	SDI IN1,2 全 CH エラーなし 0	INTEGER	○
1907	smv70hs34MtErrCh	R/O	4	SDI IN3,4 MUTE ERROR CHANNEL Bit0~15: SDI IN3 Bit0=CH1~Bit7=CH8 Bit16~31: SDI IN4 Bit16=CH1~Bit23=CH8 ※チャンネルごとに MUTE を検出した時“1”に変化。ErrDump の MUTE が“1”になっている時に参照できます、通常は全て“0”	SDI IN3,4 全 CH エラーなし 0	INTEGER	○

8. トラブルシューティング

トラブルが発生した場合の対処方法です。
(文中の→は対処方法を示しています)

現象 動作しない。

- 原因
- ・筐体正面の電源スイッチはON側になっていますか？
 - ・筐体の電源ケーブルのプラグはコンセントに挿入されていますか？
 - ・筐体のヒューズは切れていませんか？
 - ・メインモジュールは正しく挿入されていますか？
- もし交換してすぐにヒューズが切れるようであれば直ちに使用を中止し、弊社へお問い合わせください。

現象 映像がまったく表示されない。

- 原因
- ・入力映像信号は正しいですか？
 - ・コネクタモジュールはSMV-70H用ですか？
 - ・ケーブルの接続は正しいですか？
- 「3.各部の名称と働き」を参考にして、コネクタとケーブルが正確に接続されているかご確認ください。

現象 ログの時刻が正しくない。

- 原因
- ・本体のTIMEの設定(MENU→SYSTEM→SYSTEM TIME)は正しく設定されていますか？
 - ・筐体の内蔵時計は正しく設定されていますか？
- 本体のTIME設定と筐体の内蔵時計とは、直近に設定がされた方の時刻に設定されます。

現象 ログが保存できない。

- 原因
- ・フラッシュメモリーの書き込み寿命を超えている可能性があります。
- 「3.各機能の説明/(1)ERROR LOG/3)LOG CLEAR」を参照し、ログをクリアしてください。クリアしてもログが保存できない場合は弊社へお問い合わせください。

お問い合わせは、当社サポートセンターまでご連絡ください。

9. 仕様

1. 機能

エラーログ	各SDI入力に対して約10,000イベントまで記録保存し、超えた時は順次古いイベントから削除されます。 イベント内容は、日付、時間、エラー内容です。
エラーカウント	オンスクリーン表示では999カウント、MIBでは256カウントまでに対応しています。
信号検出項目	
・ SDI SIGNAL	SDI信号のなし
・ TRS	映像タイミング基準コード(TRS)のエラー
・ LINE NUMBER	ラインナンバーエラー
・ CRC Y	Yデータ系列CRCエラー
・ CRC C	Cb,Crデータ系列CRCエラー
・ LINE LENGTH	1ラインの長さエラー
・ FIELD LENGTH	1フィールドの長さエラー
・ RESERVED DATA	リザーブドデータエラー
・ ANC PARITY	補助データパケットのパリティエラー
・ ANC CHECKSUM	補助データパケットのチェックサムエラー
・ BCH	エンベデッド・オーディオのエラー
・ AUDIO PACKET	エンベデッド・オーディオ・パケットのデータブロック番号インクリメントエラー
・ NO AUDIO PACKET	エンベデッド・オーディオ・パケットなし
・ MUTE	オーディオ無音検出 (1~8CH 対応)
・ BLACK	黒味検出
・ BLUE	青色検出
・ FREEZE	フリーズ検出 (映像データが完全に静止した静止画用)
・ STILL	スチル検出 (フレーム間で圧縮した映像やノイズがある静止画用) ※3G-SDIではご使用になれません
・	
・ COMPARE	SDI入力信号の映像比較
・ ASYNC	SDI入力信号のリファレンス信号に対する非同期状態を検出
4分割表示	SDI IN 1~4を4分割して表示します。
全画面表示	指定した入力を全画面に表示、シーケンシャル表示にも対応します。
音声レベルメーター表示	各入力チャンネルのエンベデッド音声をピークレベルで表示します。
ON AIR/NEXTタリー表示	外部接点で任意のチャンネルに赤及び緑のタリーを表示します。
エラー枠の表示	エラーを検出した時に赤色の画枠を表示します。
GPI入力	タリー表示制御もしくは全画面表示制御の入力が可能です。
GPI出力	SDI入力信号のエラー等の出力が可能です。
オンスクリーンメニュー	各機能の設定項目やエラーログの表示が可能です。

2. 定 格

(1)SMV-70H 本体

入力信号	
・ SDI IN 1~4	SMPTE424M/292M準拠 0.8V _{p-p} /75Ω BNC 4系統
出力信号	
・ SDI OUT 1, 2	SMPTE424M/292M準拠 0.8V _{p-p} 75Ω BNC 2系統
外部I/F	
・ GPI	接点入力×6、出力×2 Dsub-15(f) 1系統 ※1 TTL信号で制御する際は、吸い込み電流が12mAまで 耐えられるデバイスで駆動してください。 ※2 接点の絶対最大定格は60V、300mAです。外部抵抗で 電流を300mA以下に制限してください。
映像フォーマット	1080p60/59.94/50(Level-A) 1080p30/29.97/25/24/23.98 1080sF30/29.97/25/24/23.98 1080i60/59.94/50
動作温度・動作湿度	0~40℃ 20~80%RH(ただし結露なき事)
消費電力	12VA (5.0V 2.4A)
質量	0.4kg (コネクタモジュールを含む)

3. 性 能

(1)SMV-70H 本体

入力特性	
・ SDI IN 1~4	
分解能	10bit
サンプリング周波数	HD: 74.18MHz、3G: 148.35MHz
イコライザー特性	HD: 100m/5CFB、3G: 80m/5CFB
反射減衰量	5MHz~1.485GHz 15dB以上 1.485GHz~3GHz 10dB以上
出力特性	
・ SDI OUT 1, 2	
分解能	10bit
サンプリング周波数	HD-SDI: 74.18MHz、3G-SDI: 148.35MHz
信号振幅	0.8V _{p-p} ±10%/75Ω
反射減衰量	5MHz~1.485GHz 15dB以上 SD: 5 MHz~270MHz 15dB以上 1.485GHz~3GHz 10dB以上
立ち上がり/立ち下がり時間	HD: 270ps以下 (20%~80%間)、3G: 135ps以下 (20%~80%間)
オーバーシュート	10%以下
DCオフセット	0V±0.5V
ジッター特性	
アライメント	HD: 0.2UI以下、3G: 0.3UI以下
タイミング	HD: 1.0UI以下、3G: 2.0UI以下
入出力遅延	REFERENCE SELECTがEXT SUBの時 各映像フォーマットの約0.5~1.5フレーム REFERENCE SELECTがLINE DIRECTの時 各映像フォーマットの3ライン
GPI	
・ 接点入力	12mA 以上
・ 接点出力	60V/300mA 最大定格

10. その他

1. 出荷時設定に戻す

メインモジュール上の DIP スイッチの 8 番を ON にして電源を投入します。初期化中 SMS-70H 正面の表示器に「RST」と表示され、しばらくして通常表示になったら出荷時設定完了です。

出荷時設定完了は必ず DIP スイッチの 8 番を OFF に戻して再起動をしてください。

DIP スイッチの場所は、「図 3-1 各部の名称と働き」の(12)を参照してください。

2. GENLOCK PHASE 設定

(1) **MENU** → SYSTEM → REFERNCE SELECT → EXT SUB の時

筐体内部バスのリファレンス信号に同期します。

SDI 出力信号の位相は、GENLOCK PHASE の H と V のそれぞれの設定が 0 時、SDI 入力信号に対して 1 フレーム遅延した信号になります。

MENU → SYSTEM → GENLOCK PHASE の階層にて、H、V の位相を動かすことができます。

(2) **MENU** → SYSTEM → REFERNCE → LINE DIRECT の時

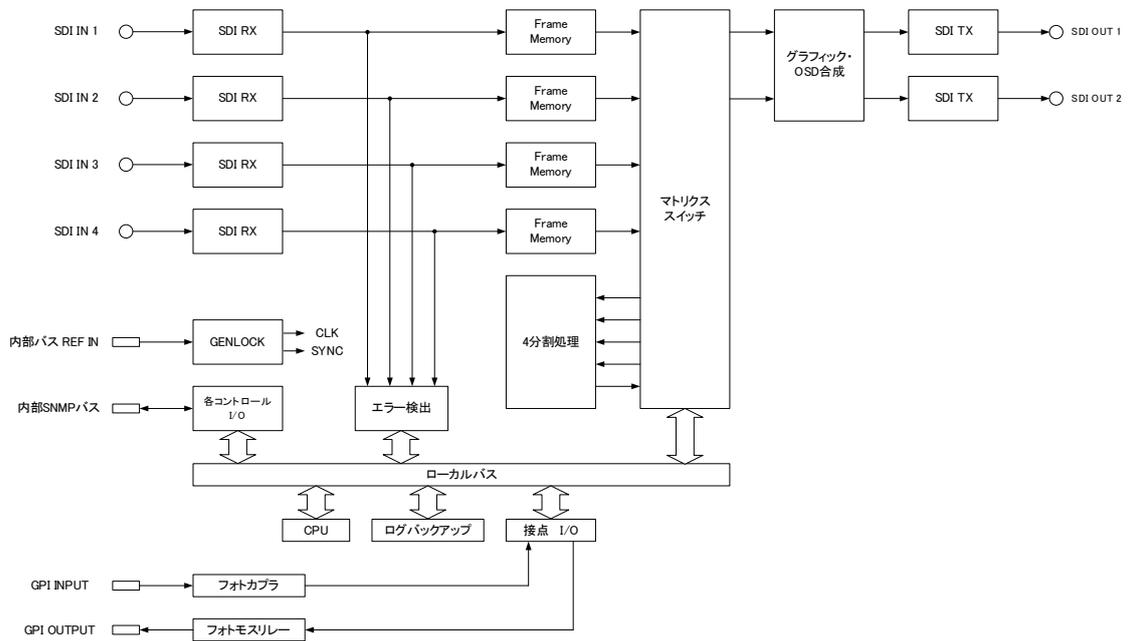
SDI IN 1 をリファレンス信号にします。

SDI 出力信号の位相は、SDI 入力信号に対して 3 ライン遅延した信号になります。

H、V の位相は調整できません。

なお、SDI IN 1 が未入力の時は自走モードになります。

11. ブロック図



無断転写禁止



- 本書の著作権はビデオトロン株式会社に帰属します。
- 本書に含まれる文書および図版の流用を禁止します。

お問い合わせ

製品に関するお問い合わせは、下記サポートダイヤルにて承ります。

本社営業部/サポートセンター TEL **042-666-6311**

大阪営業所 TEL **06-6195-8741**

ビデオトロン株式会社 E-Mail: sales@videotron.co.jp

本社 〒193-0835 東京都八王子市千人町 2-17-16

大阪営業所 〒532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島6-8-8 花原第8ビル 5F

ビデオトロンWEBサイト

<https://www.videotron.co.jp>

102192R00

本書の内容については、予告なしに変更する事がありますので予めご了承下さい。